

01

題材名 「つないで、つないで、一つのお話」(第1時/全1時間)

目標 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容をとらえ、自分の考えをまとめることができる。

◎ 進んでつながりをとらえながら話を聞き、見通しをもって話を作ろうとすることができる。

領域等 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 扉の詩を声に出して読ませ、心に残った言葉や表現を出し合わせる。 「扉の詩をみんなで声に出して読んでみよう」 「P.6『六年生の国語の学びを見わたそう』を読んでみよう」 ・ 目次や『六年生の国語の学びを見わたそう』を読ませ、既習事項を確かめ年間の国語学習を見わたすようにさせる。	・ 扉の詩を声を合わせて読む。 ・ 各自で読む。
展開 33分	② 題材名「つないで、つないで、一つのお話」を黒板に書く。 ③ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> みんなで一文ずつつないで、一つのお話を作ろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。 ・ P.13 を見てお話作りの方法を確認させる。 ④ お話を作るグループを作らせる。 「今日はみんなで一文ずつつないでお話を作ります。今からお話を作るグループを決めます。」 ・ 5～6人のグループを作ることができればよいが、クラスの人数に応じて対応する。 ⑤ 最初と最後の一文を考えさせ、グループで順番を決めさせる。 「これから作るお話の、最初の一文と最後の一文を決め、言う役とつなぐ順番を決めよう」 ○ 教科書を参考に、後に文を続けやすいように助言する。 ⑥ お話をつないでいくときに気をつけることやルールを確認する。 「お話をつなぐときに気をつけることはあるかな」 ○ 前の人のお話を正しく聞くこと、話に出てくる人物や場所、言葉の調子などに気をつけることを確かめる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。 ・ グループを作る。 ・ ワークシートに書く。
終末 2分	⑦ 前の人の内容に合うように、一人一人でお話を作り、つないでいくようにさせる。 「前の人のお話をよく聞いて、お話をつないでいこう」 ・ 順番に一文ずつ考えてつないでいき、2周して最後の一文で終わることを確認しておく。パスも認める。 ⑧ できた話をグループごとに発表し合わせ、感想を書かせる。 「できたお話をグループごとに発表しよう。聞く人はよかったところやおもしろかったところをワークシートに書こう」 ・ 考えの多様さや正しく聞くことの大切さや楽しさを感じられるようにする。	・ お話をつないでいく。 ・ 発表し合い、感想をワークシートに書く。
	⑨ 次時の予告をする。 「次の時間は、『春の河』『小景異情』について学習しよう」	・ 次時の見通しを持つ。

板書例

① 扉の詩を声に出して読ませ、心に残った言葉や表現を出し合わせる。
「扉の詩をみんなで声に出して読んでみよう」
「P.6『六年生の国語の学びを見わたそう』を読んでみよう」

② 題材名「つないで、つないで、一つのお話」を黒板に書く。
③ 本時の目標を黒板に書く。

④ お話を作るグループを作らせる。
「今日はみんなで一文ずつつないでお話を作ります。
今からお話を作るグループを決めます。」

⑤ 最初と最後の一文を考えさせ、グループで順番を決めさせる。
「これから作るお話の、最初の一文と最後の一文を決め、言う役とつなぐ順番を決めよう」

⑥ お話をつないでいくときに気をつけることやルールを確認する。
「お話をつなぐときに気をつけることはあるかな」

つないで、つないで、一つのお話

みんなで一文ずつつないで、一つのお話を作ろう。

○お話を作るグループを作ろう。

○最初の一文と最後の一文を決めよう

(例)・最初の一文 今日には運動会です。
最後の一文 道にリンゴが落ちていました。

○お話をつないでいくときに気をつけること

(例)・前の人の話を正しく聞く。
・話に出てくる人物や場所、言葉の調子などに気をつける。

○前の人の話をよく聞いてお話を作り、つないでいこう

○発表し合おう

⑦ 前の人の内容に合うように、一人一人でお話を作り、つないでいくようにさせる。
「前の人の話をよく聞いて、お話をつないでいこう」

⑧ できた話をグループごとに発表し合わせ、感想を書かせる。
「できた話をグループごとに発表しよう。
聞く人はよかったところやおもしろかったところをワークシートに書こう」

⑨ 次時の予告をする。
「次の時間は、『春の河』『小景異情』について学習しよう」

つないで、つないで、一つのお話

六年 組 名前(

今日の学習のめあて

--

○これから作るお話の、最初の一文と、最後の一文を決めよう。

最初の一文	
最後の一文	

○グループで、最初の一文と最後の一文を言う役をそれぞれ決めよう。

※お話をつないでいくときに気をつけること

--

○一人目から順番に、一文ずつお話をつないでいこう。

○最後の人は、決めておいた最後の一文を言って終わろう。

○できたお話をみんなに発表して、感想を伝え合おう。

--

つないで、つないで、一つのお話

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

みんなで一文ずつつないで、一つのお話を作ろう。

○これから作るお話の、最初の一文と、最後の一文を決めよう。

最初の一文	(例)今日は運動会です。
最後の一文	(例)道にリンゴが落ちていました。

○グループで、最初の一文と最後の一文を言う役をそれぞれ決めよう。

※お話をつないでいくときに気をつけること

(例)前の人の話を正しく聞く。

(例)話に出てくる人物や場所、言葉の調子などに気をつける。

(例)一人であまり長く話さない。

(例)最後の一文につながるように協力する。

○一人目から順番に、一文ずつお話をつないでいこう。

○最後の人は、決めておいた最後の一文を言って終わろう。

○できたお話をみんなに発表して、感想を伝え合おう。

(例)最初と最後の文がいっしょでも、グループによって全然違うお話ができて楽しかった。

(例)前の人の話をよく聞いていないとつながらないので、意外と難しかった。

(例)文を作ったり話したりするときは、文末や言葉の調子をそろえるとよい。

02

題材名 「春の河」「小景異情」(第1時/全1時間)

目標 これまでに身につけてきた音読の技能をいかして、詩を音読することができる。

- ◎ 音読の技能をいかすことに進んで取り組み、互いの表現の意図に応じて詩の音読について感想を交流しようとしている。

領域等 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方

学習の流れ ■

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「春の河」「小景異情」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 これまでに学んできたことをいかして、二つの詩を音読しよう。 ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 33分	<p>③ 情景を思い浮かべさせる。 「どんな春の景色がひろがるだろう。」 ・ 範読して、日本の春をイメージさせる。その情景を伝えるために、どう音読すればよいか考えさせる。 ○ 文語調の表記や表現の工夫に気付かせる。「たつぷり」「あふれてゐる」「地ぞ」「燃えよ」などを挙げさせる。その他、必要に応じて説明を加える。</p> <p>④ 音読の練習をさせる。 「どう音読すればよいだろう。」 ・ これまでに学習した音読の仕方、工夫などについて振り返らせ、読む練習の時間をとる。 ○ 児童から出てこない場合には、言葉の抑揚や強弱、速さ、間の取り方など、例を挙げて助言をする。</p> <p>⑤ 音読を発表し合わせ、互いに感じたことを伝え合わせる。 「音読を発表し合い、互いに感じたことを伝え合おう。」 ・ 自分で考えた工夫などをいかして発表させる。 ○ 工夫が見られるなどよかった部分について、具体的に賞賛する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入する。 ・ どう音読すればよいか考えワークシートに記入する。 ・ 発表し合い、伝え合い、ワークシートに書く。
終末 7分	<p>⑥ 年間を通し継続的な活動に取り組む意欲をもたせる。 「P.16 の『続けてみよう』を読んで、気になったニュースを一年間書きためていこう」 ・ 社会で起きていることに興味をもち、気になったニュースを一年間書きためることについて、紹介する。 ○ 限られた条件の中での取り組みとなるので、具体的な方法について助言をする。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『帰り道』という文章について学習しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み方について知る。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 日本の四季

- ・ 日本の四季について実感のない児童がいる場合には、説明、解説が必要である。教科書の該当ページの挿絵のほかに、関係しそうな他のページの挿絵や、可能であれば写真を用意しておき、児童に分かりやすく説明を加えたい。また、普段から折に触れ、日本の四季について話題にしていくとよい。

板書例

① 題材名「春の河」「小景異情」を黒板に書く。

② 本時の目標を黒板に書く。
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 情景を思い浮かべさせる。
「どんな春の景色がひろがるだろう。」

④ 音読の練習をさせる。
「どう音読すればよいだろう。」

⑤ 音読を発表し合わせ、互いに感じたことを伝え合わせる。
「音読を発表し合い、互いに感じたことを伝え合おう。」

春の河・小景異情

これまでに学んできたことをいかして、二つの詩を音読しよう。

○どんな春の景色が広がるだろう。

※表現

・ たつぷり↓たつぷり

・ あふれてゐる↓あふれている

・ 燃えよ↓燃えろ

(例) ・ 暖かい風がふいている。

・ 雪が溶けて川に流れてきた。

・ 春の草花が咲いている。

・ 日差しが暖かい。

○どう音読すればよいか。

(例) ・ 言葉の抑揚をつける。

・ 強弱をつける。

・ 速さを変える。

・ 間を取りる。 など

○音読を発表し合い、感じたこと。

(例) ・ 間をとってあって様子が思い浮かんだ。

・ だんだんと大きな声になっていた。

⑥ 年間を通し継続的な活動に取り組む意欲をもたせる。
「P.16の『続けてみよう』を読んで、気になったニュースを一年間書きためていこう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『帰り道』という文章について学習しよう」

今日の学習のめあて

--

※表現

○どんな春の景色が広がるだろう。

○どう音読すればよいだろう。

○音読を発表し合い、感じたこと。

今日の学習のめあて

これまでに学んできたことをいかして、二つの詩を音読しよう。

※表現

たつぷり	あふれてゐる	燃えよ
たつぷり	あふれている	燃えろ

○どんな春の景色が広がるだろう。

暖かい風がふいている。

雪が溶けて川に流れてきた。

春の草花が咲いている。

日差しが暖かい。

○どう音読すればよいだろう。

棒読みにならないように、言葉の抑揚をつけて読む。

大切などころは大きい声で読むなど、強弱をつけて読む。

ゆっくり読みたいところは、速さを変えて読む。

意味を考えて、間を取って読む。

○音読を発表し合い、感じたこと。

一行ごとに間をとって読んでいたので聞きやすく、様子が思い浮かんできた。

03

題材名 「帰り道」(第1時/全2時間)

目標 全文を通読し、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえることができる。

◎ 進んで視点の違いに着目して、登場人物の心情などを描写を基にとらえて読もうとする。

領域等 C読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「帰り道」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「帰り道」を読み、登場人物について読み取ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 全文を範読する。 「登場人物の確認をしよう。また、視点の違いを考えながら聞こう」 ○ 「視点」については、語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。P.30、309に意味、使い方がある。 ・ 「律」の視点から書かれた「1」と、「周也」の視点から書かれた「2」から構成されている。 ④ 同じ出来事に対する2人のとらえ方や心情について、共通点や相違点を発表させる。 「同じ出来事に対して『律』と『周也』の言動はどのように書かれていたかな」 ・ 周也が1人でしゃべり続けているとき ・ 昼休みの出来事 ・ 2人とも黙り込んでしまったとき ・ 天気雨に降られたとき ・ 雨が上がり、ふたりで歩き始めたとき ○ 2人のとらえ方や心情は違いがあることに気づかせる。 ⑤ 2人の人物像について、分かったことを発表させる。 「2人はどのような人物だろう」 ○ 2人が思う自分自身、相手をどう見ているか、読者から見て、という3つの点から読み取り、考えさせる。 ・ 律…慎重な性格。優柔不断。控えめ。マイペース。など ・ 周也…積極的な性格。おしゃべり。静けさが苦手。など ・ 2人とも自分について考え、相手のことを思っている。	・ 範読に合わせて全文を読み、登場人物を確認する。 ・ ワークシートに書く。 ・ 見つけたことを発表する。 ・ ワークシートに書く。
終末 10分	⑥ 登場人物の心情が伝わるように音読させる。 ○ 心情が伝わるように音読するために、どのようなことに気をつけたらよいか考えさせる。前時の音読の工夫等についても振り返らせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、2人の心情の変化について考えよう」	・ 音読する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 学習の進め方に関して

- ・ 目標は黒板に書き、全員で一斉読みをさせて確認させる習慣づけをするとよい。
- ・ 個別学習に入る前に、指示はすべて終えておくようにする。
- ・ まめに机間指導をし、個々の学習の進度を見るようにする。
- ・ メモがとれるように、空欄の座席表を常備しておくとうい。

板書例

① 題材名「帰り道」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
 「『帰り道』を読み、登場人物について読み取ろう」
 ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教師が全文を読む。
 「登場人物の確認をしよう。また、視点の違いを考えながら聞こう」
 ○ 「視点」については、語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。

④ 同じ出来事に対する2人のとらえ方や心情について、
 共通点や相違点を発表させる。
 「同じ出来事に対して『律』と『周也』の言動はどのように書かれていたかな」

⑤ 2人の人物像について、分かったことを発表させる。
 「2人はどのような人物だろう」
 ○ 2人が思う自分自身、相手をどう見ているか、読者から見て、
 という3つの点から読み取り、考えさせる。

ら見て	読者か (例)活発で前向き	か ている へ進んでいく。	どう見 えて、ぐんぐん前	相手を テンポよく乗りこ	分自身 言えない。単純。	二人が すぐに立ち止まる。 思う自 思っていることが	二人の人物像	律	周也
	(例)物静かで慎重	ある。	よゆう、落ち着きがある。	ちんもくを気にせず いつもマイペース。	きない。	りしゃべる。会話の キヤッチボールがで	同じ出来事に対して、 二人のとらえ方や心情は違いがある。	「律」の視点「1」 「周也」の視点「2」	「帰り道」を読み、登場人物について読み取ろう。

視点：語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。

「帰り道」

⑥ 登場人物の心情が伝わるように音読させる。

⑦ 次時の予告をする。
 「次の時間は、2人の心情の変化について考えよう。」

今日の学習のめあて

○視点・・・語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。
教科書30ページ、309ページにくわしく出ている。

--

○同じ出来事に対して、

- ・ 周也が一人でしゃべり続けているとき
- ・ 昼休みの出来事
- ・ 二人とも黙り込んでしまったとき
- ・ 天気雨に降られたとき
- ・ 雨が上がり、ふたりに歩き始めたとき

--

○二人の人物像

二人が思う自分自身	律	周也
相手をどう見ているか		
読者から見て		

今日の学習のめあて

「帰り道」を読み、登場人物について読み取ろう。

○視点…語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。
教科書30ページ、309ページにくわしく出ている。

「律」の視点「1」

「周也」の視点「2」

○同じ出来事に対して、

- ・ 周也が一人でしゃべり続けているとき
 - ・ 昼休みの出来事
 - ・ 二人とも黙り込んでしまったとき
 - ・ 天降雨に降られたとき
 - ・ 雨が上がり、ふたりで歩き始めたとき
- 人のとらえ方や心情は違いがある。

○二人の人物像

	律	周也
二人が思う自分自身	すぐに立ち止まる。 思っていることが言えない。単純。	よけいなことばかりしゃべる。会話のキャッチボールができない。
相手をどう見ているか	テンポよく乗りこえて、ぐんぐん前へ進んでいく。	ちんもくを気にせずいつもマイペース。よゆう、落ち着きがある。
読者から見て	(例)活発で前向き	(例)物静かで慎重

04

題材名 「帰り道」(第2時/全2時間)

目標 人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。

◎ 進んで人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、考えを交流しようとする。

領域等 C読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「帰り道」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「帰り道」を読み、二人の心情の変化について読み取ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 全文を範読する。 「前時の学習を思い出しながら、声に出して読もう」 ④ 2人の「言葉」に対する思いなどについて読み取らせる。 『律』と『周也』はそれぞれ、「言葉」や「言葉にすること」に対して、どのような思いや考えをもっているだろう。 ・ 律… ぼんぼん答えていくテンポについていけない。など ・ 周也…ぼくの言葉は軽すぎる。など ○ 読み取れない児童には、見つけるために、一つずつ例を示して手がかりを与える。 ⑤ 2人の心情の変化について読み取らせる。 『ぬれた地面に～ぼくたちはまた歩き出した。』(P.24の12行目)と、『しめった土のにおいが～受け止められたのかもしれない。』(P.29の12行目)には、2人のどんな心情の変化が表れているだろうか。 ・ 律…「軽快な足音」→心が軽くなった ・ 周也…「初めて、ちゃんと受け止められた」→思いが通じた	・ 全文を読み、内容を確認する。 ・ ワークシートに書き、発表する。 ・ ワークシートに書き、発表し合う。
終末 10分	⑥ 2人のその後について想像し、発表し合う。 「この後、2人の関係はどのように変化すると思うか考えよう」 ・ より一層、仲良くなった。 ・ お互いに相手を思いやれる親友になった。 ⑦ 新出漢字の練習をさせる。 ・ 「腹」は、類似した字との違い。「段」の止めやはね。「純」の右の部分の形に気をつけさせる。 ○ はね・止めをきちんと押さえさせる。空中に指書きさせる。他の新出漢字は家庭学習とする。 ⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、『地域の施設を活用しよう』を学習しよう」	・ 想像したことを発表し合う。 ・ 新出漢字「腹」「段」「純」の練習をする。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 漢字学習に関して
 - ・ はね、止め、はらいをきちんと押さえさせる。
 - ・ 新出漢字は空中に指書きさせ、筆順を意識させる。
 - ・ 授業では難しい字を中心に学習し、他の字は家庭学習とする。

板書例

① 題材名「帰り道」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
「帰り道」を読み、二人の心情の変化について読み取ろう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 全文を音読する。
「前時の学習を思い出しながら、声に出して読もう」

④ 2人の「言葉」に対する思いなどについて読み取らせる。
「『律』と『周也』はそれぞれ、「言葉」や「言葉にすること」に対して、どのような思いや考えをもっているだろう。」

⑤ 2人の心情の変化について読み取らせる。
「『ぬれた地面に～ぼくたちはまた歩き出した。』（P.24の12行目）と、
『しめった土のおいが～受け止められたのかもかもしれない。』（P.29の12行目）
には、2人のどんな心情の変化が表れているだろうか。」

帰り道

「帰り道」を読み、二人の心情の変化について読み取ろう

二人の心情の変化

律
心が軽くなった。分かってもらえた気がした。

周也
思いが通じた。会話のキャッチボールができた。

・ 周也…：ぼくという言葉は軽すぎる。
だれかといるときはちんもくが苦手
何か言わなきゃってあせる。

・ 律…：ぼんぼん答えていくテンポについていけない
思っていることが言えない。
「こんな」をうまく言葉にできない。

「律」と「周也」の「言葉」や「言葉にすること」に対する思いや考え
・ 律…：ぼんぼん答えていくテンポについていけない

新出漢字

腹…：福・複・福などと似ている。
段…：止めやはねに気をつける。
純…：右側のたて画は、少しつきぬけている。

⑥ 2人のその後について想像し、発表し合う。
「この後、2人の関係はどのように変化すると思うか考えよう」

⑦ 新出漢字の練習をさせる。
・ 「腹」は、類似した字との違い。「段」の止めやはね。「純」の右の部分の形に気をつけさせる。

⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、『地域の施設を活用しよう』を学習しよう」

05

題材名 「地域の施設を活用しよう」(第1時/全1時間)

目標 地域で活用できる施設について関心をもち、目的に応じそれらを活用できるようにする。

- ◎ 読書生活に関わる地域の施設に関心をもち、目的に応じて進んでそれらを活用しようとする。

領域等 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入	① 題材名「地域の施設を活用しよう」を黒板に書く。	
5分	② 本時の目標を黒板に書く。 図書館、博物館など地域の施設を活用できるようにしよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開	③ 教科書を読み、地域で活用できる施設について考えさせる。 「地域で活用できる施設には、どんなものがあるだろう」 ○ それぞれの日本人学校などの置かれている状況や児童の実態に応じて指導する。利用条件などにも配慮する。 ・ 施設として、公共図書館、文学館、博物館・資料館、水族館・動物園などが挙げられる。 ・ そのほかの施設としては、大学、日系企業、大使館・領事館なども考えられる。 ・ 事前にパンフレットなどが入手できれば、資料として有効である。 ○ 近くに活用できる施設がない場合には、一時帰国や旅行した際に活用できる施設の紹介をすることも考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音読し、ワークシートに書く。
38分	④ 「記録カード」(教科書 P.35) の例を参考に、調べて分かったことの記録のしかたを知らせる。 ・ 調べた月日、調べること、分かったこと、出典など ○ 各地域を舞台にした作品や、地域に関連した作品を紹介することで施設を活用する意欲につなげたい。 ・ 本時だけでなく、関連する学習の時間に取り上げていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに書く。
終末	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、『漢字の形と音・意味』について学習しよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の見通しを持つ。
2分		

指導のポイント

- 地域の施設について
 - ・ 教科書は、日本国内での学習を前提として書かれているため、同じように活用できない地域の補習授業校等では、実際の活用が困難だったり条件が厳しいことも考えられる。近くに活用できる施設がない場合には、一時帰国や旅行した際に活用できる施設など、一般的な施設の紹介をすることに替えることも考えられる。押さえておきたい大切なことは、目的に応じて地域の施設を活用することや、記録を残すことについて学習することであり、今後の学習に生かすこと、活用や記録をする意欲をもたせることである。

板書例

- ① 題材名「地域の施設を活用しよう」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教科書を読み、地域で活用できる施設について考えさせる。
「地域で活用できる施設には、どんなものがあるだろう」

④ 「記録カード」（教科書35ページ）の例を参考に、調べて分かったことの記録のしかたを知らせる。

図書館、博物館など地域の施設を活用できるようにしよう

地域の施設を活用しよう

○地域で活用できる施設

- ・ 公共図書館：本、知りたい情報
- ・ 文学館：物語の作者や作品
- ・ 博物館

- ・ 資料館
 - ・ 美術館
- 歴史や文化、芸術、産業、自然科学 など

- ・ 水族館
 - ・ 動物園
- 実際の生き物の生態

- ・ 大学の施設：図書館や資料館
- ・ 日系企業：産業など
- ・ 大使館・領事館：情報など

○調べて分かったことの記録のしかた書き留めること

- ・ 調べた月日
- ・ 調べること
- ・ 分かったこと
- ・ 出典

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、『漢字の形と音・意味』について学習しよう」

地域の施設を活用しよう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

○地域で活用できる施設

○調べて分かったことの記録のしかた
・書き留めること

地域の施設を活用しよう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

図書館、博物館など地域の施設を活用できるようにしよう

○地域で活用できる施設

公共図書館	本、知りたい情報
文学館	物語の作者や作品
博物館・資料館 美術館	歴史や文化、芸術、産業、自然科学 など
水族館・動物園	実際の生き物の生態
(例)大学の施設	図書館や資料館
(例)日系企業	産業など
(例)大使館・領事館	情報など

○調べて分かったことの記録のしかた

・書き留めること

- ・調べた月日
- ・調べること
- ・分かったこと
- ・出典 など

--

06

題材名 「漢字の形と音・意味」(第1時/全2時間)

目標 「同じ部分をもつ漢字」は、音も共通する場合があることを理解する。

- ◎ 進んで漢字の由来、特質についての理解を深め、これまでの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとする。

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の形と音・意味」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 漢字の形と音(読み方)について調べよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。 ・ 同じ部分をもつ漢字で、知っているものはないか考えさせる。例として、門・問・聞など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。
展開 38分	③ P.36 上段の3つの短文を音読する。 ④ 3つの短文の漢字から、同じ部分と漢字の音を見つけさせる。「3つの文の中から、同じ部分を持ち、同じ読み方をする漢字を見つけよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通部分は「求」、共通する音は「キュウ」 ・ 「同じ部分をもつ漢字」は、音も共通する場合があることをおさえる。 ④ P.36 下段の□に当てはまる漢字を考えさせる。「文中の□に当てはまる漢字はどれだろう。また、同じ形の部分と読み方は分かるだろうか」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間に余裕のある子どもには、同様の問題を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの短文の漢字から、同じ部分と漢字の音を見つける。 ・ 同じ部分を持ち、同じ音で読む漢字の使い分けを練習する。
終末 2分	⑤ 次時の予告をする。「次の時間は、同じ部分をもつ漢字の意味について学習しよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 持っている児童には、漢字(漢和)辞典を持参させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 漢字学習に関して
 - ・ 漢字は基本となる部分の組み合わせによってできているものが多く、基本的な部分をしっかり習得することで、児童の漢字学習に関する負担を減らすことができる。これまでの学習したことを活用して、さらに難しい漢字をより学習しやすくすることにつなげたい。
- 問題の意図
 - ・ 教科書では、同じ音の漢字が集められ、漢字をかつこ内にあてはめる問題が設定されている。その漢字を含む熟語だけでなく前後の文脈も考えて、どの漢字を使えばよいかを考える問題になっている。
- 漢字辞典がない場合
 - ・ 漢字(漢和)辞典があるとよいが、ない場合には教科書の後ろについている漢字一覧表も利用できる。特に、これまでに習った漢字については、音読み順に並んでいるので、同じ音の漢字を探しやすくなっている。

06

題材名 「漢字の形と音・意味」(第1時/全2時間)

目標 「同じ部分をもつ漢字」は、音も共通する場合があることを理解する。

領域等 知識及び技能(3) 我が国の言語文化 ① 題材名「漢字の形と音・意味」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「漢字の形と音(読み方)について調べよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 3つの短文を音読する。

④ 3つの短文の漢字から、同じ部分と漢字の音を見つけさせる。
「3つの文の中から、同じ部分を持ち、同じ読み方をする漢字を見つけよう」
・ 「求」「球」「救」の3つの漢字で、共通部分は「求」、共通する音は「キュウ」であることに気づかせる。
・ 「同じ部分をもつ漢字」は、音も共通する場合があることをおさえる。

板書例

漢字の形と音・意味

漢字の形と音(読み方)について調べよう。

我々の要求が認められた。
・ プロ野球のリーグ戦が始まる。
・ けが人は、無事に救助された。
「求」「球」「救」
共通する部分「求」
共通する音(読み方)「キュウ」

○「同じ部分をもつ漢字」は、音も共通する場合がある。

「化」「花」「貨」
共通する部分「化」
共通する音「カ」

「清」「静」「青」「晴」
共通する部分「青」
共通する音「セイ」

「測」「則」「側」
共通する部分「則」
共通する音「ソク」

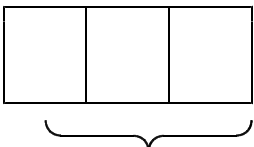
④ P.36下段の□に当てはまる漢字を考えさせる。
「文中の□に当てはまる漢字はどれだろう。
また、同じ形の部分と読み方は分かるだろうか」

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、同じ部分をもつ漢字の意味について学習しよう」
「家にある人は、漢字(漢和)辞典を持ってこよう」

今日の学習のめあて

○ 次の例文にある、同じ部分を持ち、同じ読み方をする漢字はどれだろう。

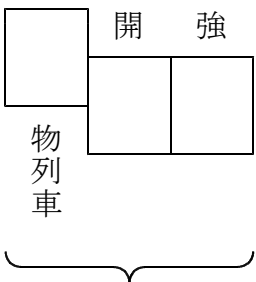
- ・ 我々の要求が認められた。
- ・ プロ野球のリーグ戦が始まる。
- ・ けが人は、無事に救助された



共通する部分は

共通する音（読み方）は

○ 三十六ページ下段の文ではどうだろう。



共通する部分は

共通する音（読み方）は

○ 同じ部分で同じ音をもつ漢字で、問題文を作ろう。

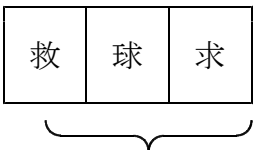
()	()	(ジ) 寺	同じ部分 ・音読み	漢字	問題文
		時 持 寺			<p>有名な <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> 院を見学する。 お弁当を <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> 持参する。 <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> 間がどんどん過ぎていく。</p>

今日の学習のめあて

漢字の形と音(読み方)について調べよう。

○ 次の例文にある、同じ部分を持ち、同じ読み方をする漢字はどれだろう。

- ・ 我々の要求が認められた。
- ・ プロ野球のリーグ戦が始まる。
- ・ けが人は、無事に救助された

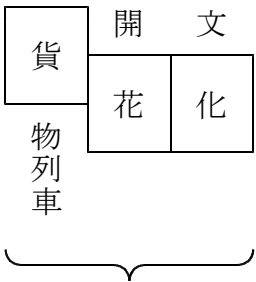


共通する部分は 求

共通する音(読み方)は

キユウ

○ 三十六ページ下段の文ではどうだろう。



共通する部分は

化

共通する音(読み方)は

カ

○ 同じ部分で同じ音をもつ漢字で、問題文を作ろう。

同じ部分 ・音読み	漢字	問題文
(ジ) 寺	時 持 寺	<p>有名な□院を見学する。 お弁当を□参する。 □間がどんどん過ぎていく。</p>
(セキ) 責	績 積 責	<p>□任をもって行動しよう。 三角形の面□を求めろ。 算数の成□がよくなった。</p>
(フク) 復	複 腹 復	<p>一度引退したが、また□活した。 食べ過ぎて、□痛を感じた。 一人ではなく、□数で行動しよう。</p>

07

題材名 「漢字の形と音・意味」(第2時/全2時間)

目標 「同じ部分をもつ漢字」は、意味の上でつながりがあるものがあることを理解する。

- ◎ 進んで漢字の由来、特質についての理解を深め、これまでの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとする。

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の形と音・意味」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同じ部分をもつ漢字で、意味のつながりのあるものを調べよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書きませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。
展開 30分	③ 同じ部分をもつ漢字が意味の上でつながりがあることを確かめさせる。 「『イ』『月』を部分に持つ漢字の、意味のつながりについて教科書の説明を読もう」 「例文中の傍線の漢字の意味を漢字辞典で調べよう」 ④ 『うかんむり』『てへん』『りっしんべん』『りっとう』の4つの部首を持つ漢字集めをさせ、部首の意味を考えさせる。 「『うかんむり』『てへん』『りっしんべん』『りっとう』を部分にもつ漢字を集めよう」 「それらの部分の持つ意味は何だろうか」 <ul style="list-style-type: none"> 調査する漢字を分担させる。自分の分担が終われば、他の漢字も調べてよいことを伝える。 漢字(漢和)辞典の「部首索引」を用いさせるのが早い。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ部分をもつ漢字は、意味の上でつながりがあることを確かめる。 4つの部首の漢字を集め、各部首の持つ意味を考える。
終末 10分	⑤ 学習を振り返り、感想を発表させる。 「同じ部分をもつ漢字の共通点が分かったかな。学習を終えての感想を発表しよう」 <ul style="list-style-type: none"> 同じ部分を持つからといって、すべてが同じ音を持つとは限らないことも補足しておきたい。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『春のいぶき』について学習しよう」	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返り、感想を発表する。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 漢字の成り立ちに関して
 - 漢字には、音を表す部分と意味を表す部分で成り立っているものがあり「形声文字」と呼ばれる。これが漢字の8割以上を占めている。一文字ずつ丸暗記するのではなく、部分の組み合わせで学習していくようにすると、漢字も覚えやすくなる。
- 漢字(漢和)辞典について
 - 漢字(漢和)辞典は、目的によっていろいろな引き方がある。今回は部首ごとに漢字を集めるので「部首索引」を使うと便利。普段から辞典類に親しませるようにしておくことも大切。
- 漢字の部首について
 - 文字一つ一つに意味を持つ「表意文字」である漢字の部首には、それぞれ意味がある。余裕があれば、部首の成り立ち、由来などにふれると、漢字に対する児童の関心が高まることにつながる。

07

題材名 「漢字の形と音・意味」(第2時/全2時間)

目標 「同じ部分をもつ漢字」は、意味の上でつながりがあるものがあることを理解する。

領域等 知識及び技能(3)我が国の言語文化 ① 題材名「漢字の形と音・意味」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「同じ部分をもつ漢字で、意味のつながりのあるものを調べよう」

③ 同じ部分をもつ漢字が意味の上でつながりがあることを確かめさせる。
「『彳』『月』を部分に持つ漢字の意味のつながりについて教科書の説明を読もう」
「例文中の傍線の漢字の意味を漢字辞典で調べよう」

板書例

漢字の形と音・意味

同じ部分をもつ漢字で、意味のつながりのあるものを調べよう。

イ(ぎょうにんべん)

「役」…つとめ。仕事
「徒」…かち。何もない
「往」…ゆく。昔
「復」…かえる。くり返す
「待」…まつ。もてなす
「得」…える。理解する
「律」…のつとる。おきて

○「道」「進む」「歩く」などの意味を表す漢字に使われる。

月(にくづき)

「脳」「臓」「肺」「胃」「腸」
もとは「肉」で、体に関係ある漢字に使われる。

宀(うかんむり)

「家」「屋根」の意味を表す。

扌(てへん)

「手」の意味を表す。

忄(りっしんべん)

「心」の意味を表す。

刂(りつとう)

「刀で分ける」の意味を表す。

○「同じ部分をもつ漢字」は、意味のうえでつながりがある場合がある。

④ 『うかんむり』『てへん』『りっしんべん』『りつとう』の4つの部首を持つ漢字集めをさせ、部首の意味を考えさせる。
「『うかんむり』『てへん』『りっしんべん』『りつとう』を部分にもつ漢字を集めよう」
「それらの部分の持つ意味は何だろうか」

⑤ 学習を振り返り、感想を発表させる。
「同じ部分をもつ漢字の共通点があったかな。学習を終えての感想を発表しよう」
「同じ部分をもつ漢字」は、意味のうえでつながりがある場合があることをおさえる。

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、『春のいぶき』について学習しよう」

08

題材名 「春のいぶき」(第1時/全1時間)

目標 「春」を表す言葉とそれらがもつ意味を知り、その語感、使い方に対する感覚などについて関心をもち、俳句や短歌を作ることができる。

◎ 積極的に季節を表す語彙を豊かにし、表現の意図に応じて言葉を吟味しながら、俳句や短歌を作ろうとする。

領域等 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「春のいぶき」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「二十四節気」を知り、「春」について自分の感じることを俳句や短歌で表そう。 ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 「春のいぶき」という言葉からイメージするものを発表させる。 「春のいぶきと聞くと何を想像しますか」 ・ お花見、入学式、桜、チューリップなど、思いつくものを挙げさせ、いくつか板書する。自分で考えさせることが大切。 ○ 日本の春や地域の春をイメージさせて、考えさせる。必要に応じて説明を加える。 ④ 二十四節気や俳句や短歌から「春」のイメージを広げさせる。 「春を表す二十四節季の言葉の解説や俳句や短歌を読んでみよう」 ・ 立春…木々の芽吹き ・ 雨水…雪が雨に、雪解け ・ 啓蟄…虫が動き出す ・ 春分…日の長さ ・ 清明…温かい空気 ・ 穀雨…春の雨 ○ 気候や生き物など自然の小さな変化への関心を言葉にしていることに気づかせる。	・ 春のいぶきから連想するものを考える。 ・ ワークシートに書く。
終末 2分	⑤ 「春」を俳句や短歌の形式に表して書かせる。 「自分の感じる春を俳句や短歌で表そう」 ・ 俳句と短歌の決まりを確かめる。 俳句…五七五の十七音、季語が入る 短歌…五七五七七の三十一音 ○ 自分の感じる春が表れるような言葉を選んで作らせる。 ⑥ 書いた作品を読み合って感想を伝え合わせる。 ・ 語感や言葉の使い方、選び方など、表現の工夫に着目して感想を伝え合わせる。 ○ よかったところを賞賛する。	・ ワークシートに書く。 ・ 発表し合う。
	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『聞いて、考えを深めよう』について学習しよう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 日本の四季

・ 児童によっては経験が少なく、なじみのないこともある。教科書の写真や挿絵をよく見せ、文章を読ませて、さらに必要に応じて児童に分かりやすい説明を説明、解説を加えたい。写真集などの書籍を使ってもよい。

板書例

- ① 題材名「春のいぶき」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「春のいぶき」という言葉からイメージするものを発表させる。
「春のいぶきと聞くと何を想像しますか」

④ 二十四節気や俳句、短歌から「春」のイメージを広げさせる。
「春を表す二十四節季の言葉の解説や俳句を読んでみよう」

⑤ 「春」を俳句や短歌の形式に表して書かせる。
「自分の感じる春を俳句や短歌で表そう」

春のいぶき

「二十四節気」を知り、「春」について自分の感じることを俳句や短歌で表そう。

○「春のいぶき」からイメージするもの

- ・ お花見
- ・ 入学式
- ・ 桜
- ・ チューリップ など

○二十四節季の春を表す言葉

- ・ 立春…木々の芽吹き
- ・ 雨水…雪が雨に、雪解け
- ・ 啓蟄…虫が動き出す
- ・ 春分…日の長さ
- ・ 清明…温かい空気
- ・ 穀雨…春の雨

○気候や生き物など自然の小さな変化への関心を言葉にしている

○春を表す俳句や短歌

- ・ 俳句…五七五の十七音、季語が入る
- ・ 短歌…五七五七七の三十一音

⑥ 書いた作品を読み合って感想を伝え合わせる。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『聞いて、考えを深めよう』について学習しよう」

今日の学習のめあて

○「春のいぶき」からイメージするものを考えよう。
・何を想像するだろう。

○二十四節季の春を表す言葉

春を表す言葉	自然や生き物の様子
立春	
りっしゅん	
雨水	
うすい	
啓蟄	
けいちつ	
春分	
しゅんぶん	
清明	
せいめい	
穀雨	
こくう	

○春を表す俳句や短歌

- ・俳句…五七五の十七音、季語が入る
- ・短歌…五七五七七の三十一

09

題材名 「聞いて、考えを深めよう」(第1時/全3時間)

目標 意見を出し合うときの聞き方や自分の考えを深める学習の進め方について理解することができる。

◎ 自分の立場をはっきりさせて、学習の見通しをもって自分の考えをまとめようとする。

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「聞いて、考えを深めよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 話の聞き方や自分の考えを深める学習について考えよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 33分	③ 新出漢字の練習をさせる。 ・ 「補」のへんはしめすへんではなく、ころもへん。「裏」の下部は表と似ているが異なっている。「沿」は字形のバランスを。 ○ はね・止めをきちんと押さえさせる。空中に指書きさせ書き順を意識させる。他の新出漢字は家庭学習とする。 ④ P.40~43を読み、学習の目的と進め方を知らせる。 「これからどのように学習を進めていくのか考えよう」 学習の目的 ・ 一つの話題について、賛成・反対の立場から意見を伝え合い、聞き合い、質問し合うことによって、それぞれの考えを深める。 進め方 1 話題を確かめ、自分の考えを整理する。 2 友達から聞きたいことを考える。 3 意見と理由に気をつけて、グループで聞き合う。 4 考えを深める。 5 話を聞くとときに大事なことについて考える。	・ 新出漢字「補」「裏」「沿」の練習をする。 ・ P.40~43を読み、学習の目的と進め方を知る。
終末 2分	⑤ 話題を決め、自分の意見を整理させる。 「P.41 下の話題例を参考にして話題を1つ決めよう。そして賛成・反対の立場をはっきりさせて、理由をまとめよう」 ○ 話題は1つ選ばせ、具体的な理由をまとめさせる。適切な話題があれば、ほかの話題でもよい。 ・ P.42の意見の例を参考にさせて、意見をまとめさせる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、グループで意見を聞き合ってみよう」	・ 話題について、自分の立場と理由をワークシートに書く。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- この学習でつけさせたい力
 - ・ 日本語によって意見を伝える力
 - ・ 一つの問題を肯定・否定の両面から考える力(言語による思考の柔軟性)
 - ・ より多くの人を納得させるための論理的な考え方や話し方(補習校では日本語による話し方が重点)
 - ・ 他者の意見を正確に聞き取る力
 - ・ 他者の意見から取り入れられることを取り入れ、自分の意見を補強する力

題材名 「聞いて、考えを深めよう」(第1時/全3時間)

目標 意見を出し合うときの聞き方や自分の考えを深める学習の進め方について理解することができる。

◎ 自分の立場をはっきりさせて、学習の見通しをもって自分の考えをまとめようとする。

領域等 A 話すこと・聞くこと

① 題材名「聞いて、考えを深めよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「話の聞き方や自分の考えを深める学習について考えよう」

③ 新出漢字「補」「裏」「沿」の練習をさせる。

④ P.41~43を読み、学習の目的と進め方を知らせる。
「これからどのように学習を進めていくのか考えよう」

板書例

聞いて考えを深めよう

話の聞き方や自分の考えを深める学習について考えよう

新出漢字
補：へんはしめすへんではなく、ころもへん
裏：下部は表と似ているが異なっている
沿：字形のバランス

○学習の目的
・ 一つの話題について、
賛成・反対の立場から
意見を伝え合い、聞き合い、
質問し合うことによって、
それぞれの考えを深める。

○進め方
1 話題を確かめ、自分の考えを整理する。
2 友達から聞きたいことを考える。
3 意見と理由に気をつけて、
グループで聞き合う。
4 考えを深める。
5 話を聞くとときに大事なことについて考える。

○話題
例・夏休みに遊びに行くなら、海よりも山がよい。

⑤ 話題を決め、自分の意見を整理させる。
「P.41下の話題例を参考にして話題を1つ決めよう。
そして賛成・反対の立場をはっきりさせて、理由をまとめよう」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、グループで意見を聞き合ってみよう」

聞いて、考えを深めよう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

話の聞き方や自分の考えを深める学習について考えよう。

○新出漢字の練習をしよう。下のますには、書き順を書いたり、くり返し書いたりしよう。

沿	裏	補																	
エン そ(う)	リ うら	ホ おぎな (う)																	

○学習の目的

・一つの話題について、

肯定・否定の両面から考える。意見を伝え合い、聞き合い、質問し合うことによって、それぞれの考えを深める。

○話題

(例)学習では、シャープペンシルよりもえんぴつを使ったほうがよい。

○自分の考え

(例)わたしは、学習ではえんぴつを使ったほうがよいという考えに賛成です。

それは、えんぴつのほうが、しんが折れにくく、書いているときに集中できるからです。

シャープペンシルも使ったことがあります。えんぴつに比べると、しんが折れやすかったです。

また、書いているとちゅうで、しんを出すためにノックボタンをおすのは、少しの間ですが、

それまでにしていたことや考えていたことが一度中断された感じがしました。それに比べて、え

んぴつは、ずっと書き続けられるので、いいと思います。

10

題材名 「聞いて、考えを深めよう」(第2時/全3時間)

目標 話題に対しての立場をはっきりさせて意見を伝え合い、聞き合い、質問し合うことができる。

◎ 互いの考えを比較しながら進んで話を聞き、質問しようとする。

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「聞いて、考えを深めよう」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>話題に対しての立場をはっきりさせて意見を伝え合い、聞き合い、質問し合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 33分	<p>③ 前時に決めた話題を確認し、友達に質問したいことを考えさせる。</p> <p>「友達から聞きたいことを考えよう」</p> <p>○ 自分の考えに関わって聞いておきたいことをまとめたり、違う立場ならどう考えるかを予想したりして質問を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出されそうな質問についても予想させ、答えを用意させておく。 <p>④ 意見を発表し合うときの注意点を知らせる。</p> <p>「意見発表し合うときにはどんなところに注意したらよいだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> P.41 下の話を聞くときの観点を読ませ、何をどのように伝えようとしているのかに注意させる。 P.42 下の話を聞き取るときに気をつけたい表現にある、つなぎ言葉、文末表現についても確認させる。 <p>⑤ グループで意見を伝え合わせる。</p> <p>「意見と理由に気をつけてグループで意見を伝え合おう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 気づいたこと、考えたこと、質問したくなったことなどを書き留めさせておく。 <p>⑥ グループごとに質問し合わせる。</p> <p>「考えておいた質問や、意見を聞いて分かりにくかったところなどについて質問し合おう」</p> <p>○ 全員が発言し終えたら、意見と理由の関係が分かりにくかったり、事例が適切ではないと感じたりしたところについて、互いに質問し合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書く。 注意する点を知る。 グループごとに意見を発表し合い、気づいたこと、考えたこと、質問したくなったことなどをワークシートに書く。 グループごとに質問をし合う。
終末 2分	<p>⑦ 次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は、自分の考えを深めよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 意見の発表に関する助言

- 相手を説得する話し方の工夫
 - 考えを先に、理由を後で述べる。
 - 理由は複数用意し、インパクトの強いものを初めか最後に置く。
 - 具体例や成功・失敗の経験などを入れると説得力が増す。

10

題材名 「聞いて、考えを深めよう」(第2時/全3時間)

目標 話題に対しての立場をはっきりさせて意見を伝え合い、聞き合い、質問し合うことができる。
◎ 互いの考えを比較しながら進んで話を聞き、質問しようとする。

領域等 A 話すこと・聞くこと

① 題材名「聞いて、考えを深めよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「話題に対しての立場をはっきりさせて意見を伝え合い、聞き合い、質問し合おう」

③ 前時に決めた話題を確認し、友達に質問したいことを考えさせる。
「友達から聞きたいことを考えよう」

④ 意見を発表し合うときの注意点を知らせる。
「意見発表し合うときにはどんなところに注意したらよいだろう」

⑤ グループで意見を伝え合わせる。
「意見と理由に気をつけてグループで意見を伝え合おう。」

板書例

聞いて、考えを深めよう

話題に対しての立場をはっきりさせて意見を伝え合い、聞き合い、質問し合おう

○友達に質問したいこと

- ・ 自分の考えに関わって聞いておきたいこと
- ・ 違う立場ならどう考えるか
- ・ 出されそうな質問についての予想

○意見を発表し合うときの注意点

- ・ 聞くときの観点
- ・ どんな理由、事例か
- ・ 自分の考えた理由と関係することはないか
- ・ 自分の考えを補強する考えはないか
- ・ 気をつけたい表現
- ・ つなぎ言葉
- ・ 文末表現

○グループで意見を伝え合う

○グループごとに質問し合う

- ・ 意見と理由の関係が分かりにくい
- ・ 事例が適切ではない など

⑥ グループごとに質問し合わせる。
「考えておいた質問や、意見を聞いて分かりにくかったところなどについて質問し合おう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、自分の考えを深めよう」

聞いて、考えを深めよう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

○友達に質問したいこと

○友達の見解を聞いて、気づいたこと、考えたこと、質問したくなったことなど

○質問し合って分かったことなど

聞いて、考えを深めよう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

話題に対しての立場をはっきりさせて意見を伝え合い、聞き合い、質問し合おう

○友達に質問したいこと

- ・自分の考えに関わって聞いておきたいこと
- ・違う立場ならどう考えるか
- ・出されそうな質問についての予想 など

○友達の見解を聞いて、気づいたこと、考えたこと、質問したくなったことなど

○質問し合って分かったことなど

11

題材名 「聞いて、考えを深めよう」(第3時/全3時間)

目標 出された意見を自分の意見と比較して取り入れられる点を取り入れるなどし、自分の考えを深めることができる。

◎ 互いの考えを比較して、進んで自分の考えをまとめ深めようとする。

領域等 A話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「聞いて、考えを深めよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 出された意見をもとに自分の考えを深めよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ グループで出された意見をもとに自分の考えを深めさせる。 「グループで出された意見を自分の意見と比較して取り入れられる点を取り入れるなどして、自分の考えを深めよう」 ・ 自分の意見と比較する ・ 共通点をさがす ・ 自分の意見に取り入れられそうなことを見つける ・ 共感したり納得したりできる点をさがす ④ 自分の考えをまとめる。 「深められた自分の考えをワークシートに書こう」 ○ 机間指導しながら、個別に助言する。 ⑤ 話を聞くときに大事なことについて考えさせる 「話を聞いたり、それをもとに自分の考えを深めるときには、どのようなことが大事だろう」 ・ 話し手が、何を話そうとしているかを、初めに押さえること ・ 意見の理由や裏付けになる事例が挙げられているかを、確かめること	・ 比較検討する。 ・ ワークシートに書く。 ・ 大事な点について考え、ワークシートに書く。
終末 10分	⑥ 学習を振り返り、感想を発表させる。 「今回の学習をしてみて、話を聞いて自分の考えを深めることができたかな」 ○ 教師は、学習を振り返り、よかった点を大いに認める立場で総括する。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『漢字の広場①』を学習しよう」	・ 学習を振り返り、ワークシートに書き、発表する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 学習の振り返り・まとめで
 - ・ 学習したことの意義を考え、ここで学んだことを日常生活の中でも生かしていくようアドバイスする。
 - ・ 日常生活の中では、話し合っているうちに相手の考えを聞いて自分の考えが変わることもある。相手の考えのほうの説得力があったり、よりよい考えであると納得したならば、自分の考えが変わってもよいし、自分の考えに相手の考えを取り入れて、よりよい考えを生み出すことがあってもよいことを伝えておく。

板書例

① 題材名「聞いて、考えを深めよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「出された意見をもとに自分の考えを深めよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ グループで出された意見をもとに自分の考えを深めさせる。
「グループで出された意見を自分の意見と比較して
取り入れられる点を取り入れるなどして、自分の考えを深めよう」

④ 自分の考えをまとめる。
「深められた自分の考えをワークシートに書こう」

聞いて、考えを深めよう

出された意見をもとに自分の考えを深めよう

○グループで出された意見をもとに
自分の考えを深める

- ・ 自分の意見と比較する
- ・ 共通点をさがす
- ・ 自分の意見に取り入れられそうなことを見つける
- ・ 共感したり納得したりできる点をさがす

○自分の考えをまとめよう

○話を聞くときに大事なこと

○学習をふり返ろう

⑤ 話を聞くときに大事なことについて考えさせる
「話を聞いたり、それをもとに自分の考えを深めるときには、
どのようなことが大事だろう」

⑥ 学習を振り返り、感想を発表させる。
「今回の学習をしてみて、話を聞いて自分の考えを深めることができたかな」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『漢字の広場①』を学習しよう」

聞いて、考えを深めよう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

出された意見をもとに自分の考えを深めよう

○グループで出された意見をもとに自分の考えを深め、まとめてみよう。

・自分の意見と比較する、共通点をさがす、自分の意見に取り入れられそうなことを見つける、共感したり納得したりできる点をさがすなどして、自分の考えを深めさせる。

○話を聞くときに大事なこと

(例) ・ 話し手が、何を話そうとしているかを、初めに押さえること

・ 意見の理由や裏付けになる事例が挙げられているかを、確かめること

○学習を振り返ろう

(例) 自分の考えに相手の考えを取り入れて、よりよい考えを生み出していきたいと思った。

12

題材名 「漢字の広場①」(第1時/全1時間)

目標 第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。

◎ 第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って出来事を説明する文を書こうとする。

領域等 知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入	① 題材名「漢字の広場①」を黒板に書く。	
5分	② 本時の目標を黒板に書く。 5年生までに習った漢字を使って出来事を伝える文章を作ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開	③ 教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっているいろいろな出来事について想像させる。 ・ 「船が航海をしている」 ・ 「道路の復旧工事が行われている」 ・ 「畑を耕している」 などを例示してもよい。 ・ 思いついた児童に発表させる。	・ 教科書の絵から町のあちこちで起こっている出来事について考える。
38分	④ 教科書にある言葉を提示し、5年生までに習った漢字を正しく書いて、文章を作らせる。 ・ 例として「お寺の仏像は文化財です。住職たちが、保護の方法について話しています。」を示す。 ○ 様子が詳しく伝えられるように、言葉をたくさん使うようアドバイスする。 ・ 書いた文章を読み直し、間違いがあったら直させる。 ・ 時間に余裕のある子どもには、違う文章を考えさせる。	・ ワークシートに書く。
終末	⑤ 作った文章を発表させる。 ○ 発表したなかでよいところを積極的に賞賛する。 ○ 誤った使い方があったら具体的に指示して直させる。	・ 書けた文章を発表し合う。
2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『笑うから楽しい』について学習しよう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 正しくわかりやすく書かせる
 - ・ この題材では、教科書に言葉が提示してあるので、それらの言葉をたくさん使うことで、状況を詳しく伝えられるようにさせたい。意味のわからない児童には、辞書を引かせたり、説明したりして正しい文章を作ることができるようにしたい。
- 漢字学習に関して
 - ・ 漢字は積み重ね、繰り返して学習することが大切である。これまで習った漢字についても機会を見つけて復習し、定着を図っていくことが大切である。
- 漢字の一覧表の活用
 - ・ 漢字(漢和)辞典があるとよいが、ない場合には教科書のP.284～296についている漢字一覧表「六年間に習う漢字」も利用できる。音読み順に並んでいるので、同じ音の漢字を探しやすくなっている。

板書例

- ① 題材名「漢字の広場①」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっているいろいろな出来事について想像させる。
「船が航海をしている」
「道路の復旧工事が行われている」
「畑を耕している」
などを例示してもよい。

④ 教科書にある言葉を提示し、5年生までに習った漢字を正しく書いて、文章を作らせる。

- ・ 例として「お寺の仏像は文化財です。住職たちが、保護の方法について話しています」を示す。

漢字の広場①

五年生までに習った漢字を使って出来事を伝える文章を作ろう。

○出来事を伝える文章
例・お寺の仏像は文化財です。住職たちが、保護の方法について話しています。

(児童が作って発表した文章を書く)

⑤ 作った文章を発表させる。

- ・ 誤った使い方があったら具体的に指示して直させる。

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、『笑うから楽しい』について学習しよう」

今日の学習のめあて

○教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっているいろいろな出来事を伝える文章を作ろう。

例・「お寺の仏像は文化財です。住職たちが、保護の方法について話しています。」

Blank writing area with vertical dashed lines for text entry.

一つできたら、ほかにも作ってみよう。
書けたら、読み直してみよう。

今日の学習のめあて

五年生までに習った漢字を使って出来事を伝える文章を作ろう

○教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっているいろいろな出来事を伝える文章を作ろう。

例・「お寺の仏像は文化財です。住職たちが、保護の方法について話しています。」

(例)

防災訓練で、燃える火を消す訓練を行った。

道路は、復旧工事のため、立ち入り禁止です。

(例・二つの文をつなぐ)

県境の河口で、水質の検査をしました。その近くの港に、大きな船が寄港しました。

新しい団地の入居が始まりました。そのため、引越しの荷物運びで、業者が往復しました。

一つできたら、ほかにも作ってみよう。
書いたら、読み直してみよう。

13

題材名 「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」(第1時/全2時間)

目標 筆者の主張と文章の構成を考えることができる。

◎ 進んで主張と事例の関係をとらえて読むことができる。

領域等 C読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 筆者の考えを読み取り、文章の構成を考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	<p>③ 「笑うから楽しい」を語句の意味を確かめながら読ませる。 「先生が『笑うから楽しい』をゆっくり音読するので、聞きながら意味が分からない言葉があったら手を挙げよう」</p> <p>○ 教師主導で内容や構成をつかませる。 <ul style="list-style-type: none"> 教師が解説する。 </p> <p>④ 筆者の考えをとらえさせる。 「この文章は、何について書いたものだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の考え「私たちの体と心は、深く関わり合っている。心の動きが体に表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける」 筆者の考えをとらえさせ、事例を挙げることの効果、有用性に気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読を聞き、内容や構成をつかむ。 ワークシートに書く。
	<p>⑤ 「時計の時間と心の時間」を読ませ、筆者の主張や文章構成について考えさせる。 「この文章で筆者が主張したいことは何だろう。どこに書いてあるだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に段落番号を書かせる。 筆書の主張「私たちに必用なのは『心の時間』を頭に入れて『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合う知恵である。」最後の第8段落にある。 <p>○ 教師が音読し、言葉に着目させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書く。
	<p>⑥ 筆者の主張と事例との関係に着目させ、論の進め方の意図について考させる。 「筆者はなぜ複数の事例を挙げながら『心の時間』の特性について説明したのだろう」 「筆者の主張との関係に着目して、その意図について考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例は「心の時間」に関することだが、「心の時間」を説明することで「時計の時間」の必要性や2つの時間の関係を導いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書く。
終末 2分	<p>⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、筆者の主張に対して、自分の考えをまとめよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「笑うから楽しい」
「時計の時間と心の時間」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「筆者の考えを読み取り、文章の構成を考えよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「笑うから楽しい」を語句の意味を確かめながら読ませる。
「先生が『笑うから楽しい』をゆっくり音読するので、
聞きながら意味が分からない言葉があったら手を挙げよう」

④ 筆者の考えをとらえさせる。
「この文章は、何について書いたものだろう」

⑤ 「時計の時間と心の時間」を読ませ、筆者の主張や文章構成について考えさせる。
「この文章で筆者が主張したいことは何だろう。どこに書いてあるだろう」

笑うから楽しい
時計の時間と心の時間

筆者の考えを読み取り、文章の構成を考えよう

○ 「笑うから楽しい」
筆者の考え

- ・ 私たちの体と心は、深く関わり合っている。
心の動きが体に表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける

○ 「時計の時間と心の時間」
筆者の主張

- ・ 私たちに必用なのは「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合う知恵である。

○ 複数の事例を挙げながら説明したのは

- ・ 事例は「心の時間」に関することだが、「心の時間」を説明することで「時計の時間」の必要性や二つの時間の関係性を導いている。

⑥ 筆者の主張と事例との関係に着目させ、論の進め方の意図について考えさせる。
「筆者はなぜ複数の事例を挙げながら『心の時間』の特性について説明したのだろう」
「筆者の主張との関係に着目して、その意図について考えよう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、筆者の主張に対して、自分の考えをまとめよう」

今日の学習のめあて

--

○「笑うから楽しい」

--

○「時計の時間と心の時間」

--

○複数の事例を挙げながら説明したのは

--

今日の学習のめあて

筆者の考えを読み取り、文章の構成を考えよう

○「笑うから楽しい」

私たちの体と心は、深く関わり合っている。心の動きが体に表れるのと同様に、体の動きも心の動きに働きかける。

○「時計の時間と心の時間」

私たちに必用なのは「心の時間」を頭に入れて「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合う知恵である。

○複数の事例を挙げながら説明したのは

事例は「心の時間」に関することだが、「心の時間」を説明することで「時計の時間」の必要性や二つの時間の関係を導いている。

14

題材名 「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」(第2時/全2時間)

目標 筆者の主張に対する自分の考えをまとめることができる。

◎ 進んで学習課題に沿って自分の考えをまとめることができる。

領域等 C読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「時計の時間と心の時間」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 筆者の考えに対する自分の考えをまとめよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 35分	<p>③ 筆者の主張を確認させる。 「筆者がこの文章で主張したいことは何だったのだろう」 ・ 第8段落の表現に注目させる。「私たちに必用なのは『心の時間』を頭に入れて『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合う知恵である。」</p> <p>④ 書かれている内容や筆者の考えについて自分の意見をまとめさせる。 「筆者の考えについて、自分はどうか考えるのか書こう」 ・ 自分の考えについては、まずは端的に書かせ、その後に理由や根拠となる事例、具体的な提案などを書かせるようにする。 ・ 筆者の主張に納得いくか、筆者の考えに対する反論、筆者の考えを受けて自分はどうか、自分の「時間」に対する考え方の変化など。 ○ まとめられない児童には、第8段落最後の文を書き写させ、その後に自分の考えを書くようにさせる。 ○ P.55の下3「発表の例」を参考にさせる。</p> <p>⑤ 自分の意見を発表させる。 「自分の意見を発表しよう」 ○ 机間指導で内容を確認しておき、さまざまな意見を共有できるように、何人かの意見を発表させる。</p> <p>⑥ 「時間」に対する自分の意見をまとめさせる。 「筆者は、『心の時間』を頭に入れて『時計の時間』を道具として使うという『時間』と付き合う知恵」と言っているが、どのようなことだろう。生活の中で考えてみよう」 ・ 第8段落にある2つの例を自分の生活の中の具体的な事例に当てはめて考えさせる。思いつくものがあったら書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音読を聞き、内容や構成をつかむ。 ・ ワークシートに書く。 ・ 発表し合う。 ・ ワークシートに書く。
終末 5分	<p>⑦ 学習を振り返らせ、今後の学習につなげさせる。 「P.56の『たいせつ』『いかそう』を読んで身につけた力を確認しよう。また、『この本、読もう』にある本を読んでみよう。」 「P.57の『主張と事例』を読んで、これからの学習にいかそう」</p> <p>⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、『話し言葉と書き言葉』の学習をしよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の話聞く。 ・ 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「時計の時間と心の時間」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「筆者の考えに対する自分の考えをまとめよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 筆者の主張を確認する。
「筆者がこの文章で主張したいことは何だったのだろう」

④ 書かれている内容や筆者の考えについて自分の意見をまとめさせる。
「筆者の考えについて、自分はどうか考えるのか書こう」

⑤ 自分の意見を発表させる。
「自分の意見を発表しよう」

時計の時間と心の時間

○筆者の主張

・ 私たちに必用なのは『心の時間』を頭に入れて『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合う知恵である。

○自分の意見

・ (例)筆者の意見に共感した。友達との「心の時間」のちがいを感じた。給食のとき・・・

○「時間」に対する自分の意見

・ (例)時間の使い方を考えていきたい。

筆者の考えに対する自分の考えをまとめよう

⑥ 「時間」に対する自分の意見をまとめさせる。
「筆者は、「『心の時間』を頭に入れて『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合う知恵」と言っているが、どのようなことだろう。生活の中で考えてみよう」

⑦ 学習を振り返らせ、今後の学習につなげさせる。
「P.56の『たいせつ』『いかそう』を読んで身につけた力を確認しよう。また、『この本、読もう』にある本を読んでみよう。」
「P.57の『主張と事例』を読んで、これからの学習にいかそう」

⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、『話し言葉と書き言葉』の学習をしよう」

Blank writing area for the student's name and group information.

○筆者の主張

Blank writing area for the author's main argument.

○書かれている内容や筆者の考えについて自分の意見をまとめよう。

Blank writing area for summarizing the content and the author's thoughts, and expressing one's own opinion.

○「時間」に対する自分の意見をまとめよう。

Blank writing area for summarizing one's own opinion on "time".

15

題材名 「話し言葉と書き言葉」(第1時/全1時間)

目標 話し言葉と書き言葉の違いについて理解することができる。

◎ 進んで話し言葉と書き言葉の違いについて理解を深め、場面や相手に応じて適切な表現をしようとする。

領域等 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「話し言葉と書き言葉」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 話し言葉と書き言葉のちがいについて学習しよう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 教科書の例文(P.58 上)を読み、話し言葉と書き言葉の特徴について、経験の中で気づいたことを発表させる。 「話し言葉と書き言葉の特徴について、経験の中で気づいたことはないかな」 ・ 経験のある児童に話させる。 ○ 児童から出てこなかった場合には、教科書の例を詳しく説明してもよい。 ④ 話し言葉について書かれている部分(P.58)と書き言葉について書かれている部分(P.59)を読ませ、話し言葉と書き言葉の違いについて整理させる。 「話し言葉と書き言葉の違いについて、整理しよう」 ・ 話し言葉の特徴 声の上げ下げ、間の取り方などで、気持ちを表すことができる。 言い間違いをすぐに直せる。 こそあど言葉で表せる。 敬語を使うかどうか、方言か共通語かなど言葉遣いを選べる。 「ええと」のような言葉がはさまれる。 ・ 書き言葉の特徴 誰が読んでも分かるように共通語で書き、語順や構成を整える。 主語を明らかにする。 誤字がないようにする。 内容を整理して書き、見直しをする。 ○ 具体的な文章で補説してもよい。	・ 気づいたことを発表する。 ・ ワークシートに書く。
終末 2分	⑤ 相手や場面などによって気をつけることについて話し合わせる。 「違いから分かった気をつけることは何だろう」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『たのしみは』を学習しよう」	・ 意見を発表する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 話し言葉と書き言葉の違いから気をつけさせたいこと

- ・ SNSなどで話し言葉を、思いつくまま文章にして送ってしまい、トラブルになることがある。同じ言葉でも、抑揚(イントネーション)や強弱で相手への伝わり方が違ってくることがある。具体的な文章で例示して理解させ、気をつけるようにさせたい。

① 題材名「話し言葉と書き言葉」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「話し言葉と書き言葉のちがいについて学習しよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教科書の例文(P.58上)を読み、話し言葉と書き言葉の特徴について、
経験の中で気づいたことを発表させる。
「話し言葉と書き言葉の特徴について、経験の中で気づいたことはないかな」

④ 話し言葉について書かれている部分(P.58)と
書き言葉について書かれている部分(P.59)を読ませ、
話し言葉と書き言葉の違いについて整理させる。

話し言葉と書き言葉

話し言葉と書き言葉のちがいについて学習しよう

○話し言葉の特徴

- ・ 声の上げ下げ、間の取り方などで、
気持ちを表すことができる。
- ・ 言い間違いをすぐに直せる。
- ・ こそあど言葉で表せる。
- ・ 敬語を使うかどうか、方言か共通語かなど
言葉遣いを選べる。
- ・ 「ええと」のような言葉がはさまれる。

○書き言葉の特徴

- ・ 誰が読んでも分かるように共通語で書き、
語順や構成を整える。
- ・ 主語を明らかにする。
- ・ 誤字がないようにする。
- ・ 内容を整理して書き、見直しをする。

○相手や場面などによって気をつけること

- (例) ・ 大切な文書については、何度も読み返して
きちんとした文章で書くようにしたい。
・ 友達に送るメールでは、誤解のないように主
語や言い回しに気をつけたい。

⑤ 相手や場面などによって気をつけることについて話し合わせる。
「違いから分かった気をつけることは何だろう」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、『たのしみは』を学習しよう」

○話し言葉の特徴

<p>Blank writing area for '話し言葉の特徴' with a dashed midline.</p>
--

○書き言葉の特徴

<p>Blank writing area for '書き言葉の特徴' with a dashed midline.</p>
--

○相手や場面などによって気をつけること

<p>Blank writing area for '相手や場面などによって気をつけること' with a dashed midline.</p>

今日の学習のめあて

話し言葉と書き言葉のちがいについて学習しよう

○話し言葉の特徴

- ・声の上げ下げ、間の取り方などで、気持ちを表すことができる。
- ・言い間違いをすぐに直せる。
- ・こそあど言葉で表せる。
- ・敬語を使うかどうか、方言か共通語かなど言葉遣いを選べる。
- ・「ええと」のような言葉がはさまれる。

○書き言葉の特徴

- ・誰が読んでも分かるように共通語で書き、語順や構成を整える。
- ・主語を明らかにする。
- ・誤字がないようにする。
- ・内容を整理して書き、見直しをする。

○相手や場面などによって気をつけること

(例) ・大切な文書については、何度も読み返してきちんとした文章で書くようにしたい。

16

題材名 「たのしみは」(第1時/全1時間)

目標 構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えることができる。

- ◎ 書き表し方に着目して整えることに粘り強く取り組み、これまでの学習をいかして短歌を作ろうとする。

領域等 B書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「たのしみは」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 「たのしみ」をテーマにした短歌を言葉を選んで作ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	<p>③ 「たのしみ」をテーマにした短歌(P.61)を読んで、内容のたいについて理解させる。 ・ それぞれ生活の中の小さな楽しみであることに気づかせる。</p> <p>④ 毎日の生活の中から「たのしみ」な場面を 100 字程度の文章に書かせる。 「毎日の生活の中で、なんだか楽しくなるときや、わくわくするとき、ほっとするときなどを文章に表してみよう」</p> <p>⑤ 短歌について基本のルールを知らせる。 ・ P.62にあるように、五・七・五・七・七の三十一音で表し、小さな「つ」や、のばす音、「ん」も一音と数える。</p> <p>⑥ ④で書いた文章ををもとに短歌を作らせる。 「さっき書いた文章をもとに『たのしみは』で始まり『時』で結ぶ短歌を作ってみよう」「様子を細かく思い出そう」 ・ ワークシートに書いた文章を読み直させ、周りの様子を細かく思い出させる。見えるもの、聞こえる音、においなど五感を働かせて思い出すようにさせる。 ・ 使う言葉を選び、順番を決め、三十一音にさせる。 ○ 机間指導を行い、個々にアドバイスをする。</p> <p>⑦ 短歌を短冊に清書させる。 「仕上がった短歌を短冊に清書しよう」 ・ 短冊は市販のものが手に入ればよいが、画用紙や白い厚紙などを切って作ったもの、なければ P.63 に書き込むでもよい。 ・ 書くのにも筆ペンがあればよいが、フェルトペン、サインペンなどでもよい。</p> <p>⑧ 短歌を発表し合わせる。 「できあがった短歌を発表し合おう」 ・ 短冊を見せながら、態度、姿勢に注意させて発表させる。 ・ よかったところをほめ合うようにさせたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「たのしみ」をテーマにした短歌を読んで、作者の思いについて考える。 ・ ワークシートに書く。 ・ 短歌について基本のルールを知る。 ・ ワークシートに書く。 ・ 短歌を短冊に清書する。 ・ 短歌を発表し合う。
終末 2分	<p>⑨ 学習を振り返り、感想を述べさせる。 「短歌を作ってみてよかったこと、苦労したことは何だろう」 ○ 今後の学習に生かせるように、肯定的に評価する。</p> <p>⑩ 次時の予告をする。 「次の時間は、『文の組み立て』を学習しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を振り返り、感想を述べる。 ・ 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「たのしみは」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「『たのしみ』をテーマにした短歌を言葉を選んで作ろう」

③ 「たのしみ」をテーマにした短歌(P.61)を読んで、
内容のだいたいについて理解させる。
「『たのしみ』をテーマにした短歌の作者は、
どんな思いを短歌に込めたのだろう」

④ 毎日の生活の中から「たのしみ」な場面を100字程度の文章に書かせる。
「毎日の生活の中で、なんだか楽しくなるときや、わくわくするとき、
ほっとするときなどを文章に表してみよう」

⑤ 短歌について基本のルールを知らせる。
「短歌には、どんなルールがあるのだろう」

⑥ ④で書いた文章ををもとに短歌を作らせる。
「さっき書いた文章をもとに『たのしみは』で始まり『時』で結ぶ短歌を作ってみよう」

たのしみは

「たのしみ」をテーマにした短歌を言葉を選んで作ろう

- 「たのしみは」で始まる短歌
- ・ 生活の中の小さな楽しみ
- 毎日の生活の中の「たのしみ」
- ・ なんだか楽しくなる、わくわくすることを百字ぐらいで書いてみよう。
- 短歌のルール
- ・ 五・七・五・七・七の三十一音
- ・ 小さな「つ」、のばす音、「ん」は一音と数える。
- 短歌作り
- ・ 周りの様子：細かく思い出す
- ・ 見えるもの・聞こえる音・においなど
- ・ 使う言葉を選び、言葉の並べ方を考える
- ・ 「たのしみは」で始まり「時」で結ぶ三十一音に
- 短冊に清書しよう
- ・ 例・えんぴつで下書き、フェルトペンで清書
- 発表しよう
- ・ 態度、姿勢に注意
- ・ 声の大きさ、強弱の付け方、はっきりした声、読みの速さ、間の取り方

⑧ 短歌を発表し合わせる。
「できあがった短歌を発表し合おう」

⑦ 短歌を短冊に清書させる。
「仕上がった短歌を短冊に清書しよう」

⑨ 学習を振り返り、感想を述べさせる。
「短歌を作ってみてよかったこと、
苦労したことは何だろう」

⑩ 次時の予告をする。
「次の時間は、『文の組み立て』を学習しよう」

たのしみは

六年 組 名前()

W
16)

今日の学習のめあて

○ 毎日の生活の中の「たのしみ」をさがそう。

なんだか心が楽しくなる

わくわくするとき

ほっとするとき

○ 短歌作り

- ・ 周りの様子：細かく思い出す。見えるもの・聞こえる音・においなど
- ・ 使う言葉を選び、言葉の並べ方を考える。
- ・ 「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶ、三十一音にする。

左のらんに書いてみよう。

--	--	--

たのしみは

六年 組 名前(

W
16

今日の学習のめあて

「たのしみ」をテーマにした短歌を言葉を選んで作ろう

○毎日の生活の中の「たのしみ」をさがそう。

なんだか心が楽しくなる

わくわくするとき

ほっとするとき

(例)わたしは、自分の好きな絵をノートにかきためています。宿題も終わって自由な時間に

好きな絵を・・・

○短歌作り

- ・周りの様子：細かく思い出す。見えるもの・聞こえる音・においなど
- ・使う言葉を選び、言葉の並べ方を考える。
- ・「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶ、三十一音にする。

左のらんに書いてみよう。

例・たのしみは 好きなイラスト かきためて

後で一人で ながめている時

例・たのしみは 好きなイラスト かきためて

部屋でこっそり ながめている時

例・たのしみは 休みの日の午後 イラストを

思うぞんぶん かいている時

17

題材名 「文の組み立て」(第1時/全1時間)

目標 文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。

- ◎ 進んで語句の係り方や語順について理解を深め、表現の意図の応じて分かりやすく文を組み立てていこうとする。

領域等 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「文の組み立て」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 語順や主語と述語の関係について学習しよう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 教科書(P.64 上)に示されたカードを並べ替えて文を作らせ発表し合わせる。 「5つのカードを並べ替えて文を作って発表しよう」 ・ 「木を」「植えた」「庭に」「ぼくは」「昨日」の5枚 ○ 児童の実態に応じて個別に指導する。 ④ 文章中の主語と述語、修飾と被修飾の関係をとらえさせる。 「1つの文の中に主語と述語の関係が2つ以上出てくる場合について考えてみよう」 ・ 「ぼくが植えた木が育った」の文の中心は「木が育った」 ・ 2つの文に分けると分かりやすくなる。 ○ 主語は「～は」「～が」「～も」が多く、述語は「どうする」「どんなだ」「何だ」などが多いことを補説してもよい。 ⑤ 主語と述語の関係を確かめる。 「P.65 下の1について主語と述語はどれか、考えてみよう」 ・ 「券売機が故障した」「電車が遅れた」 ・ 「警察署が完成し」「住民は喜んだ」 ・ 「銭湯が移転した」 ⑥ 主語と述語が複数ある文章を分けて書き直させる。 「P.65 下の2について2つの文に分けて書き直してみよう」 ・ 「姉がカップをくれた。そのカップはとてもかわいい。」 ・ 「有名な作家が外国の童話を訳した。その童話を読んだ山田さんが感想を述べた。」 ○ 文を書くときには、語順や主語と述語の関係に気をつけて、分かりやすく組み立てるとよいことを押さえておく。	・ ワークシートに書く。 ・ ワークシートに書く。 ・ ワークシートに書く。
終末 2分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『天地の文』を学習しよう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 日本語では主語が省略される場合がある
 - ・ 「廊下を歩きながら、こう思った。」の文の述語は「思った」だが、それに対応する主語は文中に見当たらない。日本語の文では、このように主語が省略されている場合がよくある。とくに会話文では省略されることが多い。

板書例

① 題材名「文の組み立て」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「語順や主語と述語の関係について学習しよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教科書(P.64上)に示されたカードを並べ替えて文を作らせ発表し合わせる。
「5つのカードを並べ替えて文を作って発表しよう」

④ 文章中の主語と述語、修飾と被修飾の関係をとらえさせる。
「1つの文の中に主語と述語の関係が2つ以上出てくる場合について考えてみよう」

⑤ 主語と述語の関係を確かめる。
「P.65下の1について主語と述語はどれか、考えてみよう」

文の組み立て

語順や主語と述語の関係について学習しよう

○ 5つのカードを並べ替えて文を作ろう

- ・ ぼくは、昨日、庭に木を植えた。
- ・ 昨日、ぼくは、庭に木を植えた。
- ・ 昨日、庭に、ぼくは木を植えた。

○ 一つの文の中に二つの主語と述語の関係

① 枝が のび、葉が しげる。
主語 述語 主語 述語

② ぼくが 植えた 木が 育った。
主語 述語 主語 述語

一文に分ける ← 分かりやすくなる
ぼくが木を植えた。その木が育った。

○ P.65の1

- ・ 券売機が故障したうえに、電車が遅れた。
- ・ 立派な警察署が完成し、住民は喜んだ。
- ・ 祖父が通う銭湯が県庁の近くに移転した。

○ P.65の2

- ・ 姉がカップをくれた。そのカップはとてもかわい。
- ・ 有名な作家が外国の童話を訳した。その童話を讀んだ山田さんが感想を述べた。

⑥ 主語と述語が複数ある文章を分けて書き直させる。
「P.65下の2について2つの文に分けて書き直してみよう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『天地の文』を学習しよう」

今日の学習のめあて

○五つのカードを並べ替えて文を作ろう

--	--	--	--

○一つの文の中に二つの主語と述語の関係

① 枝が のび、葉が しげる。

② ぼくが 植えた 木が 育った。

○ P.65 の 1 主語と述語の関係を見つけよう。

・ 券売機が故障したうえに、電車が遅れた。

・ 立派な警察署が完成し、住民は喜んだ。

・ 祖父が通う銭湯が県庁の近くに移転した。

○ P.65 の 2 二つの文に分けて書き直し、同じ内容に表そう。

・ 姉がくれたカップはとてもかわいい。

--	--

・ 有名な作家が訳した外国の童話を読んだ山田さんが感想を述べた。

--	--

今日の学習のめあて

語順や主語と述語の関係について学習しよう

○五つのカードを並べ替えて文を作ろう

ぼくは、昨日、庭に木を植えた。

昨日、ぼくは、庭に木を植えた。

昨日、庭に、ぼくは木を植えた。

○一つの文の中に二つの主語と述語の関係

① 主語 述語 主語 述語

枝が のび、葉が しげる。

② 主語 述語 主語 述語

ぼくが 植えた 木が 育った。

○ P.65 の 1 主語と述語の関係を見つけよう。

・ 券売機が故障したうえに、電車が遅れた。

・ 立派な警察署が完成し、住民は喜んだ。

・ 祖父が通う銭湯が県庁の近くに移転した。

○ P.65 の 2 二つの文に分けて書き直し、同じ内容に表そう。

・ 姉がくれたカップはとてもかわいい。

姉がカップをくれた。そのカップはとてもかわいい。

・ 有名な作家が訳した外国の童話を読んだ山田さんが感想を述べた。

有名な作家が外国の童話を訳した。その童話を読んだ山田さんが感想を述べた。

18

題材名 「天地の文」(第1時/全1時間)

目標 近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。

◎ 進んで文語調の文章の言葉の響きやリズムに親しみ、これまでの学習をいかして音読しようとする。

領域等 知識及び技能(3)我が国の言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「天地の文」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 「天地の文」を声に出して読もう</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	<p>③ 「天地の文」を音読する。 「漢字や平仮名の読み方が今と違っているところに気をつけて、また、どんな意味か考えながら聞こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に読み方を書き込みながら聞かせてもよい。 リズムよく音読する。 <p>④ 「天地の文」のおよその意味を説明する。 『天地の文』にはどんなことが書かれているのだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> P.67の説明を読む。 昔の人のものの見方や感じ方を知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> 明治時代に福澤諭吉が、子ども用の習字手本として作った。 暮らしの基本となる決め事が書かれている。 調子のよい言い回しになっている。 人生はわずか50年しかない、幼い時になまけると年をとってから後悔してもしかたがないという教訓が書かれている。 <p>⑤ 「天地の文」を音読させる。 「どんなことに気をつけて音読したらよいだろう」 『天地の文』を音読しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 調子のよいリズムで読むようにさせる。 区切って読むところは線で区切らせてもよい。 初めに全員でいっしょに読ませる。次に個人で練習させる。その後、発表させる。時間によって、グループで読む、何行かずつ読むなど読み方に変化を持たせるのもよい。 <p>⑥ 筆者の思いについて考え、発表し合う。 「筆者である福澤諭吉さんは、どんな思いでこの文章を作ったのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見や感想を書かせ、発表し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読を聞き、ワークシートに書く。 ワークシートに書く。 ワークシートに書き、音読する。
終末 2分	<p>⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『情報と情報をつなげて伝えるとき』について学習しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「天地の文」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「『天地の文』を声に出して読もう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「天地の文」を音読する。
「漢字や平仮名の読み方が今と違っているところ気をつけて、
また、どんな意味か考えながら聞こう」

④ 「天地の文」のおよその意味を説明する。
「『天地の文』にはどんなことが書かれているのだろう」

天地の文

「天地の文」を声に出して読もう

○ 「天地の文」

- ・ 明治時代に福澤諭吉が、子ども用の習字手本として作った。
- ・ 暮らしの基本となる決め事が書かれている。
- ・ 調子のよい言い回しになっている。

○ 書かれていること

- ・ 東西南北
- ・ 太陽の動き
- ・ 午前午後
- ・ 時間
- ・ 月日
- ・ 週と曜日
- ・ 季節
- ・ 一年と百年
- ・ 子どもの時になまけるなどという教え

○ 「天地の文」を音読しよう

例・調子よく読もう。
元氣よく読もう。

○ 筆者の思い、感想など

(例) ・今のうちから学習や運動をがんばれということだと思おう。
・昔の人も、今、自分たちが言われているようなことを言われていたと思うと、親しみを感じた。

⑤ 「天地の文」を音読させる。
「どんなことに気をつけて音読したらよいだろう」
「『天地の文』を音読しよう」

⑥ 筆者の思いについて考え、発表し合う。
「筆者である福澤諭吉さんは、どんな思いでこの文章を作ったのだろう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『情報と情報をつなげて伝えるとき』について学習しよう」

今日の学習のめあて

○「天地の文」

Blank writing area with a solid top and bottom border and three vertical dashed lines for writing.

○書かれていること

Blank writing area with a solid top and bottom border and three vertical dashed lines for writing.

○「天地の文」を読むときに、どんなことに気をつけたらよいだろう。

Blank writing area with a solid top and bottom border and three vertical dashed lines for writing.

○筆者である福澤諭吉さんは、どんな思いでこの文章を作ったのだろう

Blank writing area with a solid top and bottom border and three vertical dashed lines for writing.

今日の学習のめあて

「天地の文」を声に出して読もう

○「天地の文」

- ・ 明治時代に福沢諭吉が、子ども用の習字手本として作った。
- ・ 暮らしの基本となる決め事が書かれている。
- ・ 調子のよい言い回しになっている。

○書かれていること

- ・ 東西南北
- ・ 太陽の動き
- ・ 午前午後
- ・ 時間
- ・ 月日
- ・ 週と曜日
- ・ 季節
- ・ 一年と百年

○子どもの時になまけるなという教え

○「天地の文」を読むときに、どんなことに気をつけたらよいだろう。

例・調子よく読もう。

元氣よく読もう。

○筆者である福澤諭吉さんは、どんな思いでこの文章を作ったのだろう

例・今のうちから学習や運動をがんばれということだと思う。

・ 昔の人も、今、自分たちが言われているようなことを言われていたと思うと、親しみを感じた。

19

題材名 「情報と情報をつなげて伝える」(第1時/全1時間)

目標 情報と情報との関係付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。

◎ 進んで情報と情報との関係付けのしかたについて理解を深め、学習課題に沿って分かりやすく書いて伝えようとする。

領域等 知識及び技能(2)情報の扱い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「情報と情報をつなげて伝える」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 情報を整理して伝えることについて学習しよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 情報を整理して伝えることについて考えさせる。 「P.68を読み、情報と情報の関係にはどのようなものがあるだろう」 ・ Aとその具体例の関係 Aとその説明(定義)の関係 複数のもと、その共通点(A)という関係 ④ 例文を使って、情報と情報をどうつなげて伝えればよいのか考えさせる。 「P.69を読み、 1 の文章に①②の文章を加えてみよう」 「また、 1 と2の文章の共通点を見つけ、まとめの段落を書こう」 ○ 集めた情報がどのような関係にあるのか、どのようにつなげると文意が伝わるのかを考えて書かせる。 ・ 1 の第1文の後に①の内容を加え、第2文の後に②の内容を加える。 ・ つなぐ言葉としては、「それは」「この」「具体的には」など ・ 共通点は、環境や生物の多様性を大切にしたい農法という点	・ ワークシートに書く。
終末 2分	⑤ 書いたものを発表し合う。 「書けたものを発表し合おう」 ・ 発表し合って、情報と情報をつなげて伝えるときに大切なことは何か考えさせる。 ○ 情報と情報の関係を整理し、つなぐ言葉で分かりやすい構成にすると伝わりやすい。 ・ 「いかそう」にあるように、文章を読むときにも情報と情報の関係に着目するとよいことを確認する。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『私たちにできること』を学習しよう」	・ 発表し合う。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 調べ学習などとの関連

- ・ 総合的な学習、社会科などで調べ学習を行い児童がまとめた資料には、書籍やインターネットなどからの情報を丸ごとコピーしたようなものが見られる。本時で学んだことを今後の学習にいかして、分かりやすく伝わりやすい資料づくりにつなげたい。

板書例

① 題材名「情報と情報をつなげて伝える」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「情報を整理して伝えることについて学習しよう」

③ 情報を整理して伝えることについて考えさせる。
「P.68を読み、情報と情報の関係にはどのようなものがあるだろう」

④ 例文を使って、情報と情報をどうつなげて伝えればよいのか考えさせる。
「P.69を読み、1の文章に①②の文章を加えてみよう」
「また、1と2の文章の共通点を見つけ、まとめの段落を書こう」

情報と情報をつなげて伝える

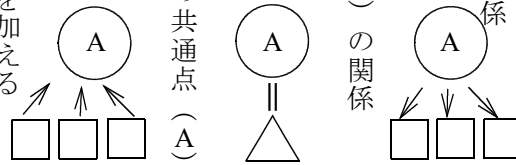
情報を整理して伝えることについて学習しよう

○情報と情報の関係

・ Aとその具体例の関係

・ Aとその説明（定義）の関係

・ 複数のものと、その共通点（A）という関係



○①の文章に②の文章を加える

（例）ブラジルは、農業がさかんな国で、アグロフォレストリーという農法が積極的に行われている。これは、生育期間が異なる樹木や作物を・・・そこに住む生物も多様になる。この農法では、いろいろな樹木や作物を育てている。具体的には、収穫まで数か月かかり、数年間収穫できるこしように、収穫まで・・・材木とする樹木を育てている。

○まとめの段落

（例）ブラジルと日本の農法は、どちらも環境や生物の多様性を大切にした農法という点である。これから人類がこの地球で生きていく上で、大切なことだと思う。

⑤ 書いたものを発表し合う。
「書けたものを発表し合おう」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、『私たちにできること』を学習しよう」

情報と情報をつなげて伝える

六年 組 名前（

今日の学習のめあて

○情報と情報の関係

・ Aとその具体例の関係

・ Aとその説明（定義）の関係

・ 複数のものと、その共通点（A）という関係

○1の文章に①②の文章を加える

Blank writing area with 10 vertical dashed lines for notes.

○まとめの段落

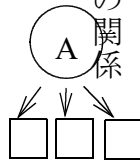
Blank writing area with 2 vertical dashed lines for notes.

今日の学習のめあて

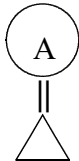
情報を整理して伝えることについて学習しよう

○情報と情報の関係

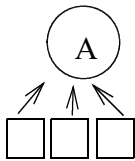
・ Aとその具体例の関係
 例えは ———— には ———— がある。



——— とは ———— のことだ。



・ 複数のものと、その共通点 (A) という関係



このように ————
 ここから考えられるのは ————

○1の文章に①②の文章を加える

(例)ブラジルは、農業がさかんな国で、アグロフォレストリーという農法が積極的に行われている。これは、生育期間が異なる樹木や作物を・・・そこに住む生物も多様になる。この農法では、いろいろな樹木や作物を育てている。具体的には、収穫まで数か月かかり、数年間収穫できること
 しようと、収穫まで・・・材木とする樹木を育てている。

○まとめの段落

(例)ブラジルと日本の農法は、どちらも環境や生物の多様性を大切にしたい農法という点である。
 これからも人類がこの地球で生きていく上で、大切なことだと思う。

20

題材名 「私たちにできること」(第1時/全5時間)

目標 資源や環境を大切にするために、自分たちができることを考えることができる。

◎ 資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちができることを進んで考える。

領域等 B書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	<p>① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちが取り組めるテーマについて考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。 <p>③ 新出漢字の練習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「策」は、中心線を「市」のように書き誤りやすい。 「忘」は、3画目は止める。 「模」は、右側の形に気をつける。 はね・止めをきちんと押さえさせる。空中に指書きさせる。 他の新出漢字は家庭学習とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。 新出漢字「策」「忘」「模」の練習をする。
展開 33分	<p>④ 学習の見通しをもたせる。 「具体的な事実をもとに、資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちができることについて提案する文章を書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> P.70 を読み、資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちができることについて提案する文章を書くこと、これから5時間をかけて、グループごとに提案する文章を書いて発表し合うことを知らせる。 <p>⑤ 身の回りで自分たちが取り組めるテーマについて考えさせる。 「学校の様子を見たり、環境問題に関する本を読んだりして、自分たちが取り組めそうなテーマを探そう」</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで話し合わせる。 教科書では、学校でできることとあるが、状況によっては、家庭でできることとしてもよい。 テーマの例…エネルギー、水、ごみ、食料 など マイクロプラスチックなど、新たな問題でもよい。 <p>⑥ 提案書を書くための資料集めについて考える。 「提案書を書くための資料を集める方法を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> P.71 の2を読み、本、インターネット、インタビューなど、方法をグループで考えさせる。次時までには資料を集めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を読み、学習の見通しをもつ。 グループで話し合い、ワークシートに書く。 グループで話し合い、ワークシートに書く。
終末 2分	<p>⑦ 資料を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> すぐに取りかかることができれば、資料集めを始めさせる。 次時までには家庭でできることがあれば、取り組ませる。 本には付箋を付け、インターネットはプリントアウトさせる。 <p>⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、提案書を書く準備をしよう」 「資料になりそうなものをできる限り集めて持ってこよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を集める。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちが取り組めるテーマについて考えよう」

③ 新出漢字の練習をさせる。
・ 「策」は、中心線を「市」のように書き誤りやすい。
・ 「忘」は、3画目は止める。
・ 「模」は、右側の形に気をつける。

④ 学習の見通しをもたせる。
「具体的な事実をもとに、資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちができることについて提案する文章を書こう」

⑤ 身の回りで自分たちが取り組めるテーマについて考えさせる。
「学校の様子を見たり、環境問題に関する本を読んだりして、自分たちが取り組めそうなテーマを探そう」

私たちにできること

資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちが取り組めるテーマについて考えよう

新出漢字

策：中心線を「市」のように書き誤りやすい。
忘：3画目は止める。
模：右側の形に気をつける。

○具体的な事実をもとに、
資源や環境を大切にするために、
身の回りで自分たちができることについて
提案する文章を書こう。

○テーマについて
例：エネルギー、水、ごみ、食料 など

○資料集めの方法
本
インターネット
インタビュー など

⑥ 提案書を書くための資料集めについて考える。
「提案書を書くための資料を集める方法を考えよう」

⑦ 資料を集める。
○ すぐに取りかかることができれば、資料集めを始めさせる。

⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、提案書を書く準備をしよう」
「資料になりそうなものをできる限り集めて持ってきてよう」

私たちにできること

六年 組 名前(

今日の学習のめあて

Blank box for today's learning goals.

○ 新出漢字の練習をしよう

下のますには、書き順を書いたり、くり返し書いたりしよう。

模		忘		策	
ボモ		ボウ わす(れる)		サク	

○ テーマについて

資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちができること

Blank box for theme-related activities.

○ 資料集めの方法

Blank box for methods of collecting materials.

私たちにできること

六年 組 名前（

今日の学習のめあて

資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちが取り組めるテーマについて考えよう

○ 新出漢字の練習をしよう

下のますには、書き順を書いたり、くり返し書いたりしよう。

模	忘	策																		
ボ モ	ボウ わす(れる)	サク																		

○ テーマについて

資源や環境を大切にするために、身の回りで自分たちができること

例・エネルギーの問題の一つとして、「節電」をテーマにする。

電気の消し忘れがあったから、すぐにできそうだから。

○ 資料集めの方法

例・家にある本から探す。

インターネットで、関係ありそうなホームページを見て集める。

21

題材名 「私たちにできること」(第2時/全5時間)

目標 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことが明確な文章の構成を考えることができる。

◎ 筋道の通った文章になるように、粘り強く文章全体の構成を考える。

領域等 B書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 提案の意図や内容が分かりやすく伝わりやすい文章の構成を考えよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 集めてきた資料をもとに、問題点や解決策を考えさせる。 「提案するテーマについての現状と問題点、提案の具体的な内容について話し合おう」 ・ グループになって、集めた資料を互いに見せたり読んだりさせた後、話し合いに入らせる。 ○ テーマに沿った内容になるように、適宜、指導助言する。 ④ 提案の意図や内容が明確な文章の構成について考えさせる。 「P.72 を読み、提案の意図や内容が分かりやすく伝わりやすい文章の構成について考えよう」 ・ 提案のきっかけ、提案、まとめの順に書くとよい。 ・ 提案の意図や内容の要旨が題名となる。 (例)テーマ「節電」 題名…節電をして、環境にやさしい学校へ 提案のきっかけ…新聞記事、学校での様子 提案…節電情報コーナーの設置、ポスター掲示 まとめ…呼びかけ ・ 提案のきっかけや内容の骨子を確認させながら文章の組み立てを考えさせる。 ○ 資料の取捨選択が大切であることを確認し、指導する。	・ グループで話し合う。 ・ ワークシートに書く。 ・ グループで話し合う。 ・ ワークシートに書く。
終末 2分	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、提案書の下書きをしよう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 自分なりの考えを
 - ・ グループになって話し合う活動が主となるが、児童一人一人に考えさせることは言うまでもない。一人一人に自分のこととして考えさせ、その上でグループでの話し合いが成立する。課題について自分なりの感想や考えを持つことができるよう、肯定的なアドバイスをしたい。
- 個別指導・机間指導
 - ・ グループでの話し合いにおいても、個別指導やグループを回っての指導、助言は大切である。児童一人一人の考えを確かなものにし、深めたりさせるためのグループでの活動であるから、児童の実態にあった言葉掛けを積極的に行い、よりよい提案書につなげたい。

板書例

① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「提案の意図や内容が分かりやすく伝わりやすい文章の構成を考えよう」

③ 集めてきた資料をもとに、問題点や解決策を考えさせる。
「提案するテーマについての現状と問題点、
提案の具体的な内容について話し合おう」

④ 提案の意図や内容が明確な文章の構成について考えさせる。
「P.72を読み、提案の意図や内容が分かりやすく伝わりやすい
文章の構成について考えよう」

私たちにできること

提案の意図や内容が分かりやすく伝わりやすい
文章の構成を考えよう

○提案するテーマについて

- ・ 現状と問題点
- ・ 提案の具体的な内容

○提案の意図や内容が明確な文章の構成

構成例

- ・ 提案のきっかけ…

経験、現状や問題点 など

提案…具体的な内容

提案が実現したときの効果 など

まとめ の順に書く。

- ・ 提案の意図や内容の要旨が題名となる。

(例)テーマ「節電」

題名…節電をして、環境にやさしい学校へ

提案のきっかけ…新聞記事、学校での様子

提案…節電情報コーナーの設置、ポスター掲示

まとめ…呼びかけ

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、提案書の下書きをしよう」

私たちにできること

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

○提案するテーマについて

現状と問題点	提案の具体的な内容
--------	-----------

○提案の意図や内容が明確な文章の構成を考えよう

【組み立てメモ】(P.72を参考にしよう)

題名	(例)節電をして、環境にやさしい学校へ
----	---------------------

①提案のきっかけ ・きつかけとなった経験 ・現状や問題点	
②提案 ・具体的な内容 ・提案が実現したときの効果	
③まとめ	

私たちにできること

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

提案の意図や内容が分かりやすく伝わりやすい 文章の構成を考えよう

○提案するテーマについて

現状と問題点

- ・電気を消し忘れている教室があった。
- ・新聞で節電に関する記事を読んだ。
- ・このままでは、・・・

提案の具体的な内容

- ・無理をしないで長く取り組めること
- ・スイッチを消し忘れない取り組み
- ・電気を・・・

○提案の意図や内容が明確な文章の構成を考えよう

【組み立てメモ】(P.72を参考にしよう)

題 名

(例)節電をして、環境にやさしい学校へ

①提案のきっかけ

- ・きっかけとなった経験
- ・現状や問題点

- ・新聞記事のこと
- ・学校での問題点

②提案

- ・具体的な内容
- ・提案が実現したときの効果

- ・節電情報コーナーの設置
 掲示物の内容、実現したときの効果
- ・教室の電気のスイッチの近くにポスターをはる

③まとめ

- ・最後に取り組みを呼びかける

22

題材名 「私たちにできること」(第3時/全5時間)

目標 事実と感想、意見とを区別して書くなどして、自分の考えが伝わるように書き方を工夫して提案書の下書きをすることができる。

◎ 自分の考えが伝わる文章になるように、粘り強く書き方の工夫を考える。

領域等 B書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。 ・ 気をつけることを知る。 ・ ワークシートに書く。 ・ 読み合い、アドバイスし合う。 ・ 次時の見通しを持つ。
展開 38分	① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 ③ 提案書の下書きを書くときに気をつけることを考えさせる。 「提案書の下書きを書くときにはどんなことに気をつけたらよいだろう」 ・ P.72の4を読ませ、考えさせる。 ・ 気をつけさせたいこと 提案の意図や内容、その効果が読み手に分かりやすいよう、具体的に書く。 内容のまとまりごとに段落を分ける、見出しを付ける、箇条書きにするなどして、読み手が提案の内容がとらえやすくする。 ④ 提案書の下書きを書かせる。 「考えが伝わるよう工夫して提案書の下書きを書こう」 「内容のまとまりごと分担して書こう」 ○ P.72 下の提案するときに使う言葉を読ませ参考にさせる。 ○ 内容のまとまりごとに、グループ内の分担を決めさせる。 ・ すでに学習した「情報と情報をつなげて伝える」で学習したことやP.73の下書きの例も参考にさせる。 ⑤ 書き上がった下書きをグループで読み合わせ、感想を伝えたり、内容、書き方についてアドバイスさせたりする。 「下書きを読み合おう」 「感想を伝えたり、内容、書き方について検討したりしよう」 ○ よいところを見つけて伝え合うように助言する。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。 ・ 気をつけることを知る。 ・ ワークシートに書く。 ・ 読み合い、アドバイスし合う。
終末 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、清書をしよう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 資料の扱いについて
 - ・ 調べ学習などで資料が見つかったら、ノートなどにひたすら書き写したり、無駄にプリントアウトしたりすることが目立つ。効率的な情報収集のしかたを指導することが大切である。見えそうな情報を集めたら、本当に必要な情報に絞り込んでから書き写すようにさせたい。
 - ・ 出典を明らかにしておくことで、信頼できる情報かどうかという説得力につながるようになる。特に、インターネットからの情報では意識させたい。
- 清書用の用紙・ペンについて
 - ・ ワークシートに下書きできるようにしてあるが、発表や掲示することを考えると、清書には画用紙や模造紙を用意したい。サインペン、フェルトペン、マーカーペン、油性ペンなども用意したい。

板書例

① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・ 「自分の考えが伝わるように工夫して下書きをしよう」

③ 提案書の下書きを書くときに気をつけることを考えさせる。

「提案書の下書きを書くときにはどんなことに気をつけたらよいだろう」

④ 提案書の下書きを書かせる。

「考えが伝わるよう工夫して提案書の下書きを書こう」

「内容のまとまりごと分担して書こう」

私たちにできること

自分の考えが伝わるように工夫して下書きをしよう

○提案書の下書きを書くときに気をつけること

- ・ 提案の意図や内容、その効果が読み手に分かりやすいよう、具体的に書く。
- ・ 内容のまとまりごとに段落を分けたり見出しを付けたたり、箇条書きにしたりして、読み手が提案の内容がとらえやすくする。

○提案書の下書きを書こう

・ 提案するときに使う言葉

きつかけを説明する

・ きつかけは、
・ 以上のことから

具体的に説明する

・ 例えば、
・ 具体的には、

・
・ というのは、
・ 実際には、

・ 内容のまとまりごとに対応しよう

・ 教科書 P.73
も参考に。

○書き上がったなら読み合おう

・ 感想

・ 検討（内容・書き方など）

⑤ 書き上がった下書きをグループで読み合わせ、感想を伝えたり、

内容、書き方についてアドバイスさせたりする。

「下書きを読み合おう」

「感想を伝えたり、内容、書き方について検討したりしよう」

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、清書をしよう」

今日の学習のめあて

自分の考えが伝わるように工夫して下書きをしよう

○提案書の下書きを書こう。

2 提案	
(1) 節電情報コーナーの設置	
1階の昇降口に、節電情報コーナーを設けて、節電に関する情報をけいじすることを提案する。「電気を消そう」と呼びかける・・・・・・・・	

23

題材名 「私たちにできること」(第4時/全5時間)

目標 下書きをグループで検討し、自分の考えが伝わるように書き方を工夫して提案書の推敲をすることができる。

◎ 自分の考えが伝わる文章になるように、粘り強く書き方の工夫を考える。

領域等 B書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 分 分かりやすく伝わりやすい提案書になるように、下書きをグループで検討して、推敲しよう。 ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 下書きをグループで検討する。 「P.74 の例を読んで、内容や書き方で工夫しているところを参考に にして、下書きについてグループで検討しよう」 ○ P.74 の作例の内容や書き方を工夫しているところなどを参考に、 検討させる。 ・ 身近な出来事を取り上げている。 ・ 具体的に書かれている。 ・ 大きなまとまりに分けられている ・ きっかけとなった経験と現状や問題点の段落を分けている。 ・ 見出しの字を大きくしている。 ・ 箇条書きを効果的に使っている。 など	・ グループで検討する。
終末 2分	④ 検討した結果をもとに下書きを推敲する。 「清書ができるように、推敲しよう」 ・ 検討の結果から、下書きに赤鉛筆で加除修正を加えるなどさせ、 清書ができるようにさせる。 ○ 推敲については、児童の実態によって分担して一人一人で行う、 複数で行う、グループ全体で行うなど、柔軟に対応する。 また、無理のない分量にさせる。 ・ 読み返したり、友達に読んでもらったりして、よりよいものに させる。 ・ グループでの清書の分担を決める。 ・ 清書の準備が整ったグループから、清書させる。 ・ 次時まで、家庭学習で清書をしておくようにさせる。 ⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、提案書を他のグループと交流しよう」	・ 推敲する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 下書き・推敲・清書という手順で丁寧に指導すると、相当な時間を要するので、次のような工夫もできる。

- ・ 清書用紙の台紙(画用紙や模造紙)と記入用紙を別々に用意する。
- ・ 台紙に鉛筆で、見出しとおおよその枠線を書き、全体のレイアウトを作成させておく。
- ・ それぞれの文章量がどのくらい(面積や何字分か)になるか見当をつけさせる。
- ・ 一つ一つの文章の面積や文字数を守って記入用紙に書かせる。
- ・ 書き上げた記入用紙を台紙に貼らせる。

板書例

① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「分かりやすく伝わりやすい提案書になるように、
下書きをグループで検討して、推敲しよう」

③ 下書きをグループで検討する。
「P.74の例を読んで、内容や書き方で工夫しているところを参考にして、
下書きについてグループで検討しよう」

私たちにできること

分かりやすく伝わりやすい提案書になるように、
下書きをグループで検討して、推敲しよう。

○下書きをグループで検討しよう

工夫しているところ、参考にしたいところ

例・身近な出来事を取り上げている。

・ 具体的に書かれている。

・ 大きなまとまりに分けられている

・ きっかけとなった経験と現状や問題点

の段落を分けている。

・ 見出しの字を大きくしている。

・ 箇条書きを効果的に使っている。など

○検討した結果をもとに下書きを推敲しよう

下書きに赤鉛筆で

書き加える

削除する

入れ替える など

④ 検討した結果をもとに下書きを推敲する。
「清書ができるように、推敲しよう」

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、提案書を他のグループと交流しよう」

私たちにできること

六年 組 名前()

W
23
)

今日の学習のめあて

○下書きをグループで検討しよう

工夫しているところ、参考にしたところ など

○検討した結果をもとに下書きの推敲をしよう。

○読み返したり、友達に読んでもらったりして、よりよいものにしていこう。

- ・字の間違いや、表現のねじれはないか。
- ・句読点は適切に使われているか。
- ・分かりにくい文章はないか。
- ・見出しなどが目立っているか。 など

○前時までの学習を振り返りながら、作業を進めよう。

- ・見出しをつけたり、表現を整えたりしながら記事を書こう。
- ・提案するときを使う言葉
 - ・きつかけを説明する「きつかけは〜」「以上のことから」
 - ・具体的に説明する「例えば〜」「具体的には〜」「〜というのは〜」「実際には〜」
- ・前に学習した「情報と情報をつなげて伝える」では、分かりやすい書き方を学んだ。

○下書きに赤鉛筆で

書き加える

削除する

入れ替える など

○清書をしよう。

私たちにできること

六年 組 名前(

W
23

今日の学習のめあて

○下書きをグループで検討しよう

工夫しているところ、参考にしたいところ

例・身近な出来事を取り上げている。

- ・具体的に書かれている。
- ・大きなまとまりに分けられている
- ・きつかけとなった経験と現状や問題点の段落を分けている。
- ・見出しの字を大きくしている。
- ・箇条書きを効果的に使っている。など

○検討した結果をもとに下書きの推敲をしよう。

○読み返したり、友達に読んでもらったりして、よりよいものにしていこう。

- ・字の間違いや、表現のねじれはないか。
- ・句読点は適切に使われているか。
- ・分かりにくい文章はないか。
- ・見出しなどが目立っているか。など

○前時までの学習を振り返りながら、作業を進めよう。

- ・見出しをつけたり、表現を整えたりしながら記事を書こう。
- ・提案するときを使う言葉
 - ・きつかけを説明する「きつかけは〜」「以上のことから」
 - ・具体的に説明する「例えば〜」「具体的には〜」「〜というのは〜」「実際には〜」
- ・前に学習した「情報と情報をつなげて伝える」では、分かりやすい書き方を学んだ。

○下書きに赤鉛筆で

書き加える

削除する

入れ替える など

○清書をしよう。

24

題材名 「私たちにできること」(第5時/全5時間)

目標 提案書を読み合っ感想を伝え合うことができる。

◎ 提案書の分かりやすいところなど、よい点を進んで見つけ、伝えようとする。

領域等 B書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 他のグループの提案書を読み合い、分かりやすいなど、よい点を見つけて感想を伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。 ワークシートに書く。
展開 33分	<p>③ 提案書を読み合う視点を考える。 「P.75 を読んで、提案書をどのように読み合ったらよいか考えよう」</p> <p>○ P.75 の内容や書き方を工夫しているところなどを参考にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的に書かれている。 自分たちにもできそうだと思えた。 提案の理由があって効果的だ。 など <p>④ 提案書を読み合っ、感想を書く。 「他のグループの提案書を読み合っ、分かりやすい、説得力がある、まねてみたい、などの感想を書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間をとって読み合わせ、ワークシートに書かせる。 よい点に目を向けさせ肯定的に感想を書かせるようにする。 児童数やグループ数によるが、できるだけ多くの提案書を読み合えるようにする。児童数が多い場合には、一つの提案書をグループ全員で読むなどして、読むものがない児童がいないようにしたい。 <p>⑤ 感想を伝え合う。 「感想を伝え合おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くのグループが感想を聞けるようにする。 相手を意識させて感想を伝え合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書く。 発表し合う。
終末 7分	<p>⑥ 学習を振り返る。 「今回の学習を振り返ろう。どんなことを学習してきたかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> P.75 の「ふりかえろう」をもとにする。 どのような言葉を使って提案を分かりやすく示したか。 提案が具体的に伝わるように何をどのように書いたか。 友達の書いた提案書を読んで、どんなところをまねしたいと思ったか。 ○ P.75 の「たいせつ」「いかそう」を読ませ、身につけた力を確認させる。 <p>⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『夏のさかり』を学習しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書く。 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「私たちにできること」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「他のグループの提案書を読み合い、
分かりやすいなど、よい点を見つけ感想を伝えよう」

③ 提案書を読み合う視点を考える。
「P.75を読んで、提案書をどのように読み合ったらよいか考えよう」

④ 提案書を読み合って、感想を書く。
「他のグループの提案書を読み合って、分かりやすい、
説得力がある、まねてみたい、などの感想を書こう」

私たちにできること

他のグループの提案書を読み合い、分かりやす
いなど、よい点を見つけ感想を伝えよう。

○提案書を読み合う視点

- ・ 具体的に書かれている。
- ・ 自分たちにもできそうだと思えた。
- ・ 提案の理由があつて効果的だ。 など

○提案書を読み合って、感想を書こう

- ・ 分かりやすい
- ・ 説得力がある
- ・ まねてみたい など

○感想を伝え合おう

○学習を振り返ろう

⑤ 感想を伝え合う。
「感想を伝え合おう」

⑥ 学習を振り返る。
「今回の学習を振り返ろう。どんなことを学習してきたかな」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『夏のさかり』を学習しよう」

私たちにできること

六年 組 名前(

今日の学習のめあて

○提案書を読み合う視点

--

○提案書を読み合って、感想を書こう

グループ名	感想

○学習をふりかえろう

--

私たちにできること

六年 組 名前()

W 24

今日の学習のめあて

他のグループの提案書を読み合い、分かりやすいなど、よい点を見つけ感想を伝えよう。

○提案書を読み合う視点

- ・具体的に書かれている。
- ・自分たちにもできそうだと思えた。
- ・提案の理由があって効果的だ。 など

○提案書を読み合って、感想を書こう

グループ名	感想
(例) Aグループ	(例) 節電情報コーナーの内容が具体的に書いてあって、自分たちにもできそうだと思った。

○学習をふりかえろう

(例) ふだんは何げなく過ごしていたけれど、資源や環境を守るために自分たちでできることがたくさんあることに気づいた。
分かりやすく提案文を書く書き方が分かった。

25

題材名 「夏のさかり」(第1時/全1時間)

目標 「夏」を表す言葉とそれらがもつ意味を知り、その語感、使い方に対する感覚などについて関心をもち、夏を知らせる手紙を書くことができる。

◎ 積極的に季節を表す語彙を豊かにし、表現の意図に応じて言葉を吟味しながら、手紙を書く。

領域等 知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「夏のさかり」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「夏」について自分の感じることを手紙で表そう。 ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 「夏のさかり」という言葉からイメージするものを発表させる。 「夏のさかり聞くと何を想像しますか」 ・ プール、海、ひまわり、かき氷など、思いつくものを挙げさせ、いくつか板書する。自分で考えさせることが大切。 ○ 日本の夏や地域の春をイメージさせて、考えさせる。必要に応じて説明を加える。 ④ 二十四節気や俳句や短歌から「夏」のイメージを広げさせる。 「夏を表す二十四節季の言葉の解説や俳句や短歌を読みましょう」 ・ 立夏…新緑や若葉 ・ 小満…草木が成長する ・ 芒種…穀物の種をまく ・ 夏至…昼が長い ・ 小暑…梅雨の終わり ・ 大暑…暑さが厳しい ・ 俳句の季語は「短夜」「くず餅」「大暑」 ⑤ 自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書かせる。 「友達やお世話になった人に、身近で感じた夏を知らせる手紙を書こう」 ・ 相手を決めさせる。 ・ 夏を感じる風景やイメージを考えさせる。 ・ イメージに合った言葉や表現を考えさせる。 ○ 地域によっては、季節や気候が異なっている場合もある。その地域の状況に合わせるか、日本の夏を想像して書かせるなど柔軟に対応する。	・ 夏から連想するものを考える。 ・ ワークシートに書く。 ・ ワークシートに書く。
終末 2分	⑥ 書いた作品を読み合って感想を伝え合わせる。 ・ 語感や言葉の使い方、選び方など、表現の工夫に着目して感想を伝え合わせる。 ○ よかったところを賞賛する。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『私と本』の学習をしよう」	・ 発表し合う。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 夏の風景に関する言葉(夏の季語)

- ・ 行事…衣替え、父の日 植物…あじさい、きゅうり・ひまわり・桃 生物…あまがえる・かたつむり・かぶと虫、ほたる、せみ、金魚 自然…朝焼け、夕立、夕焼け、雷、梅雨 生活…汗、うちわ、熱帯夜、プール、風鈴 食べ物…アイスクリーム、かき氷、麦茶、ラムネ

板書例

- ① 題材名「夏のさかり」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「夏のさかり」という言葉からイメージするものを発表させる。
「夏のさかり聞くと何を想像しますか」

④ 二十四節気や俳句や短歌から「夏」のイメージを広げさせる。
「夏を表す二十四節季の言葉の解説や俳句や短歌を読んでもみよう」

⑤ 自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書かせる。
「友達やお世話になった人に、身近で感じた夏を知らせる手紙を書こう」

夏のさかり

「夏」について自分の感じることを手紙で表そう。

○ 「夏のさかり」からイメージするもの

- ・ プール
- ・ 海
- ・ ひまわり
- ・ かき氷

○ 二十四節季の春を表す言葉

- ・ 立夏：新緑や若葉
- ・ 小満：草木が成長する
- ・ 芒種：穀物の種をまく
- ・ 夏至：昼が長い
- ・ 小暑：梅雨の終わり
- ・ 大暑：暑さが厳しい

○ 自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書こう。

- ・ 相手を決める。
- ・ 夏を感じる風景やイメージを考える。
- ・ イメージに合った言葉や表現を考える。

⑥ 書いた作品を読み合って感想を伝え合わせる。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『私と本』の学習をしよう」

今日の学習のめあて

○「夏のさかり」から想像するものを考えよう。
・何を想像するだろう。

○二十四節季の夏を表す言葉

夏を表す言葉	自然や生き物の様子
立夏	<div style="border: 1px solid black; height: 885px;"></div>
りっか	
小満	
しょうまん	
芒種	
ぼうしゆ	
夏至	
げし	
小暑	
しょうしよ	
大暑	
たいしよ	

○自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書こう
・相手を決める。
・夏を感じる風景やイメージを考える。
・イメージに合った言葉や表現を考える。

夏のさかり

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

「夏」について自分の感じることを手紙で表そう。

○「夏のさかり」から想像するものを考えよう。
・何を想像するだろう。

プール

海

ひまわり

○二十四節季の夏を表す言葉

夏を表す言葉	自然や生き物の様子
立夏	新緑や若葉
りっか	
小満	草木が成長する
しようまん	
芒種	穀物の種をまく
ぼうしゆ	
夏至	昼が長い
げし	
小暑	梅雨の終わり
しょうしょ	
大暑	暑さが厳しい
たいしょ	

○自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書こう

- ・ 相手を決める。
- ・ 夏を感じる風景やイメージを考える。
- ・ イメージに合った言葉や表現を考える。

(例) 田中先生へへ

毎日とても暑いですね。先生はお元気ですか。ぼくは、家族で一時帰国しました。おじいちゃんに住んでいる長野県に行きました。馬に乗ったり、ホタルを見つけたたり、とても楽しかったです。二学期もよろしくお願いします。

令和二年七月

26

題材名 「わたしと本」(第1時/全1時間)

目標 ・ 自分と本のかかわりについて考えることができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「わたしと本」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 自分と本とのかかわりについて考えよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 33分	③ 自分にとって本はどんな存在か考えさせる。 ④ 自分と本のかかわりについての質問に答えさせる。 P79の質問項目から、自分と本との関係を考える。 ・ 教科書にある答えの中から選ばせてもよいし、それ以外のことでもよい。 ・ どんなとき、本を読みたくなるか。 ・ どんな読み方をしているか。 ・ 本を選ぶとき、まず、どこを見るか。 ・ 読むと、自分にどんな変化が起きるか。 ・ どのくらい本を読んでいるか。 ・ どこで読むか。 ・ どんな本が好きか。 ・ どんな本が好きになれないか。 ・ これまでに読んだ本の中で、 いちばん心に残っている本の題名 ・ もう一度読んでみたい本の題名 ・ これから読みたい本の題名 ・ もし、本のない世界あったとしたら ・ 本はなんのために存在しているのか	・ 自分にとって本はどんな存在か考える。 ・ 自分と本のかかわりについての質問に答える。
終末 10分	⑤ 自分と本とのかかわりについて考えさせる。 「自分と本とのかかわりについて考えよう」 ・ 質問に答えたことを振り返らせながら、自分と本とのかかわりについてまとめさせる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『森へ』を読もう」	・ 自分と本とのかかわりについて考える。 ・ 次時の見通しを持つ。

領域等 C 読むこと

① 題材名「わたしと本」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「自分と本とのかかわりについて考えよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

自分にとって本はどんな存在か考えさせる。
本を読んでいる自分について、書こう。

④ 自分と本のかかわりについての質問に答えさせる。
P79の質問事項に答え、自分と本とのかかわりについてかいてみよう。

板書例

わたしと本

自分と本とのかかわりについて考えよう

◎自分と本とのかかわりについて質問に答えよう。
(児童の発表を書く)

◎自分と本とのかかわりについて考えよう。
(児童の発表を書く)

◎自分と本とのかかわりについて質問に答えよう。
(児童の発表を書く)

⑤ 自分と本とのかかわりについて考えさせる。
「自分と本とのかかわりについて考えよう」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、『森へ』を読もう」

今日の学習のめあて

[Blank box for learning goal]

◎自分と本とのかかわりについて考えよう。

・どんなとき、本を読みたくなるか。

[Blank box for when you want to read]

・どんな読み方をしているか。

[Blank box for reading method]

・本を選ぶとき、まず、どこを見るか。

[Blank box for what to look for when choosing a book]

・読むと、自分にどんな変化が起きるか。

[Blank box for changes after reading]

・どのくらい本を読んでいるか。

[Blank box for how much you read]

・どこで読むか。

[Blank box for where you read]

・どんな本が好きか。

[Blank box for books you like]

・どんな本が好きになれないか。

[Blank box for books you don't like]

・これまでに読んだ本の中で、いちばん心に残っている本の題名

[Blank box for favorite book title]

・もう一度読んでみたい本の題名

[Blank box for book to read again]

・これから読みたい本の題名

[Blank box for book to read next]

・もし、本のない世界あったとしたら

[Blank box for world without books]

・本はなんのために存在しているのか

[Blank box for purpose of books]

◎自分と本とのかかわりについてまとめよう。

[Large blank box for summary]

今日の学習のめあて

自分と本とのかかわりについて考えよう。

◎自分と本とのかかわりについて考えよう。

- どんなどき、本を読みたくなるか。

例・気になる本があったとき。

- どんな読み方をしているか。

例・じっくり時間をかけて読む。

- 本を選ぶとき、まず、どこを見るか。

例・目次

- 読むと、自分にどんな変化が起きるか。

例・気持ちがすっきりする。

- どのくらい本を読んでいるか。

例・月に一冊ぐらい。

- どこで読むか。

例・自分の部屋で。

- どんな本が好きか。

例・ノンフィクション

- どんな本が好きになれないか。

例・悲しい内容の本

- これまでに読んだ本の中で、いちばん心に残っている本の題名

例・「十五少年漂流記」

- もう一度読んでみたい本の題名

例・「怪盗ルパン」

- これから読みたい本の題名

例・「ハリーポッター・・・」

- もし、本のない世界あったとしたら

例・パソコンなどで読むことができるかも知れないけど、紙でできた本がないと読み
しいし、図書館で本を探す楽しみもない。

- 本はなんのために存在しているのか

例・知識を残して伝えていくため。

◎自分と本とのかかわりについてまとめよう。

例・本はあまり好きではないけれど、本を書いた人の考えにふれたり、自分の考えを広めたり
するためには大切なものなので、これからは、もっと本を読むようにしたい。

27

題材名 「森へ」(第1時/全1時間)

目標 ・ 「森へ」を読み、自分の考えを持つことができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「森へ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「森へ」を読み自分の考えをまとめよう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 1枚の写真を見て感想を発表させる。 「本文を読む前に、P.8 3の写真を見てみよう。一目見てどんな感じを受けるかな」 「自然との出会いの体験や自然について、ふだん思ったり感じたりしていることも発表しよう」 ・ 遊び、旅行、体験学習などさまざまな活動の中で身近に経験した自然について、自由に発表させる。 ④ 「森へ」を音読する。 「よく聞き、情景を思い浮かべてみよう。写真を見ながら読んでいくのもいいね」 「印象に残ったところに線を引こう」 ・ 「森へ」の全文を音読し、印象に残ったところに線を引かせる。 ・ 読めない漢字にルビを振るなどしながら読ませる。 ⑤ 「森へ」を読ませ、自分の考えをまとめさせる。 「『森へ』を読んで、どんなときに読みたくなる作品か、読むと自分にどんな変化が起きる作品かについて自分の考えをまとめよう」 ・ 自分の考えを明確にして書かせたい。 ・ 読めない漢字にルビを振るなどしながら読ませる。	・ 1枚の写真を見て感想を発表する。 ・ 「森へ」を音読を聞く。 ・ 「森へ」を読み、自分の考えをまとめる。
終末 2分	⑥ 書いた考えを発表し合わせる。 「書いた自分の考えを発表し合おう」 ・ 友達の発表を好意的、肯定的に受け止める様子を賞賛し、雰囲気高める。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『せんねん まんねん』を読もう。」	・ 書いた考えを発表し合う。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 「森へ」はもっと読ませたい作品
 - ・ 「森へ」は、本来7時間程度を要する題材である。この指導計画では、観点を持たせて自分の意見を書かせることに絞って扱っている。家庭で、あるいは時間あれば授業で、何回か繰り返し読ませるだけでもよい作品である。

領域等 C 読むこと

① 題材名「森へ」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「『森へ』を読み自分の考えをまとめよう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 1枚の写真を見て感想を発表させる。
「本文を読む前に、P.83の写真を見てみよう。
一目見てどんな感じを受けるかな」
「自然との出会いの体験や自然について、
ふだん思ったり感じたりしていることも発表しよう」

④ 「森へ」を音読する。
「よく聞き、情景を思い浮かべてみよう。
写真を見ながら読んでいくのもいいね」
「印象に残ったところに線を引こう」

板書例

森へ

「森へ」を読み自分の考えをまとめよう

◎ 『森へ』を読んで、

- ・ どんなどきに読みたくなる作品か
- ・ 読むと自分にどんな変化が起きる作品か

について自分の考えをまとめよう。

(児童の考えを書く)

⑤ 「森へ」を読ませ、自分の考えをまとめさせる。
「『森へ』を読んで、どんなどきに読みたくなる作品か、
読むと自分にどんな変化が起きる作品かについて自分の考えをまとめよう」

⑥ 書いた考えを発表し合わせる。
「書いた自分の考えを発表し合おう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『せんねん まんねん』を読もう。」

今日の学習のめあて

「森く」を読み自分の考えをまとめよう。

◎ 『森く』を読んで、

- ・どんなときに読みたくなる作品か
 - ・読むと自分にどんな変化が起きる作品か
- について自分の考えをまとめよう。

例・「森く」は、いそがしいときやフラフラするときに読むと、心が落ち着いてきます。…

題 材 名 「せんねんまんねん/続けてみよう」 (第1時/全2時間)

目 標 ・「せんねんまんねん」を読んで、感じたことや考えたことを発表することができる

領域等C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 15 分	① 扉の詩を音読させる。 ・ 扉の詩を声を合わせて読ませる。	・ 扉の詩を声を合わせて読む。
展 開 28 分	② 目次と「学習の見通しをもとう」について概略を説明する。 ・ 目次や「学習の見通しをもとう」を使って、小学校生活最後の1年間にどのような学習をするのかという見通しを持たせる。 ③ 題材名「せんねん まんねん」を黒板に書く。 ④ 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「せんねん まんねん」を読んで、感じたことや考えたことを発表しよう</div> ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 ⑤ 全文を音読させる。 「どんなことが書かれているのか考えながら読もう」 ・ 一人読み、グループ読み、全員読みと形態を変えて繰り返し音読させる。 ⑥ 読んだ感想を書かせ、発表させる。 「『せんねん まんねん』を読んで、感想を書こう。どの部分から感じたり考えたりしたかを明らかにしながら書いてみよう」 「感想を発表しよう」 ・ 発表時に、同じ部分に着目した子どもが続けて発表するように挙手指名する。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。 ・ 全文を読み、感想を書く。 ・ 感想を発表し合う。
終 末 2 分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『せんねん まんねん』を感じたことや考えたことが伝わるように音読しよう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 教師の姿勢
詩の指向性からして、ゆったり、適度のスピードで音読してやる気持ちで、明るく元気に指導にあたりたい。
- 聞き方の学習の約束
話の聞き方、話す人の方に身体を向け、話す人の目を見る、手いたずらをしない、終わりまで聞く。自分の考えなどと比較しながら聞く等、必要に応じて適宜指導する。
- 「せんねん まんねん」の表現の工夫
反復表現の工夫に気づかたい。繰り返すことで悠久の時の流れを表現している。

領域等 C 読むこと

- ① 扉の詩を音読させる。
・ 扉の詩を声を合わせて読ませる。

- ② 目次と「学習の見通しをもとう」について概略を説明する。
・ 小学校生活最後の1年間にどのような学習をするのかという見通しを持たせる。

- ③ 題材名「せんねん まんねん」を黒板に書く。

- ④ 本時の目標を黒板に書く。
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。

板書例

せんねん まんねん

「せんねん まんねん」を読んで、感じたことや考えたことを発表しよう

○どんなことが書かれているのだろう。

- ・ 大昔のこと
- ・ ヤシの木、ミミズ、ヘビ、ワニ、川が出てくる。
- ・ 出てきたものがみんなつながっている。

○読んだ感想

- ・ 大昔から今がつながっている。
- ・ 弱肉強食のようだ。
- ・ 繰り返しがおもしろい。

- ⑤ 全文を音読させる。
「どんなことが書かれているのか考えながら読もう」

- ⑥ 読んだ感想を書かせ、発表させる。
「『せんねん まんねん』を読んで、感想を書こう。
どの部分から感じたり考えたりしたかを明らかにしながら書いてみよう」

- ⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『せんねん まんねん』を感じたことや考えたことが伝わるように音読しよう」

せんねん まんねん

六年 組 名前()

W
28

今日の学習のめあて

◇読んだ感想を書いてみよう。

感じたこと、考えたことなど

どの部分から感じたり考えたりしたか

ヒント…おもしろいと思ったこと、おどろいたこと、不思議だと思ったことなどを書いてみよう。

せんねん まんねん

六年

組 名前()

記入見本例

W
28

今日の学習のめあて

「せんねん まんねん」を読んで、感じたことや考えたことを発表しよう。

◇読んだ感想を書いてみよう。

感じたこと、考えたことなど	どの部分から感じたり考えたりしたか
大昔のことが書かれているようだ。	「まだ人がやって来なかったころの」とあるから。
弱いものが強いものに食べられてしまつて命のつながりを感じた。	ミミズ、ヘビ、ワニが出てくるところ。
弱肉強食の世界が続いていると思った。	くり返し同じ表現が出てきたところ。
一連と二連に同じ表現があつておもしろいと思った。くり返しになっている。	一連と二連のほとんどの部分。

ヒント…おもしろいと思ったこと、おどろいたこと、不思議だと思ったことなどを書いてみよう。

29

題材名「せんねんまんねん/続けてみよう」（第2時/全2時間）

目標 ・「せんねんまんねん」を読んで、感じたことや考えたことを発表することができる

領域等C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「せんねん まんねん」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「せんねん まんねん」を読んで、感じたことや考えたことが伝わるように音読しよう <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 感じたことや考えたことが伝わる読み方について考えさせる。 「どのように音読したら感じたことや考えたことが伝わるだろう」 「読み方を工夫して読んでみよう」 ④ 音読のしかたについて、発表し合わせる。 「感じたことや考えたことが伝わるようにするには、どう音読したらよいだらう」 「工夫して音読し合おう」 <ul style="list-style-type: none"> 発表時に、同じ部分に着目した子どもが続けて発表するように挙手指名する。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや考えたことが伝わる読み方について考える。 工夫した読み方について発表し、音読し合う。
終末 2分	⑤ 「続けてみよう」を参考にして、自分が1年間取り組んでいく課題を決めて、書き続けていく計画を立てさせる。 「言葉日記、読書日記、世界に1冊の詩集、今日の出来事の中から、1年間通してできそうなものはどれだろう」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『いちばん大事なものは』という対話学習をしよう。」	<ul style="list-style-type: none"> 1年間通して取り組みそうなこととを決めて、計画を立てる。 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 音読の工夫
 - 詩の内容や、自分が持った感想に即して、読み方の工夫を考えさせたい。その際、具体的に、声の大きさ、強弱、速さ、間の取り方などに目を向けさせて音読させたい。また、一人で読むだけでなく、グループで読む、全員で読むなどしながら、自分の読み方と友達の読み方を比較させることで、読み方の工夫の手立てとしたい。
- 継続した取り組み
 - 「続けてみよう」では、1年間通しての継続した取り組みをねらっている。日本語の学習が十分とはいえない週1日の補習校では、家庭で継続して取り組んでいくことが日本語の学力向上に不可欠である。時間的には厳しいかも知れないが、家庭の協力を得る中で、教科書にある4つの中のいずれか

- ① 題材名「せんねん まんねん」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。声を合わせて読ませる。

③ 感じたことや考えたことが伝わる読み方について考えさせる。
 「どのように音読したら感じたことや考えたことが伝わるだろう」
 「読み方を工夫して読んでみよう」

板書例

せんねん まんねん

「せんねん まんねん」を読んで、感じたことや考えたことが伝わるように音読しよう

○読み方の工夫

- ・ 小さいものが大きいものに食べられる ←
- ・ だんだん声を大きくしていく ←
- ・ くり返しがおもしろい ←
- ・ くり返しは同じリズム、速さで読む ←

○続けてみよう

- ・ 一年間取り組んでみよう
- ・ 言葉日記
- ・ 読書日記
- ・ 世界に1冊の詩集
- ・ 今日の出来事

④ 音読のしかたについて、発表し合わせる。
 「感じたことや考えたことが伝わるようにするには、どう音読したらよいだろう」
 「工夫して音読し合おう」

⑤ 「続けてみよう」を参考にして、自分が1年間取り組んでいく課題を決めて、書き続けていく計画を立てさせる。
 「言葉日記、読書日記、世界に1冊の詩集、今日の出来事の中から、1年間通してできそうなものはどれだろう」

⑥ 次時の予告をする。
 「次の時間は、『いちばん大事なものは』という対話学習をしよう。」

せんねん まんねん

六年 組 名前（

今日の学習のめあて

◇どのように音読したら感じたことや考えたことが伝わるだろう。
読み方を工夫を考えてみよう。

感じたこと、考えたことなど

読み方の工夫

続けてみよう

六年 組 名前（

◇小学校最後の一年間、次の中から自分で課題を決め取り組んでみよう。

- ・言葉日記
- ・読書日記
- ・世界に一冊の詩集
- ・今日の出来事

せんねん まんねん

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

「せんねん まんねん」を読んで、感じたことや考えたことが伝わるように音読しよう。

◇どのように音読したら感じたことや考えたことが伝わるだろう。
読み方を工夫を考えてみよう。

感じたこと、考えたことなど	読み方の工夫
・小さいものが大きいものに食べられる。	・だんだん声を大きくしていく
・くり返しがおもしろい	・くり返しは同じリズム、同じ速さで読む。

続けてみよう

◇小学校最後の一年間、次の中から自分で課題を決め取り組んでみよう。

- ・言葉日記
- ・読書日記
- ・世界に一冊の詩集
- ・今日の出来事

一つ選んで○で囲ませるようにする。

30

題材名 「いちばん大事なものは」(第1時/全1時間)

目標 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

◎ 積極的に自分の考えを広げたりまとめたりしながら、学習の見通しをもって互いの考えを尋ね合う。

領域等 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「いちばん大事なものは」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> これからの生活で大切にしていきたいことについて考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	<p>③ これからの生活の中で、大切にしていきたいことを考えさせる。 「これからの生活の中で、どんなものや考え方を大切にしていきたいと考えますか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書 P.94 を読ませ、吹き出しの例を参考にさせ、自分の考えをワークシートに書かせる。 サッカーをすること→いっしょに遊べる友達 笑うこと <p>④ 三人一組のグループを作らせ、考えなどを聞き合わせる。 「互いの考えがよく分かるように、考えた理由や、これまでの経験などを尋ね合おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書いてあること以外のことも尋ね合わせる。 <p>⑤ メンバーを入れ替えて、聞き合わせる。 「メンバーを入れ替えて、別のグループを作り、さっきと同じように聞き合おう」 「前のグループでどんな話が出てきたかを伝えて共有しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバーの入れ替えを1～2回行う。 <p>○ 少人数の場合には、同じグループで、違った視点からとらえさせるようにする。</p> <p>⑥ 最初のグループに戻って、自分たちの考えを交流させる。 「最初のグループに戻って、印象に残った友達の考えや、広がったり深まったりした自分たちの考えを交流しよう」</p> <p>○ 変わった部分について話し合わせるが、変わらなくても考えが広がった、違う視点に気づいたということでもよい。</p> <p>⑦ 交流した結果、変わったり深まったりした自分の考えをまとめさせる。 「変わったり深まったりした自分の考えを、ワークシートに書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間があれば、読み合って意見交換してもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書く。 尋ね合う。 尋ね合う。 考えを交流する。
終末 2分	<p>⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、『利用案内を読もう』の学習をしよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しを持つ。

板書例

① 題材名「いちばん大事なものは」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・ 「これからの生活で大切にしていきたいことについて考えよう」
- ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ これからの生活の中で、大切にしていきたいことを考えさせる。

「これからの生活の中で、どんなものや考え方を大切にしていきたいと考えますか」

④ 三人一組のグループを作らせ、考えなどを聞き合わせる。

「互いの考えがよく分かるように、考えた理由や、これまでの経験などを尋ね合おう」

⑤ メンバーを入れ替えて、聞き合わせる。

「メンバーを入れ替えて、別のグループを作り、さっきと同じように聞き合おう」

いちばん大事なものは

これからの生活で大切にしていきたいことについて考えよう。

○これからの生活の中で、大切にしていきたいこと

- ・ サッカーをすること←いっしょに遊べる友達
- ・ 笑うこと

○三人一組のグループで考えなどを聞き合おう

- ・ 考えた理由
- ・ これまでの経験 など

○自分の考えをまとめよう

- ・ 交流した結果、変わった、深まった

⑥ 最初のグループに戻って、自分たちの考えを交流させる。

「最初のグループに戻って、印象に残った友達の考えや、広がったり深まったりした自分たちの考えを交流しよう」

⑦ 交流した結果、変わったり深まったりした自分の考えをまとめさせる。

「変わったり深まったりした自分の考えを、ワークシートに書こう」

⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、『利用案内を読もう』の学習をしよう」

いちばん大事なものは

六年 組 名前（

今日の学習のめあて

○これからの生活の中で、大切にしていきたいこと

○グループでの交流から

○交流した結果、変わったり深まったりした自分の考え

いちばん大事なものは

六年 組 名前

今日の学習のめあて

これからの生活で大切にしていきたいことについて考えよう

○これからの生活の中で、大切にしていきたいこと

(例) ・サッカーをすること ← いっしょに遊べる友達

・笑うこと

○グループでの交流から

(例) ・いっしょに遊ぶだけでは、・・・

・サッカーをするには、・・・

○交流した結果、変わったり深まったりした自分の考え

(例) ・友達が大事と言っても、ただいっしょに遊ぶだけではなくて、・・・

31

題材名 「利用案内を読もう」(第1時/全1時間)

目標 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。

- ◎ 身の回りのさまざまな媒体から必要な情報を見つけることに関心をもち、学習課題に沿って効果的な読み方について交流しようとする。

領域等 C読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「利用案内を読もう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 利用案内を読んで必要なことを読み取ろう。 ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 知りたい事柄に応じて、利用案内を読ませる。 「P.98 の資料から、P.96 の1の利用カードを作るために必要なことを読み取ろう」 ・ 教科書 P.98 の上の資料を読み取らせる。 ○ 1では、どの部分にあるか具体的に例を示して確認してから、2以降に進む。 「P.98 の資料から、P.97 の2の本を借りるために必要なことを読み取ろう」 ・ P.98 中央の資料から読み取らせる。 「P.98 の資料から、P.97 の3の利用しやすい図書館について必要なことを読み取ろう」 ・ P.98 下の資料から読み取らせる。	・ ワークシートに書く。 ・ ワークシートに書く。
終末 2分	④ 知りたい事柄に応じて、ウェブサイトを見させる。 「P.99 の資料から、P.97 の4の参加したいイベントについて必要なことを読み取り、考えよう」 ・ イベントを選び、理由を考えさせる ⑤ 紙媒体の情報源とウェブサイトの違いや、活用のしかたについて考えさせる。 「紙のパンフレットなどと、ウェブサイトとの違いは何だろう」 ・ P.98 と P.99 の資料を比較させ、違いについて考えさせる。 ・ 可能なら、実際に図書館のウェブサイトを見させるとよい。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『熟語の成り立ち』の学習をしよう」	・ ワークシートに書く。 ・ ワークシートに書く。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- ICT環境の違いに関して
 - ・ 日本国内でも自治体や学校により、コンピュータやタブレット端末、校内ネットワークなどのICT環境に大きな開きがある。補習授業校等においては、なおさらである。今回の学習では、教科書を用いることで、最低限の学習はできるようにはいる。できれば企業や家庭などの協力を得ながら、実際にウェブサイトを利用しながら学習を進めたり、利用した経験をもちよって学習を進めたい。授業時間内に関覧できない場合でも、あらかじめウェブサイトをプリントアウトしておき、授業の資料とするなどの工夫をしたい。

板書例

① 題材名「利用案内を読もう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「利用案内を読んで必要なことを読み取ろう。」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 知りたい事柄に応じて、利用案内を読ませる。
「P.98の資料から、P.96の1の利用カードを作るために必要なことを読み取ろう」
「P.98の資料から、P.97の2の本を借りるために必要なことを読み取ろう」
「P.98の資料から、P.97の3の利用しやすい図書館について必要なことを読み取ろう」

④ 知りたい事柄に応じて、ウェブサイトを見させる。
「P.99の資料から、P.97の4の参加したいイベントについて必要なことを読み取り、考えよう」

利用案内を読もう

利用案内を読んで必要なことを読み取ろう。

○1 利用カードを作るために必要なこと

・ 利用申込書に記入、住所と氏名が確認できる
証明書といっしょにカウンターに持参。

・ 作れるのは、市在住・在勤・在学者のみ

○2 本を借りるために必要なこと

・ 借りられる資料の数と期間

本や雑誌は合計二十冊まで

CDやDVDは中央図書館・東図書館は

四点まで、西図書館は二点まで

貸出期間は二週間

・ 借りたい本が見当たらない場合

「予約・リクエスト申込用紙」

電話やウェブサイトでも申し込める。

○3 利用しやすい図書館

・ 西わかば駅のそばに住んでいる人：西図書館

・ 遅い時間まで仕事をしている人：中央図書館

・ 車で図書館に行きたい人：東図書館

○紙のパンフレットなどと、ウェブサイトとの違い

・ 紙は、(例)持ち運べる。信頼性が高い。記憶

に残りやすい。

・ ウェブサイトは、(例)一目で分かる、リンク

がはってある。新しい情報がある。

⑤ 紙媒体の情報源とウェブサイトの違いや、
活用のしかたについて考えさせる。
「紙のパンフレットなどと、ウェブサイトとの違いは何だろう」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、『熟語の成り立ち』の学習をしよう」

利用案内を読もう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

--

○1 利用カードを作るために必要なこと

--

○2 本を借りるために必要なこと

- ・借りられる資料の数

--

- ・借りられる期間

--

- ・借りたい本が見当たらない場合

--

○3 利用しやすい図書館

西わかば駅のそばに住んでいる人
遅い時間まで仕事をしている人

--

車で図書館に行きたい人

○4 参加したいイベント

理由

--

○紙のパンフレットなどと、ウェブサイトとの違い

紙のパンフレット

ウェブサイト

--

利用案内を読もう

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

利用案内を読んで必要なことを読み取ろう。

○1 利用カードを作るために必要なこと

- ・利用申込書に記入、住所と氏名が確認できる証明書といっしょにカウンターに持参。
- ・作れるのは、市在住・在勤・在学者のみ

○2 本を借りるために必要なこと

- ・借りられる資料の数
- ・本や雑誌は、合計二十冊まで。

・CDやDVDは、中央図書館・東図書館は四点まで、西図書館は二点まで

・借りられる期間

・二週間

・借りたい本が見当たらない場合

・「予約・リクエスト申込用紙」に記入してカウンターへ申し込む。

・電話やウェブサイトでも申し込める。

○3 利用しやすい図書館

西わかば駅のそばに住んでいる人

西図書館

遅い時間まで仕事をしている人

中央図書館

車で図書館に行きたい人

東図書館

○4 参加したいイベント

(例) 工作教室

理由 ものを作ることが好きだから。

○紙のパンフレットなどと、ウェブサイトとの違い

紙のパンフレット

(例) 持ち運べる。信頼性が高い。記憶に残りやすい。

ウェブサイト

(例) 一目で分かる、リンクがはってある。新しい情報がある。

3 2

題材名 「熟語の成り立ち」(第1時/全1時間)

目標 ・ 漢字2字、3字、4字の熟語の成り立ちについて理解することができる。

領域等 伝統的な言語文化と国語の特質

	教師の働きかけ	児童の活動
導入	<p>① 題材名「熟語の成り立ち」を黒板に書く。</p> <p>② 本字の目標を黒板に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">漢字二字、三字、四字の熟語の成り立ちを調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。 <p>③ 新出漢字の練習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「縦」は、「従」にしない。 ・ 「署」は、「暑」と間違えやすい。 ・ 「臨」は、右部分を「塩」の右部分としない。 ・ はね、止めをきちんと押さえさせる。空中に指書きさせる。 <p>④ 2字熟語の組み合わせ方を確かめさせる。 「教科書を読みながら、漢字2字の熟語がどのようにできているかを確かめていこう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①意味が対になる漢字の組み合わせ(縦横) ②似た意味漢字の組み合わせ(価値) ③上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ(最善) ④「-を」「-に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ(洗顔)</p> </div> <p>⑤ P.100の①の問題に取り組ませる。 「▼問題をやってみよう」 忠誠② 強敵③ 養蚕④ 玉石① 帰国④ 苦楽② 仁愛② 温泉③ ・ 時間がかかる場合は、調べる熟語を分担させたり、全部やらずに一部を家庭学習の課題としてもよい。</p> <p>⑥ 3字熟語の組み合わせ方を確かめさせる。 「教科書を読みながら、漢字3字の熟語がどのようにできているかを確かめていこう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①「○+○○」2字の語の頭に1字を加えた熟語 ・ 上の語が下の熟語の内容を限定する。「新記録」 新→記録 ・ 上の語が下の熟語の内容を打ち消す。「無制限」 制限がない</p> <p>②「○○+○」2字の語の後ろに1字を加えた熟語 ・ 上の熟語が下の語を修飾する。「一覧表」 一覧→表 ・ 上の熟語に下の漢字が意味をそえる。「温暖化」 温暖になる</p> <p>③「○・○・○」1字の語の集りから成る熟語 「市町村」 市・町・村</p> </div> <p>⑦ 4字熟語の組み合わせ方を確かめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一字の集まりからなる熟語 春夏秋冬、都道府県、東西南北 ・ いくつかの語の集まりからなる熟語 臨時列車 臨時+列車、海水浴客 海水浴+客 	<p>・ 新出漢字「縦」「署」「臨」の練習をする。</p> <p>・ ▼の問題に取り組む。</p> <p>・ 3字熟語の組み合わせ方を確かめる。</p>

指導のポイント

○ 辞典について

- ・ 熟語の成り立ちでは、国語辞典や漢和辞典を使って学習を深めたい。できれば1人1冊あるとよい。
- ・ 事前に持ち物として用意しておくのがよい。また、辞典のない子どもには貸与できるように準備しておきたい。冊数が少ない場合は、回して順番に使わせるとか、必要なページをコピーしておくなど工夫する。熟語作りに関しては、社会科などの教科書にもたくさんの熟語があるので、参考にさせたり、関連づけて学習させたりすることもできる。

題材名「熟語の成り立ち」を黒板に書く

- ① 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・「漢字2字、3字、4字の熟語の成り立ちを調べよう
 - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

- ③ 新出漢字の練習をさせる。
 - ・「縦」は「従」にしない。・「署」は「暑」と間違えない
 - ・「臨」は、右部分を「塩」の右部分としない。

- ④ 2字熟語の組み合わせ方を確かめさせる。「教科書を読みながら、漢字2字の熟語がどのようにできているかを確認していこう

熟語の成り立ち

漢字二字、三字、四字の成り立ちを調べよう。

新出漢字

縦・・・「従」にしない
 敵・・・塾と間違えやすい
 頂・・・

収納・・・

二字熟語の組み合わせ

- ① 似た意味の漢字の組み合わせ
- ② 意味が対になる漢字の組み合わせ
- ③ 上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ
- ④ 「くを」「くに」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ

三字熟語の組み合わせ

- ① 二字の語の頭に一字を加えた熟語
 - 「高性能」「低学年」「新記録」
- ② 「〇〇+〇」
 - 上の語が下の語を打ち消すもの
 - 「不安定」「未解決」「非常識」
- ③ 「〇〇・〇」
 - 上の熟語が下の語を修飾する
 - 「一覧表」
- ④ 「〇・〇・〇」
 - 上の熟語に下の漢字が意味をそえる
 - 「温暖化」 温暖になる

漢字四字以上の熟語

- ① 一字の語の集まりから成る熟語
 - 「春夏秋冬」「都道府県」「東西南北」
- ② いくつかの語の集まりから成る熟語
 - 「臨時列車」・・・臨時列車
 - 「海水浴客」・・・海水浴客
 - 「宇宙飛行士」・・・宇宙飛行士

- ⑤ P100の問題にり組ませる。「▼問題をやってみよう

- ⑥ 4字熟語の組み合わせ方を確かめさせる。「教科書を読みながら、漢字4字の熟語がどのようにできているかを確認していこう

- ⑦ 次時の予告をする。次の漢字の広場を予告する。

熟語の成り立ち

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

熟語の成り立ちを調べよう。

○漢字二字の熟語の成り立ち

①似た意味漢字の組み合わせ「収納」

②意味が対になる漢字の組み合わせ「縦横」

③上の漢字が下の漢字を修飾する関係

④「一を」「一に」に当たる意味の漢字が

にある組み合わせ「山頂」

下に来る組み合わせ「洗顔」

○漢字三字の熟語の成り立ち

①「○+○○」二字の語の頭に一字を加えた熟語

- ・上の語が下の熟語の内容を限定する。 「高性能」高↓性能
- ・上の語が下の熟語の内容を打ち消す。 「不安定」安定しない

②「○○+○」二字の語の後ろに一字を加えた熟語

- ・上の熟語が下の語を修飾する。 「銀河系」銀河↓系
- ・上の熟語に下の漢字が意味をそえる。 「積極的」積極のような

③「○・○・○」一字の語の集りから成る熟語 「市町村」市・町・村

○漢字四字以上の熟語の成り立ち

①一字の語の集まりからなる熟語

「春夏秋冬」「都道府県」「東西南北」

②いくつかの語の集まりからなる熟語

「臨時列車」 臨時+列車
「海水浴客」 海水浴+客

熟語の成り立ち

六年 組 名前()

今日の学習のめあて

熟語の成り立ちを調べよう。

○漢字二字の熟語の成り立ち

①似た意味漢字の組み合わせ「収納」

忠誠・仁愛

②意味が対になる漢字の組み合わせ「縦横」

玉石・苦楽

③上の漢字が下の漢字を修飾する関係

にある組み合わせ「山頂」

④「一を」「一に」に当たる意味の漢字が

下に来る組み合わせ「洗顔」

強敵・温泉

養蚕・帰国

○漢字三字の熟語の成り立ち

①「○+○○」二字の語の頭に一字を加えた熟語

・上の語が下の熟語の内容を限定する。

「高性能」高↓性能

(例)低燃費
再入国

・上の語が下の熟語の内容を打ち消す。

「不安定」安定しない

(例)無関心
不公平

②「○○+○」二字の語の後ろに一字を加えた熟語

・上の熟語が下の語を修飾する。

「銀河系」銀河↓系

(例)博物館
児童会

・上の熟語に下の漢字が意味をそえる。「積極的」積極のような

(例)全体的
温暖化

③「○・○・○」一字の語の集りから成る熟語

「市町村」市・町・村

(例)上中下
松竹梅

○漢字四字以上の熟語の成り立ち

①一字の語の集まりからなる熟語

「春夏秋冬」「都道府県」「東西南北」

(例)古今東西

上下左右

加減乗除

花鳥風月

②いくつかの語の集まりからなる熟語

「臨時列車」臨時+列車

「海水浴客」海水浴+客

(例)補習授業校

国際社会

学校生活

弱肉強食

日米修好通商条約

陸上運動記録測定会

地区内歩道緑化運動強化月間

3 3

題材名 「漢字の広場②」(第1時/全1時間)

目標 第5学年までに配当されている漢字を読、正しく文の中で使うことができる。

◎ 第5学年までに配当されている漢字を積極的に使い、学習課題に沿って、出来事を説明する文章を書こうとする。

領域等 知識及び技能(1)言葉の特徴や使い方

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名「漢字の広場②」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。</p> <p>絵の中の言葉を使って、人々の行動を文章に書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し、書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	<p>③ 教科書の絵を見て、遊園地の人々の行動を想像させる。 「教科書 P.102 の絵を見て、遊園地の人々の行動を想像しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵とそこに示されている言葉を結び付けながら、遊園地の様子を想像させる。 正しい読み方と意味を確認しながら学習を進める。 思いついた児童に発表させる。 <p>④ 教科書にある言葉を使って、遊園地での人々の行動を文章に書かせる。 「教科書 P.102 の絵に示された言葉を使って、文章を書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> できるだけたくさんの文章を書かせるようにする。 同音異義語に注意させる。 なかなか書けない児童には、簡単な文例を示し、主語や様子を表す言葉を付け加えるようにさせる。 文例：男の子が断る。→男の子は、お化け屋敷に入ることをきっぱりと断る。 <p>⑤ 書いた文章を読み直させる。 「書いたら『読み直しのポイント』に沿って読み直そう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み直しのポイント <ul style="list-style-type: none"> ① 提示された漢字を正しく書いているか。 ② 送り仮名が正しいか。 ③ 提示された言葉の意味をとらえ、適切に使って文章を書いているか。 書いた文章を読み直し、間違いがあったら直させる。 時間を区切り、できるところまで読み直させる。余裕のある児童には、違う文章を考えさせる。 <p>⑥ 書けた文章を発表させる。 「書いた文章を読み合おう。よいところを見つけて教え合おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体かグループで発表し合わせ、互いのよさを認め合うようにさせる。 よいところは積極的に賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊園地の人々の行動を想像する。 ワークシートに書く。 書けた文章を読み直す。
終末 2分	<p>⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『やまなし』の学習をしよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表し合う。 次時の見通しを持つ。

板書例

- ① 題材名「漢字の広場②」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を黒板に書く。
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教科書の絵を見て、遊園地の人々の行動を想像させる。
「教科書P.102の絵を見て、遊園地の人々の行動を想像しよう」

④ 教科書にある言葉を使って、遊園地での人々の行動を文章に書かせる。
「教科書P.102の絵に示された言葉を使って、文章を書こう」

⑤ 書いた文章を読み直させる。
「書いたら『読み直しのポイント』に沿って読み直そう」

漢字の広場②

絵の中の言葉を使って、人々の行動を文章に書こう。

○教科書にある言葉を使って、
遊園地での人々の行動を文章に書こう。
例・ベビーカーの貸し出しを利用する。
・略図で確かめる。
・園内の規則を画びょうで留める。
・容器に入っているおかしの数比べる。
・遊具にぶら下がって子を支える。
・似顔絵をかいてもらう。
・広場で仮面のショーを見る。
・順序よく並ぶ。
・花を増やす手品を見る。
(児童が発表した作って文章を書く)

○『読み直しのポイント』に沿って読み直そう

- ① 提示された漢字を正しく書いているか。
- ② 送り仮名が正しいか。
- ③ 提示された言葉の意味をとらえ、適切に使って文章を書いているか。

○発表し合おう

⑥ 書けた文章を発表させる。
「書いた文章を読み合おう。よいところを見つけて教え合おう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『やまなし』の学習をしよう」

今日の学習のめあて

○教科書にある言葉を使って、遊園地での人々の行動を文章に書こう。

例・「銅像の前で、記念写真をとっています。」

A large rectangular area with vertical dashed lines, intended for writing the student's response to the task.

○『読み直しのポイント』に沿って読み直そう

- ① 提示された漢字を正しく書いてあるか。
- ② 送り仮名が正しいか。
- ③ 提示された言葉の意味をとらえ、適切に使って文章を書いているか。

今日の学習のめあて

絵の中の言葉を使って、人々の行動を文章に書こう。

○教科書にある言葉を使って、遊園地での人々の行動を文章に書こう。

例・「銅像の前で、記念写真をとっています。」

(例) ・ベビーカーの貸し出しを利用する。

・略図で確かめる。

・園内の規則を画びょうで留める。

・容器に入っているおかしの数比べる。

・遊具にぶら下がっている子を支える。

・似顔絵をかいてもらう。

・広場で仮面のショーを見る。

・順序よく並ぶ。

・花を増やす手品を見る。

・玉を減らす手品を見て、おどろく。

・酸味の強いジュースを残す。

・余ったキャンデーを友達にあげる。

・祖父が孫に手をふる。

・ジェットコースターに乗るには、条件がある。

・乗ってよいと許可がおりた。

○『読み直しのポイント』に沿って読み直そう

① 提示された漢字を正しく書いてあるか。

② 送り仮名が正しいか。

③ 提示された言葉の意味をとらえ、適切に使って文章を書いているか。

題材名 「やまなし」(第1時/全2時間)

目標 ・ 「五月」に描かれた情景を叙述に即して想像しながら読むことができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 10分	① 題材名「やまなし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 五月の谷川の情景や出来事を読み取ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 33分	③ 新出漢字の練習をさせる。 ・ 「縮」は、訓読みの仮名は「ちぢ」。 ・ 「寸」 ・ 他の新出漢字は家庭学習とする。 ④ 全文を音読して、感想を発表させる。 「印象に残った表現や内容、疑問に思うことなどを発表しよう」 ・ 音読CDを利用してもよい。 ⑤ 「五月」の谷川の情景を表現している部分に傍線を引かせる。 「P108の2行目までに描かれている谷川の情景を表す部分に傍線を引きなさい」 ・ 傍線部分を発表させるとき、川面・川底・その間という三層に分けさせると、より立体的な画面が想像できる。板書も三層で図示するとよい。 ⑥ かわせみの出現によって起こった出来事を見たかのにの兄弟の思いを想像し合わせる。 「P108の3～12行目までに描かれている、かのにの兄弟が目にした出来事を確かめよう」 ・ 次の言葉を押さえる。 「青光りの」「ぎらぎらする鉄砲だま」 「コンパスのように黒くとがっている」「にわか」 「いきなり飛びこむ」「それっきり」 「かのにの兄弟はどんな思いで見ただろうか。また、その後の思いはどうだっただろうか」 ・ 予期せぬ出来事への驚き、恐怖(パニック)、魚の身に何やらよくないことが起こったということは分かる、自分たちも恐ろしい目に遭うのではという恐怖や不安などが子どもたちの言葉で表現できればよい。	・ 新出漢字「縮」「寸」の練習をする。 ・ 全文を音読して、感想を発表し合う。 ・ 「五月」の谷川の情景を表現している部分に傍線を引く。 ・ かわせみの出現によって起こった出来事を見たかのにの兄弟の思いを想像し合う。
終末 2分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『十二月』の情景について、『五月』と比べながら読み取ろう」	・ 次時の見通しを持つ。

① 題材名「やまなし」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「五月の谷川の情景や出来事を読み取ろう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 新出漢字の練習をさせる。
・ 「縮」は、訓読みの仮名は「ちぢ」。
・ 「寸」

④ 全文を音読して、感想を発表させる。
「印象に残った表現や内容、疑問に思うことなどを発表しよう」

板書例

やまなし

五月の谷川の情景や出来事を読み取ろう

新出漢字
縮…訓読みの仮名は「ちぢ」。
寸

◎「五月」の谷川の情景

川面 なめらかな天井
つぶつぶ暗いあわ

黄金の光り
まっすぐなかげの棒
銀色の腹をひるがえして
一びきの魚

波から来る光のあみ
白い岩

川底 二ひきのかにの子ども

◎かわせみの出現
○目にしたもの
青光りの、きらきらする鉄砲だま、
コンパスのように黒くとがっている、
にわかには、いきなり飛びこむ、それっきり
○どんな思い
・ 予期せぬ出来事への驚き恐怖（パニック）
・ 魚の身に何やらよくないことが起こったとい
うことは分かる
・ 自分たちも恐ろしい目に遭うのではという恐
怖や不安

⑤ 「五月」の谷川の情景を表現している部分に傍線を引かせる。
「P108の2 行目までに描かれている谷川の情景を表す部分に
傍線を引きなさい」

⑥ かわせみの出現によって起こった出来事を見た
かにの兄弟の思いを想像し合わせる。
「P108の3～12行目までに描かれている、
かにの兄弟が目にした出来事を確かめよう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『十二月』の情景について、
『五月』と比べながら読み取ろう」

題材名 「やまなし」(第2時/全2時間)

目標 ・ 「十二月」に描かれた情景を五月と比較しながら読むことができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「やまなし」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 十二月の谷川の情景を五月と比べながら読み取ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 33分	③ 「十二月」の谷川の情景を表現している部分に傍線を引かせる。 『十二月』を読み、情景を表す部分に傍線を引きなさい ・ 傍線部分を発表させるときは、前時のように三層に分けて発表させる ④ 「五月」と「十二月」の情景や内容を対比させて読み取らせる。 『五月』と『十二月』の情景や内容を比べてみよう 『五月』は〇〇だけれど、『十二月』は〇〇だというものを見つけなければよい ・ できるだけ子ども自身で考えられればよいが、難しいようならば個別指導で助言する。 ・ 指導のポイント参照。 ⑤ なぜ「やまなし」という題名を付けたのか考えさせる。 「なぜ『やまなし』という題名にしたのだろう」 ・ 対比ながらまとめる。 ・ 作者の読者に受け止めてほしい思いが「十二月」の「やまなし」に込められている。	・ 「十二月」の谷川の情景を表現している部分に傍線を引く。 ・ 「五月」と「十二月」の情景や内容を対比させて読み取り、発表し合う。 ・ なぜ「やまなし」という題名を付けたのか考える。
終末 7分	⑥ 全文を音読せさる。 「情景や雰囲気を頭に思い描きながら、全文を通読しよう」 ・ 柔らかさ、明るさ、スピード感、恐怖、静けさ、穏やかさなどを声で表現することを考えさせる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『イーハトーヴの夢』について学習しよう」	・ 全文を音読する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 「五月」と「十二月」の対比の観点
 - ・ 日光(昼)の世界と月光(夜)の世界
 - ・ 春の若やぐ世界と冬の落ち着いた世界
 - ・ 幼いかにの兄弟と少し成長した兄弟
 - ・ 柔らかな光の世界と鉾物や鋭い光の世界
 - ・ 動的でめまぐるしい世界と静寂の世界
 - ・ 恐怖をもたらし、命を奪うものと恵みをもたらすもの
(「かわせみ」と「やまなし」という水中に飛び込んできたもの同士の対比)
 - ・ 恐怖の世界と平和な世界

① 題材名「やまなし」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・ 「十二月の谷川の情景を五月と比べながら読み取ろう」
- ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「十二月」の谷川の情景を表現している部分に傍線を引かせる。
「『十二月』を読み、情景を表す部分に傍線を引きなさい」

④ 「五月」と「十二月」の情景や内容を対比させて読み取らせる。
「『五月』と『十二月』の情景や内容を比べてみよう」

板書例

例 日光（昼）の世界 春の若やぐ世界 幼いかにの兄弟 柔らかな光の世界 動的でめまぐるしい世界 恐怖をもたらし、命をうばうもの 「かわせみ」 恐怖の世界	五月	◎ 「五月」と「十二月」を比べてみよう	川面 波が青白い火を燃やし	◎ 「十二月」の谷川の情景	やまなし
例 月光（夜）の世界 冬の落ち着きの世界 少し成長した兄弟 鉱物や鋭い光の世界	十二月		ラムネのびんの月光 白いやわらかな丸石 水晶のつぶや金雲母 川底	十二月の谷川の情景を五月と比べながら読み取ろう	

⑤ なぜ「やまなし」という題名を付けたのか考えさせる。
「なぜ『やまなし』という題名にしたのだろう」

⑥ 全文を音読せさせる。
「情景や雰囲気や頭を頭に思い描きながら、全文を通読しよう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『イーハトーヴの夢』について学習しよう」

題材名 「イーハトーヴの夢」(第1時/全2時間)

目標 ・ 文章の内容を的確に押さえながら、描かれた人物像をとらえることができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「イーハトーヴの夢」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 宮沢賢治の生き方、考え方を読み取ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 「イーハトーヴの夢」を範読する。 「宮沢賢治とはどんな人か、人柄や考え方が分かるところに線を引きながら聞こう」 ・ 子どもたちの読み取りがしやすいようにできるだけゆっくり読む。 ④ 賢治とはどんな人か、分かったことを発表させる。 「賢治の人柄や考え方で読み取れたことを発表しよう」 ・ 簡単な年譜にしてまとめると、子どもたちにも分かりやすい。 ⑤ 賢治への共感や疑問点を書かせる。 「賢治の人柄や考えをまとめてみて、賢治に対してどんな思いを持ったかな」 「いいなあ、すばらしいなあと思うことやどうしてなんだろうという疑問など、感じたままに書いてみよう」 ・ 賢治の共感や感動できる点、賢治の考え方や生き方への疑問など自由に書かせたい。 ・ 机間指導により、個別の内容を読み取る。 ・ 時間内にできなければ、家庭学習の課題にする。	・ 「イーハトーヴの夢」を聞く。 ・ 賢治とはどんな人か、分かったことを発表する。 ・ 賢治への共感や疑問点を書く。
終末 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、みんなの思いを発表し合おう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 宮沢賢治の年譜について
 - ・ 板書例につけた表は、およその流れを確認するために詳しく書いてある。実際の板書は、内容を簡略化したものでよい。

① 題材名「イーハトーヴの夢」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・ 「宮沢賢治の生き方、考え方を読み取ろう」
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「イーハトーヴの夢」を範読する。
「宮沢賢治とはどんな人か、人柄や考え方が分かるところに線を引きながら聞こう」

④ 賢治とはどんな人か、分かったことを発表させる。
「賢治の人柄や考え方で読み取れたことを発表しよう」

板書例

◎賢治への共感や疑問点	農学校をやめる	農学校を卒業 農林学校卒業 農学校の先生 として	中学のころ	小六のころ	いつごろ	出来事
	「自分で耕しながら人と話さなければ」	・ 自然に勝つためには力を合わせる↑やさしい心の通い合い ・ やさしさを育てるために、たくさんの詩や童話を書く。	・ 農学校へのさそいを断り、農学校の先生に。 ・ 苦しい農作業の中に楽しさを。工夫に喜びを。未来に希望を。 ・ 生徒に「いねの心が分かる人間になれ」	・ 自然災害による農民の苦しみを見て「農作物の被害を減らし、人々が安心して田畑を耕せるように一生をささげたい」 ↓「最新の農業技術を学ぼう」 ↓農林学校入学	・ 丸顔で色白。おとなしい。 ・ 一人遊びが好き。近くの野山で石集め。	◎宮沢賢治はどんな人だろう

イーハトーヴの夢
宮沢賢治の生き方、考え方を読み取ろう

⑤ 賢治への共感や疑問点を書かせる。
「賢治の人柄や考えをまとめてみて、賢治に対してどんな思いを持ったかな」「いいなあ、すばらしいなあと思うことやどうしてなんだろうという疑問など、感じたままに書いてみよう」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、みんなの思いを発表し合おう」

イーハトーヴの夢①

六年 組 名前 (

今日の学習のめあて

--

◎宮沢賢治はどんな人だろう

いつころ	出来事

◎賢治への共感や疑問点

イーハトーヴの夢①

六年 組 名前 (

今日の学習のめあて

宮沢賢治の生き方、考え方を読み取ろう

◎宮沢賢治はどんな人だろう

いつころ	出来事
小六のころ	<ul style="list-style-type: none"> ・丸顔で色白。おとなしい。 ・一人遊びが好き。近くの野山で石集め。
中学のころ	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による農民の苦しみを見て「農作物の被害を減らし、人々が安心して田畑を耕せるように一生をささげたい」 ↓「最新の農業技術を学ぼう」↓農林学校入学
農林学校卒業	<ul style="list-style-type: none"> ・学者へのさそいを断り、農学校の先生に。
農学校の先生として	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しい農作業の中に楽しさを。工夫に喜びを。未来に希望を。 ・生徒に「いねの心が分かる人間になれ」 ・自然に勝つためには力を合わせる↑やさしい心の通い合い ・やさしさを育てるために、たくさんの詩や童話を書く。
農学校をやめる	「自分で耕しながら人と話さなければ」

◎賢治への共感や疑問点

題材名 「イーハトーヴの夢」(第2時/全2時間)

目標 ・ 宮沢賢治への思いを発表し合って、考えを深めることができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「イーハトーヴの夢」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 宮沢賢治の生き方、考え方を読み取ろう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 「イーハトーヴの夢」全文を音読させる。 「読みたい人はいないかな」 ・ 音読希望者に挙手させて読ませる。いない場合は指名して読ませる。 ④ 賢治の生き方や考え方についての自分の考えを発表させる。 「前の時間に各自で書いた賢治への思いや疑問を発表しよう」 「たくさんのすばらしい思いや疑問の発表ができたね」 「〇〇さんの疑問について、みなさんの考えを言ってみよう」 ⑤ 賢治の理想を確かめ、各自の考えを書きまとめさせる。 「賢治の理想とする世界はどんな世界だったのだろうか」 ・ 人間がみな人間らしい生き方ができる社会 ・ 人間も動物も植物も、たがいに心が通じ合うような世界 ・ P. 120の「賢治がイーハトーヴの物語を通して追い求めた理想」という叙述に気づかせる。 「賢治の考えた理想の世界について、自分はどうか考えるかを書いてみよう」 ・ 子どもたちに改めて問いかける。	・ 全文を音読する。 ・ 賢治の生き方や考え方についての自分の考えを発表する。 ・ 賢治の理想を確かめ、各自の考えを書きまとめる。
終末 2分	⑥ 各自の考えを発表する。 「何人かの人に発表してもらおう」 ・ 時間の許す限り多くの子どもに発表させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、『言葉の変化』について学習しよう」	・ 各自の考えを発表する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 家庭学習にしたワークシートについて
 - ・ 前時、時間の都合で「賢治への思いや疑問」を家庭学習の課題とした場合は、登校直後にいったんワークシートを回収して、さっと目を通しておくと指導に生かすことができる。
- 挙手と指名
 - ・ 何人か挙手した場合でも、挙手した児童を優先しつつも指名計画により順序立てて指名する。多くの児童に発言の機会を与える。指名する場合も、学習の流れに合ったものを取り上げるようにしたい。

① 題材名「イーハトーヴの夢」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・ 「宮沢賢治への思いを発表しあって、考えを深め合おう」
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「イーハトーヴの夢」全文を音読させる。
「読みたい人はいないかな」

- ④ 賢治の生き方や考え方についての自分の考えを発表させる。
「前の時間に各自で書いた賢治への思いや疑問を発表しよう」
「たくさんのすばらしい思いや疑問の発表ができたね」
「〇〇さんの疑問について、みなさんの考えを言ってみよう」

板書例

イーハトーヴの夢

宮沢賢治への思いを発表しあって、考えを深め合おう

◎賢治の生き方や考え方について
・ (児童の考えを書いていく)

◎賢治の理想の世界とは

P120
の9行目 「賢治がイーハトーヴの物語を
通して追い求めた理想」

・ 人間がみな人間らしい生き方ができる社会
・ 人間も動物も植物も、たがいに心が通じ合う
ような世界

- ⑤ 賢治の理想を確かめ、各自の考えを書きまとめさせる。
「賢治の理想とする世界はどんな世界だったのだろうか」
「賢治の考えた理想の世界について、自分はどうか考えるかを書いてみよう」

⑥ 各自の考えを発表する。
「何人かの人に発表してもらおう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『言葉の変化』について学習しよう」

38

題材名 目 標

「言葉の変化」（第1時／全1時間）

語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができる。

◎時代や世代による言葉のちがいについて理解を深め、学習課題に沿って変化した言葉について調べようとしている。

領域等 学習の流れ

知識及び技能

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	<p>① 題材名「言葉の変化」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 言葉の変化について調べよう</p>	<p>・ 本時の目標を知る。</p> <p>・ 目標を声を合わせて読む。</p>
展 開 30 分	<p>③ 本文を音読する。 教師が範読し、その後、児童に音読をさせる ○例としてあげられている言葉について、具体的な文章をもとに説明を加える。</p> <p>①すさまじきもの、昼吠ゆる犬（枕草子） 興覚めするもの、昼に吠える犬（現代語訳） ↓ 大型台風が上陸し、すさまじい暴風雨にみまわれた。</p> <p>②あわれなるもの。孝ある人の子（枕草子） 感心なもの。孝行心のある子ども（現代語訳） ↓ 赤ん坊は、力のないあわれな声で泣き続けた。</p> <p>④ 「ノート」「マフラー」のように「スプーン」「キッチン」「シーツ」「スーツ」「コート」についても、違ういい方はないか探させる。 ○まずは、一人で探し、その後、グループで確認し合う。 また、国語辞典や類語辞典等があれば活用させる。</p> <p>⑤ 探した言葉を交流し、確認する。 ○それぞれの言葉について違う言い方を発表させるが、あまり出ないようであれば、教師が補足する。</p>	<p>・ 本文を音読する。 時代により変化した言葉について、その意味を確認する。</p> <p>・ 世代によってちがう言い方をさがし、ワークシートに書く</p> <p>・ さがした言葉を発表する。</p>
終 末 10 分	<p>⑥ 「いかそう」を読み、誰にでもわかりやすい言葉はどうかを確認する。</p> <p>⑦次時の予告をする。 「次の時間は、『秋深し』を学習します。」</p>	<p>・ 誰にでもわかりやすい言葉について考え、発表する。</p> <p>・ 次時の見通しをもつ</p>

指導のポイント

○学習の進め方に関して

- ・ 時代による言葉のちがいについては、子どもたちの力だけでは理解をし、言葉探しをするのは難しいと思われるので、本文の例と教師の補足によって学習を進める。
- ・ 世代による言葉のちがいについては、父・母と使っている言葉に違いはないか比較することや、子どもによっては祖父・祖母との会話を想起させることで、思い当たる言葉はないかという具合に、実際の経験の中から探させる。

板書例

① 題材名「言葉の変化」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「言葉の変化について調べよう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教師が全文を読む。児童にも音読させる。
「時代による言葉の変化」については教師が補足説明を入れる。
*すさまじきもの、昼吠ゆる犬（枕草子）《興覚めするもの、昼に吠える犬（現代語訳）》
↓
大型台風が上陸し、すさまじい暴風雨にみまわれた
*あわれなるもの。孝ある人の子（枕草子）《感心なもの。孝行心のある子ども（現代語訳）》
↓
赤ん坊は、力のないあわれな声で泣き続けた。

言葉の変化

言葉の変化について調べよう

・時代による変化

昔 すさまじきもの↓興ざめするもの（枕草子）
今 すざましい暴風雨↓勢いがひどく激しい
昔 あはれなる↓感心なもの（枕草子）
今 あわれだ↓かわいそうだ

・世代による変化

ノート ↓ 帳面
マフラー ↓ えりまき

探してみよう

スプーン ↓
キッチン ↓
シート ↓
スーツ ↓
コート ↓

だれにでもわかりやすい言葉はどんな言葉だろう。

⑤ 子どもから出された言葉を書き上げ、確認していく。

⑥ 誰にでもわかりやすい言葉とはどんな言葉かを考えさせ、子どもの意見を黒板に書き上げていく。

④ 「ノート」や「マフラー」を例示し、「スプーン」「キッチン」「シート」「スーツ」「コート」についてもちがう言い方がないか探させる。父簿や祖父母等の会話を想起させ、これら以外の言葉でも思い当たるものがあれば紹介させる。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『秋深し』を学習します。」

今日のめあて

世代による言葉のちがい	時代による言葉のちがい
<p style="text-align: center;">◎探してみよう</p> <p>コート ↑↓</p> <p>スーツ ↑↓</p> <p>シーツ ↑↓</p> <p>キッチン ↑↓</p> <p>スプーン ↑↓</p> <p>マフラー ↑↓</p> <p>ノート ↑↓</p> <p>えりまき ↓</p> <p>帳面 ↓</p>	<p>【昔】すさまじ ↓ (意味)</p> <p>【今】すさまじい ↓ (意味)</p> <p>【昔】あはれなり ↓ (意味)</p> <p>【今】あはれだ ↓ (意味)</p>

◎誰にでもわかりやすい言葉とは、どんな言葉だろうか？

今日のめあて

言葉の変化について調べよう

時代による言葉のちがい	
【昔】すさまじ	↓ (意味) 不調和でおもしろくない
【今】すさまじい	↓ (意味) 程度や勢いがひどく激しい
【昔】あはれなり	↓ (意味) 喜び、悲しみなどを感じ、しみじみと感動する
【今】あはれだ	↓ (意味) かわいそうである

世代による言葉のちがい	
ノート	↕ 帳面
マフラー	↕ えりまき
◎探してみよう	
スプーン	↕ さじ
キッチン	↕ 台所
シーツ	↕ 敷布
スーツ	↕ 背広
コート	↕ 上着

◎誰にでもわかりやすい言葉とは、どんな言葉だろうか？

(例) テレビやラジオのニュースなどで使われているような言葉

本や新聞などで使われているような言葉

教科書で使われているような言葉

39

題材名 目 標

「秋深し」（第1時／全1時間）

語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

◎語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。

領域等

知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「秋深し」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 秋を示す言葉を知ろう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 秋を示す言葉（立秋・処暑・白露・秋分・寒露・霜降）の部分を音読させる。教師が範読し、その後、児童に音読をさせてもよい ④ 秋を示す言葉の意味を教科書の解説をもとに確かめさせる。 ○解説で説明されていることや、使われている言葉の中にわからないものがある場合、子どもたちの中に説明できる子がいれば説明させ、いなければ教師が補足する。また、準備ができていれば辞書等を活用する。 ⑤ 教科書の短歌や俳句を読み、大まかな意味を捉えさせる。 ○意味については教師が解説する。 ・ 夕暮れ時の風なんて、いつでも吹いているものだけど、立秋の今日、吹いている風は涼しいものだなあ。 ・ 庭には朝露が一面に降りている。葉を落とした茨に近寄って見ると、鋭いとげの一つ一つに白露がきらきらと光っている ・ 鶏頭＝ヒユ科の一年生植物。夏から秋にかけ、赤・桃色・黄色などの花穂ができる。形状がニワトリの鶏冠（とさか）に似ていることからこの名がついた。花期は6月から9月頃	・ 秋を示す言葉の部分を音読する。 ・ 解説の部分から言葉の意味を確かめる。 ・ 教科書に取り上げられている短歌や俳句を声に出して読み大まかな意味を知る。
終末 10分	⑥ 二十四節気を示す言葉についても紹介する。 ・ 時間があれば辞書などを活用して調べさせるとよいが、簡単に教師が説明をするだけでもよい。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は『みんなで楽しく過ごすために』を学習します。」	・ 二十四節気を示す言葉を知る ・ 次時の見通しをもつ

指導のポイント

○語彙を豊かにし、語感や言葉の使い方を意識させるために

- ・ 音読を大切にし、教師の範読や教師のあとを追う追いかけ読み等、何度も繰り返し音読することで、言葉の響きに触れさせる。
- ・ 言葉の意味の説明を加えるときは、季節や情景をイメージさせるようにする。言葉の持つイメージを大切にしながら語感を身に付けさせたい。

板書例

① 題材名「秋深し」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「秋を示す言葉を知ろう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 本文を読ませる。
④ 秋を示す言葉の意味を解説から確認させる。解説だけでは難しい場合は、わかる子どもに補足説明させる。いなければ教師が補足説明する。

秋深し

秋を示す言葉を知ろう

- ・ 立秋 ↓ 秋がはじまる日
- ・ 処暑 ↓ 立秋から十五日目
- ・ 白露 ↓ 草木の葉につゆが結ぶころ
- ・ 秋分 ↓ 昼と夜の長さが同じになる日。ひがんの中日。
- ・ 寒露 ↓ つゆもおりそうになるころ
- ・ 霜降 ↓ しもが降りるころ

秋の短歌・俳句

とことはに吹く夕暮れの風なれど
秋立つ日こそ涼しかりけれ

藤原公実

白露や茨の刺に一つづつ

与謝蕪村

鶏頭に霜見る秋の名残かな

正岡子規

⑤ 秋の短歌・俳句については、意味は大まかに捉えさせる程度とし、繰り返し音読させることで、言葉のリズムや響き、語感を感じ取らせることを大切にしたい。

⑥ 二十四節気を読み上げていき、子どもたちにも読ませていく。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『みんなで楽しく過ごすために』を学習します。」

今日のめあて

秋を示す言葉を知ろう

秋を示す言葉

- 【立秋】 ↓ (意味) 秋がはじまる日
- 【処暑】 ↓ (意味) 立秋から十五日目
- 【白露】 ↓ (意味) 草木の葉につゆが結ぶころ
- 【秋分】 ↓ (意味) 昼と夜の長さが同じになる日。ひがんの中日。
- 【寒露】 ↓ (意味) つゆもこおりそうになるころ
- 【霜降】 ↓ (意味) しもが降りるころ

秋の短歌・俳句

とことにはに吹く夕暮れの風なれど秋立つ日こそ涼しかりけれ
 ↓ (意味) 夕暮れの時の風なんて、いつでも吹いているものだけど、立秋の今日、吹いて
 いる風邪は涼しいものだなぁ。
 白露や茨の刺に一つつつ
 ↓ (意味) 庭には朝露が一面に降りている。葉を落とした茨に近寄って見ると、鋭い
 とげの一つひとつに白露がきらきらと光っている。
 鶏頭に霜見る秋の名残かな
 ↓ (意味) 霜が降りいよいよ冬の到来だが、鶏頭に秋の名残を感じる。

二十四節気

立春	雨水	啓蟄	春分	清明	穀雨
立夏	芒種	夏至	小暑	大暑	
立秋	処暑	秋分	寒露	霜降	
立冬	小雪	大雪	冬至	小寒	大寒

40

題材名 目標

「みんなで楽しく過ごすために」（第1時／全2時間）

目的や条件を明確にしながら、話し合いの準備を進めることができる。

◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。

互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えを広げたりまとめたりしている。

領域等

知識及び技能 A話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「みんなで楽しく過ごすために」を黒板に書く。	
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 目的や条件をはっきりさせ、話し合いの準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
	③ 教科書P132-133を音読させ、話し合いの計画を立てさせる。 ○①議題をもとに、目的や条件を確認させる。 ・ 議題については、学校の状況や子どもたちの状況に合わせて設定してもよい（教科書の例は、1年生との交流遊び）。 また、目的や条件を明確にしておく。 （自分たちが楽しむのではなく、1年生を楽しませよう 等） ○②進行計画を立てさせる。 ↓ ・ グループにし、役割分担や、教科書の進め方の例を参考に進行計画を立てさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を音読する。 話し合いの計画を立てる。
終末 10分	④ 教科書P134L1~10を音読させ、自分の考えをまとめさせる。 ○③教科書の例を参考に、自分の考えを整理し、「主張」「理由」「根拠」を明確にさせてワークシートにまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を音読する。 自分の考えをワークシートに書く。
	⑤ 次時の予告をする。 「次の時間は、今、準備したことをもとに、実際に話し合いをします。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の見通しをもつ

指導のポイント

○話し合いを成功させるために

- ・ 議題をもとに話し合いの目的や条件を明確にしておく。ただ漫然と話し合いをさせると話し合いが迷走しかねない。また、実際の話し合いがうまく進まなかったときに、立ち戻る拠りどころとして目的や条件をワークシートに明記しておく。
- ・ より有意義な話し合いとなるよう、自分の考えを整理し、主張・理由・根拠を明確にさせる。場当たりの発言でなく、しっかりと準備をし、考えを述べられるようにする。自分の考えを整理する際には、ワークシートを活用するとよい。

板書例

① 題材名「みんなで楽しく過ごすために」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「目的や条件をはっきりさせ、話し合いの準備をしよう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ P132-133を読ませ、目的や条件を明確にし、話し合いの計画を立てさせる。
*議題をもとに、話し合いの目的や条件を明確にしておく。
目的や条件をワークシートに明記しておけば、実際の話し合いがうまく進まないときも、立ち戻る拠りどころにできる。
*教科書の進め方の例を参考に、グループで話し合いの計画を立てさせる。

みんなで楽しく過ごすために

目的や条件をはっきりさせ、話し合いの準備をしよう

- ・ 議題
(例) 一年生との交流でどんな遊びをするか。
- ・ 目的や条件
(例) 目的は一年生を楽しませてあげること
みんなが楽しめること
遊ぶ時間は○分間 など
- ・ 進行計画を立てる
(例) ①一人ずつ意見を言う
②質問をし、疑問を明らかにする
③話し合いをし、仮の結論を出す
④問題点がないか確かめる
⑤必要に応じて話し合い、最終決定する
- ・ 自分の考えをまとめる
〈主張〉
〈理由〉
〈根拠〉

④ P134 L1~10を読ませ、自分の考えをまとめさせる。
・話し合いを成功させるためには、自分の考えを整理し、主張や理由、根拠を明確にすることが大切であるということを押さえる。
・ワークシートを活用し、主張・理由・根拠を整理させる。

⑤ 次時の予告をする。
「次の時間は、実際に話し合いをします。」

みんなで楽しく過ごすために① 名前（

今日のめあて

【議題】

【目的】

【条件】

目的と条件

①

②

進行計画

自分の考え

《主張》

《理由》

《根拠》

みんなで楽しく過ごすために① 名前（

今日のめあて

目的や条件をはっきりさせ、話し合いの準備をしよう。

【議題】 (例) 一年生との交流でどんな遊びをするか。

【目的】 (例) 1年生を楽しませてあげること。

【条件】 (例) 遊ぶ場所・時間など

みんなが楽しめる遊びをすること。

目的と条件

- (例)
- ① 一人ずつ意見を言う
 - ② 質問をし、疑問点を明らかにする
 - ③ 話し合いをし、仮の結論を出す
 - ④ 問題点がないか確かめる
 - ⑤ 必要に応じ話し合い、最終決定する

進行計画

自分の考え

《主張》 (自分の考えを整理してまとめさせる)

《理由》

《根拠》

4 1

- 題材名** 「みんなで楽しく過ごすために」 (第2時/全2時間)
- 目標** 計画をもとに話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。
◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。
互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えを広げたりまとめたりしている。
- 領域等** 知識及び技能 A話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「みんなで楽しく過ごすために」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 計画をもとに話し合いをしよう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 教科書P134L11-P136を音読させ、話し合いで大切にポイントを確認させる。 ○教科書にあげられている以下のことに気をつけながら話し合いが進められるよう押さえる。 ・ 何を決めようとしているのか (話し合いの目的) ・ 歩み寄れる点は (共通点と異なる点) ・ 解決すべき点は (利点と問題点) ・ 考えを広げる話し合いとまとめる話し合い。 ④ グループで話し合いを進めさせる。 ○話し合い中は、机間巡視をする。話し合いが滞っているグループには、前時のワークシートに記入した「話し合いの目的や条件」に立ち戻らせたり、本時の前半で確認した話し合いのポイントに立ち戻ったり等の助言をする。	・ 本文を音読し、話し合いのポイントを確認する。 ・ 計画をもとにグループで話し合いをする。
終末 10分	⑤ 話し合いの結果報告と、感想を交流させる。 ○目的に応じて話し合うことや、計画的に話し合うことの大切さを振り返らせたい。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『伝えにくいことを伝える』を学習します。」	・ 話し合いの結果と、話し合った感想を発表する。 ・ 次時の見通しをもつ

指導のポイント

- 話し合いを進めるにあたって
 - ・ 期間指導を行いながら、話し合いが滞っているグループには、前時に確認した「目的・条件」や、本時前半で確認した「話し合いのポイント」等をもう一度確認させてから話し合いを再開するよう助言する。
- 話し合いの振り返りでは
 - ・ 話し合いを有意義なものにするためには、目的を持っていることや、計画・準備をしておくことが大切であるということに気づかせたい。そして、そのことを今後の話し合い活動に活かしていきたいという意欲につなげたい。

板書例

① 題材名「みんなで楽しく過ごすために」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「計画をもとに話し合いをしよう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ P134L11-P136を読ませ、話し合いで大切にポイントを確認させる。
教科書の本文からあげさせればよいので、ここで時間をかけ過ぎない。
・何を決めようとしているのか（話し合いの目的）
・歩み寄れる点は（共通点と異なる点）
・解決すべき点は（利点と問題点）
・目的に応じて考えを広げる話し合いとまとめる話し合いを使い分ける

みんなで楽しく過ごすために

計画をもとに話し合いをしよう

話し合いの大切なポイント

- ・何を決めるのか（話し合いの目的）
- ・歩み寄れる点は（共通点と異なる点）
- ・解決すべき点は（利点と問題点）

話し合いを使い分ける。（例）一年生との交流でどんな遊びをするか。

話し合いの結果と感想

（例）考えがまとめられていたので、わかりやすかった。

計画を立ててあったので、スムーズに話し合いを進められた。

いろいろな意見が出て、「一年生を楽しませる」という目的があったので、話し合いがまとまった。

など

④ 計画をもとに話し合いをさせる。

⑤ 話し合った結果と、話し合いをおこなった感想を発表させ交流する。
・感想を出させる中で、「目的をもって話し合うこと」や「話し合いをするには計画や準備が大切である」ということを押さえたい。

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、『伝えにくいことを伝える』を学習します。」

今日のめあて

みんなで楽しく過ごすために② 名前（

）

話し合いの結果と感想	話し合いの記録	話し合いのポイント

みんなで楽しく過ごすために② 名前（

今日のめあて

計画をもとに話し合いをしよう。

話し合いの結果と感想	話し合いの記録	話し合いのポイント	
<p>話し合いをした結果と話し合いの感想を書く</p>	<p>話し合いをしながらメモ程度でよいので記録をとる</p>	<p>何を決めようとしているのか(話し合いの目的) 歩み寄れる点は(共通点と異なる点) 解決すべき点は(利点と問題点) 考えを広げる話し合いとまとめる話し合いを目的に応じ使い分ける</p>	

）

4 2

題材名 「伝えにくいことを伝える」 (第1時/全1時間)

目標 伝えにくいことを伝えるときには、どのような伝え方をすればよいか考えることができる。
◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。

領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「伝えにくいことを伝える」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 伝えにくいことを伝えるとき、どのように伝えればよいか考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 教科書P138上段を読ませ、本時の学習場面をつかませる。 ④ 教科書P138下段を読ませ、3通りの伝え方について話し合いをさせる <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの言い方が、相手にどんな印象を与えるか意見を出させる。 ⑤ 教科書P139上段を読ませ、「伝えにくいことを伝える」ときはどのような表情や口調で伝えるとよいのか考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・上段前半の部分で大切なところを押さえる。 *正確に伝わり、冷静に受け止めてもらえるよう、言葉や表現を選ぶ。 *表情や口調などを考える。 *相手の主張を聞くことも大切。 ○これらの点を押さえた上で、「表情や口調はどうすればよいか」を考え、発表させる。すぐに意見が出ないようであれば隣同士で話し合わせてから発表させてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を音読する。 ・3通りの伝え方について考える。 ・どのような口調や表情で言えばよいか考え、発表する。
終末 10分	⑥ 教科書P139下段を読ませ、二人一組で自分の考えや事情を伝えるやりとりをさせる。 ⑦ 話し合った結果や感想を全体で交流させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、『漢字の広場③』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> ・二人一組になって自分の考えや事情を伝えるやりとりをする。 ・話し合った結果や感想を発表し、交流する。 ・次時の見通しをもつ

指導のポイント

○よりよい解決に向けて話し合いができるために

- ・本時⑤のところでは、「伝えにくいこと」を伝えるには、
 - *正確に伝わり、冷静に受け止めてもらえるよう、言葉や表現を選ぶ。
 - *表情や口調などを考える。
 - *相手の主張を聞くことも大切。

これらのことをしっかりと押さえた上で、その時の口調や表情についても考えさせたい。

板書例

①題材名「伝えにくいことを伝える」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。
・「伝えにくいことを伝えるとき、どのように伝えればいいのか考えよう。」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③教科書P138上段を音読読ませ、本時の学習場面をつかませる。

④P138の下段を読ませ、本文の3通りの言い方について相手がどう感じるか考えさせる。
・児童から出た言葉を端的に板書し、全体へ広める。

⑤教科書P139上段を読ませ、本文にある以下の点は押さえる。
*正確に伝わり、冷静に受け止めてもらえるよう、言葉や表現を選ぶ。
*表情や口調などを考える。
*相手の主張を聞くことも大切。
そして、表情や口調はどうすればよいか考えさせ、発表させる。児童の意見は教師が端的にまとめ板書していく。

二人一組でやってみよう

- ・
- ・
- ・ 表情や口調はどうすればよいか (児童の意見)
- ・ *相手の主張を聞くことも大切。
- ・ *表情や口調などを考える。
- ・ *正確に伝わり、冷静に受け止めてもらえるよう、言葉や表現を選ぶ。
- ・ ③使い方のルールを決めよう。
- ・ ②ぼくも遊びたいなあ。
- ・ (児童の意見)
- ・ ①ずるい、自分勝手だよ。

伝えにくいことを伝える

伝えにくいことを伝えるとき、どのように伝えればいいのか考えよう

どのように言えば伝わるだろう

⑥教科書P139下段を読ませ、二人一組で自分の考えや事情を伝えるやりとりをさせる。4つある中の1つをペアごとに、順に割り当ててさせる。時間に余裕があれば、二つ目、三つ目とさせてもよい。

⑦話し合った結果や感想を発表させ、全体で交流させる。

⑧次時の予告をする。「次の時間は、『漢字の広場③』を学習します。」

今日のめあて

表情や口調はどうすればよいか	伝えにくいことを伝えるときに大切なことは	このように言うと、相手がどう感じるだろうか
	* * *	<p>○ずるい、自分勝手だよ</p> <p>○ぼくも遊びたいなあ</p> <p>○使い方のルールを決めよう</p>

伝えにくいことを伝える

名前)

今日のめあて

伝えにくいことを伝えるとき、どのように伝えればいいか考えよう

このように言うと、
相手がどう感じるだろうか

○ずるい、自分勝手だよ

(例)責め立てられているようでイヤな感じがする

○ぼくも遊びたいなあ

(例)いっしょに遊びたいなあという気持ちになる

○使い方のルールを決めよう

(例)少ししかたい感じがする。ルールなしで勝手にやっていると言われてしまう。

伝えにくいことを伝えるときに
大切なことは

*

正確に伝わり、冷静に受け止めてもらえるよう、言葉や表現を選ぶ

*

表情や口調などを考える

*

相手の主張を聞くことも大切

表情や口調はどうすればよいか

(例)かたい表情やこわい表情にならないようにする。
やさしくかたりかける。

等

)

4 3

題材名 「漢字の広場③」（第1時／全1時間）

目標 教科書のイラストを見てストーリーを考え、5年生で学習した漢字を用いて物語を書き表すことができる。

◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。

領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場③」を黒板に書く。	
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 イラストを見てストーリーを考え、文章に書き表そう	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
	③ P140に出てくる漢字を教師が範読し、児童に一斉読みをさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞く。教師の範読後、声を合わせて読む。
	④ P140のイラストから気づいたことや感じたことを交流させ、ストーリーのイメージが膨らむようにさせる。 ・本時の学習活動への導入のための意見交流なので、時間はかける必要はない。児童に気づいたことや感じたことを自由に出させることで、イメージを持ちづらい子どもへのヒントとしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストからストーリーについて気づいたことや感じたことを発表する。
終末 10分	⑤ イラストから考えたストーリーを文章に書かせる。 ・クラスの数や子どもの漢字の能力に応じ、ペアやグループで書かせたり、場面ごとに分担して書かせたりしてもよい。 ・考えさせた後、クラス全体に紹介できるような発表用の短冊とペンを用意しておき、出来上がった文章を書かせておくことよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストのストーリーを考え文章で書き表す
	⑥ 書いた文章を交流させる。 ・ただ読み上げさせるだけでなく、黒板に書かせたり、発表用の短冊に書いたものを貼りだしたりさせることで、よりクラス全体に広めやすくする。 ※順番に黒板に書かせていると時間もかかるので、前もって発表用の短冊を用意しておくほうが時間の効率がよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を友だちと紹介し合う。
	⑦次時の予告をする。 ・「次の時間は、『鳥獣戯画を読む』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○漢字の定着を図るために

- ・授業の中で、漢字を読む作業、書く作業の時間をしっかりと確保する。作業を繰り返すことで定着を図りたい。そのために、学習活動①～④は効率的に短時間で済ませ、⑤・⑥の学習活動に重点を置く学習展開にする。

板書例

①題材名「漢字の広場③」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。

- ・「イラストを見てストーリーを考え、文章に書き表そう」
- ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③P140に出てくる漢字を教師が範読する。その後、児童に一斉読みをさせる。

④P140のイラストから気づいたことや感じたことを自由に交流させる。文章づくりをする。時のヒントにさせる。

(例) まほう使いの女の子が、鳥から手紙(招待状)をもらった。

まほう使いの女の子がスティックを振ると、船が現れた。

文章を考えさせるための導入なので、ここではそれほど時間はかけない。

漢字の広場③

イラストを見てストーリーを考え、文章に書き表そう

児童が考えた文章

⑤考えたストーリーを文章に書かせる。児童の人数や漢字の能力に応じ、適宜、ペアやグループで取り組ませてもよい。

※可能であれば発表用の短冊を準備しておき、考えたものを書かせておくと、発表・交流のとき、効率的に進めることができる。

⑥書いた文章を交流させる。

※ただ読み上げさせるのではなく、短冊に書いて貼りだしたり、黒板に書かせたりして、全体に広める。

⑦次時の予告をする。「次の時間は、『鳥獣戯画を読む』を学習します。」

今日のめあて

名前（

--

）

今日のめあて

イラストを見てストーリーを考え、文章に書き表そう。

(例)ネコを飼っているまほう使いの女の子のところへ、鳥が招待状を運んできた。

← 女の子がステッキをふると、空飛ぶ船が現れた。

← 女の子とネコは船に乗って移動した。空飛ぶ船の乗り心地は快適だった。

←

4 4

題材名 「『鳥獣戯画』を読む」①（第1時／全5時間）

目標 「『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者がすばらしいと感じていることを読み取ることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「『鳥獣戯画』を読む」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 『鳥獣戯画』で筆者がすばらしいと感じていることは何だろう ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ P.143 の絵を見て何の絵か想像させる。 「P.143 の絵は何の絵だろう」 ・うさぎと蛙の絵であるということや、実際には起こらないことだということに気づかせたい。 ④ 「『鳥獣戯画』を読む」を読み、『鳥獣戯画』で筆者がすばらしいと感じていることを考えさせる。 ⑤ 「筆者は『鳥獣戯画』の何がすばらしいと感じていたのだろうか」 ・筆運び、観察、漫画・アニメの祖、線、筆さばき、蛙のポーズと表情、12世紀に生み出されたこと、自由闊達のものなど。	・P.143 の絵を見て何の絵か想像する。 ・『鳥獣戯画』を読むを読み、『鳥獣戯画』で筆者がすばらしいと感じていることを考える。
終 5分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、筆者の絵に対する評価について学習しよう」 ⑦ 宿題（音読・漢字）を確認する。	・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 家庭学習にしたワークシートについて

・前時、時間の都合で「賢治への思いや疑問」を家庭学習の課題とした場合は、登校直後にいったんワークシートを回収して、さっと目を通しておくと指導に生かすことができる。

○ 挙手と指名

・何人か挙手した場合でも、挙手した児童を優先しつつも指名計画により順序立てて指名する。多くの児童に発言の機会を与える。指名する場合も、学習の流れに合ったものを取り上げるようにしたい。

板書例

① 題材名を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・『鳥獣戯画』で筆者が素晴らしいと感じていることは何だろう。
- ・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ P.143 の絵を見て何の絵か想像させる。
「P.143 の絵は何の絵だろう。」

『鳥獣戯画』を読む

『鳥獣戯画』で筆者が素晴らしいと感じていることは何だろう

○『鳥獣戯画』で筆者が素晴らしいと感じていることは何だろう。

例・筆運び

観察

漫画・アニメの祖

線

筆さばき

帰るのポーズと表情

十二世紀に生み出されたこと

自由闊達なもの

など

新出漢字

卷・・・字形「己」の部分に注意

宝

④ 筆者が素晴らしいと感じていることを考えさせる。

⑤ 筆者が素晴らしいと感じていることについて、お互いの意見を交流する。

⑥ 次時の予告をする。

『鳥獣戯画』を読む①

六年

組

名前（

記入見本例

W
44

今日の学習のめあて

『鳥獣戯画』で筆者がすばらしいと感じていることは何だろう。

○ 新出漢字の練習をしよう。下のますには、書き順を書いたり、くり返し書いたりしよう。

宝	卷	カン	ま(く)																
ホウ	たから	まき																	

◎ 『鳥獣戯画』で筆者がすばらしいと感じていることは何だろう。

例・筆運び

観察

漫画・アニメの祖

線

筆さばき

蛙のポーズと表情

十二世紀に生み出されたこと

自由闊達なもの

人類の宝

（

題材名 『鳥獣戯画』を読む（第2時／全5時間）

- 目標
- 『鳥獣戯画』の絵について筆者の評価を読み取り、それに対する自分の考えや感想を持つことができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名『鳥獣戯画』を読む」を黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 筆者の『鳥獣戯画』の絵の評価に対する自分の考えを持つ ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	<p>③ 『鳥獣戯画』を読む」を読み、絵と文章を照らし合わせながら、「絵」について書いてあることを読み取らせる。 「筆者は、絵全体の中で、どの部分を取り上げているだろうか」 「わかるところに線を引こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 墨一色、抑揚のある線と濃淡だけ、のびのびと見事な筆運び ただの空想ではなく、ちゃんと動物を観察した上で、骨格も、手足も、毛並みも、ほぼ正確にしっかりと描いている 大きさがちがうはずの兎と蛙が相撲をとっている。 兎を投げ飛ばした蛙の口から線が出ている もんどりうって転がった兎の、背中や右足の線 投げられたのに目も口も笑っている など <p>④ 筆者の『鳥獣戯画』の絵の評価について読み取らせる。 「取り上げた対象の何に着目して、どのようによいと考えているのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆運び→生き生きと躍動している 観察→本当の兎や蛙たちが今ひょいと立って遊び始めののだとしか思えない 大きさ→たしかに漫画みたいだ。 口からの線→まるで漫画のふき出しと同じようなことを、こんな昔からやっている 背中や右足の線→絵が止まっていない。動きがある。 目も口も→ほんのちょっとした筆さばきで、見事にそれを表現している。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』を読む」を読み、絵と文章を照らし合わせながら、「絵」について書いてあることを読み取る。 筆者の『鳥獣戯画』の絵の評価について読み取る。
終末 2分	<p>⑤ 筆者の評価に対する自分の考えや感想を持たせる。 「筆者がよいと感じることに対して、自分の考えや感想を書いてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の感じ方に共感する部分やそうでない部分を書かせる。 <p>⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、筆者が何をどのように評価しているのかについて学習しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の評価に対する自分の考えや感想を持つ。 次時の見通しを持つ。

① 題材名「『鳥獣戯画』を読む」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・ 「筆者の『鳥獣戯画』の絵の評価に対する自分の考えを持とう」
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「『鳥獣戯画』を読む」を読み、絵と文章を照らし合わせながら、「絵」について書いてあることを読み取らせる。
「筆者は、絵全体の中で、どの部分を取り上げているだろうか」
「わかるところに線を引こう」

④ 筆者の『鳥獣戯画』の絵の評価について読み取らせる。
「取り上げた対象の何に着目して、どのようによいと考えているのだろう」

板書例

◎筆者の評価に対する自分の考えや感想を書こう。	線	◎絵と文章を照らし合わせながら、「絵」について書いてあることを読み取ろう。	『鳥獣戯画』を読む
	・ 墨一色、抑揚のある線と濃淡だけ、のびのびと見事な筆運び ・ ただの空想ではなく、ちゃんと動物を観察した上で、骨格も、手足も、毛並みも、ほぼ正確にしっかりと描いている ・ 大きさがちがうはずの兎と蛙が相撲をとっている。 ・ 兎を投げ飛ばした蛙の口から線が出ている ・ もんどりうって転がった兎の、背中や右足の	・ 生き生きと躍動している ・ 本当の兎や蛙たちが今ひよいと立って遊び始めののだと思えない ・ たしかに漫画みたいだ。 ・ まるで漫画のふき出しと同じようなことを、こんな昔から絵が止まっていけない動きがある。	筆者の『鳥獣戯画』の絵の評価に対する自分の考えを持とう

⑤ 筆者の評価に対する自分の考えや感想を持たせる。
「筆者がよいと感じることに対して、自分の考えや感想を書いてみよう」

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、筆者が何をどのように評価しているのかについて学習しよう」

『鳥獣戯画』を読む②

W 45

六年 組 名前 ()

今日の学習のめあて

--

◎絵と文章を照らし合わせながら、「絵」について書いてあることを読み取る。
取り上げた対象の何に着目して、どのようによいと考えているのだろう。

着目している部分	筆者の評価

◎筆者の評価に対する自分の考えや感想を書こう。

『鳥獣戯画』を読む②

六年 組 名前 ()

W 45
)

今日の学習のめあて

筆者の『鳥獣戯画』の絵の評価に対する自分の考えを持とう。

◎絵と文章を照らし合わせながら、「絵」について書いてあることを読み取る。
取り上げた対象の何に着目して、どのようによいと考えているのだろう。

着目している部分	筆者の評価
<ul style="list-style-type: none"> 墨一色、抑揚のある線と濃淡だけ、のびのびと見事な筆運び 	<ul style="list-style-type: none"> 生き生きと躍動している
<ul style="list-style-type: none"> ただの空想ではなく、ちゃんと動物を観察した上で、骨格も、手足も、毛並みも、ほぼ正確にしっかりと描いている 	<ul style="list-style-type: none"> 本当の兎や蛙たちが今ひよいと立って遊び始めるのだと思えない
<ul style="list-style-type: none"> 大きさがちがうはずの兎と蛙が相撲をとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> たしかに漫画みたいだ。
<ul style="list-style-type: none"> 兎を投げ飛ばした蛙の口から線が出ている 	<ul style="list-style-type: none"> まるで漫画のふき出しと同じようなことを、こんな昔から
<ul style="list-style-type: none"> もんどりうって転がった兎の、背中や右足の線 	<ul style="list-style-type: none"> 絵が止まっていない。動きがある。
<ul style="list-style-type: none"> 投げられたのに目も口も笑っている 	<ul style="list-style-type: none"> ほんのちよつとした筆さばきで、見事にそれを表現している。

◎筆者の評価に対する自分の考えや感想を書こう。

例・漫画もアッともない昔に、墨と筆で動きのある絵を表現したところは、筆者と同意見で場らしいと思う。現代でも高く評価されているのもよくわかる。

題材名 『鳥獣戯画』を読む（第3時／全5時間）

- 目標
- ・ 絵巻物について筆者の評価を読み取り、それに対する自分の考えや感想を持つことができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	<p>① 題材名『鳥獣戯画』を読むを黒板に書く。</p> <p>② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">筆者の絵巻物の評価に対する自分の考えを持つ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	<p>③ 『鳥獣戯画』を読むを読み、筆者が「絵巻物」について書いていることを読み取らせる。 「筆者は、絵巻物についてどのようなものだと書いているだろうか。わかるところに線を引こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下の文章に気づかせたい。線を引かせた後で、ワークシートにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 『鳥獣戯画』は、漫画だけでなくアニメの祖でもあるのだ。 ・ 実際に絵巻物を手にとって、右から左へと巻きながら見ていけば、取っ組み合っていた蛙が兎を投げ飛ばしたように感じられる。 ・ 絵巻の絵は、くり広げるにつれて、右から左へと時間が流れていく。 ・ 1枚の絵だからといって、ある一瞬をとらえているのではなく、次々と時間が流れていることがわかるだろう。 <p>④ 筆者の絵巻物に対する評価について読み取らせる。 「筆者は、絵巻物をどのようによいと考えているのだろうか」 「書いてあることからまとめよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文中の絵巻物に対する評価に関する文章を選び、その要旨をまとめるようにさせる。下の文章をまとめるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 十二世紀という大昔に、まるで漫画やアニメのような、こんなに楽しく、とびきりモダンな絵巻物が生み出されたとは、なんとすてきでおどろくべきことだろう。 ・ 世界を見渡しても、これほど自由闊達なものはどこにも見つかっていない。 ・ 『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『鳥獣戯画』を読むを読み、「絵巻物」について書いてあることを読み取る。 ・ 筆者の絵巻物に対する評価について読み取る。
終末 2分	<p>⑤ 筆者の評価に対する自分の考えや感想を持たせる。 「筆者がよいと感じることに対して、自分の考えや感想を書いてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の感じ方に共感する部分やそうでない部分を書かせる。 <p>⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『鳥獣戯画』の表現や構成の工夫について学習しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の評価に対する自分の考えや感想を持つ。 ・ 次時の見通しを持つ。

① 題材名「『鳥獣戯画』を読む」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・ 「筆者の絵巻物の評価に対する自分の考えを持つよう」
- ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者が「絵巻物」について書いていることを読み取らせる。

「筆者は、絵巻物についてどのようなものだと書いているだろうか」
「わかるところに線を引こう」

④ 筆者の絵巻物に対する評価について読み取らせる。

「筆者は、絵巻物をどのようによいて考えているのだろう」
「書いてあることからまとめよう」

板書例

『鳥獣戯画』を読む

筆者の絵巻物の評価に対する自分の考えを持つよう

◎ 絵巻物について書いてあることを読み取ろう。

例・『鳥獣戯画』は、漫画だけでなくアニメの祖でもあるのだ。

・ 実際に絵巻物を手にとって、右から左へと巻きながら見ていけば、取っ組み合っていた蛙が兎を投げ飛ばしたように感じられる。

・ 絵巻の絵は、くり広げるにつれて、右から左へと時間が流れていく。

・ 1枚の絵だからといって、ある一瞬をとらえているのではなく、次々と時間が流れていることがわかるだろう。

◎ 筆者は、絵巻物をどのようによいて考えているのだろう。

例・十二世紀という大昔に、まるで漫画やアニメのような、こんなに楽しく、とびきりモダンな絵巻物が生み出されたとは、なんとすてきでおどろくべきことだろう。

・ 世界を見渡しても、これほど自由闊達なものはどこにも見つかっていない。

・ 『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。

◎ 筆者の評価に対する自分の考えや感想を書こう。

⑤ 筆者の評価に対する自分の考えや感想を持たせる。

「筆者がよいて感じることに對して、自分の考えや感想を書いてみよう」

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、『鳥獣戯画』の表現や構成の工夫について学習しよう」

『鳥獣戯画』を読む③

六年組 名前 (

W 46
)

今日の学習のめあて

--

◎筆者が「絵巻物」について書いていることを読み取らせる。筆者は、絵巻物についてどのようなものだと書いているだろうか。

◎筆者は、絵巻物をどのように考えているだろうか。書いてあることから考えて。

◎筆者の評価に対する自分の考えや感想を書こう。

『鳥獣戯画』を読む③

六年 組 名前 ()

W 46

今日の学習のめあて

筆者の絵巻物の評価に対する自分の考えを持つ。

◎筆者が「絵巻物」について書いていることを読み取らせる。筆者は、絵巻物についてどのようなものだと書いているだろう。

例・『鳥獣戯画』は、漫画だけでなくアニメの祖でもあるのだ。

・実際に絵巻物を手にとって、右から左へと巻きながら見ていけば、取っ組み合っていた蛙が兎を投げ飛ばしたように感じられる。

・絵巻の絵は、くり広げるにつれて、右から左へと時間が流れていく。

・一枚の絵だからといって、ある一瞬をとらえているのではなく、次々と時間が流れていることがわかるだろう。

◎筆者は、絵巻物をどのようによくと考えているのだろう。書いてあることからまとめよう。

例・十二世紀という大昔に、まるで漫画やアニメのような楽しくとびきりモダンな絵巻物が生み出されたとは、なんとすてきでおどろくべきことだろう。世界を見渡しても、これほど自由闊達なものはどこにも見つかつていない。『鳥獣戯画』は、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。

◎筆者の評価に対する自分の考えや感想を書こう。

例・絵巻物の考え方が、絵本、写し絵、紙芝居、漫画、アニメーションへとつながっていることはすごいと思いました。『鳥獣戯画』が人類の宝ということに同感です。

題材名 『鳥獣戯画』を読む（第4時／全5時間）

目標 ・ 筆者の表現や構成の工夫点について考えることができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名『鳥獣戯画』を読むを黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 『鳥獣戯画』の表現や構成の工夫について学習しよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ 『鳥獣戯画』を読むを読み、筆者の書き出しの工夫について読み取らせる。 「書き出しにはどのような工夫があるだろうか」 ・ 「はっけよい、のこった」「墨一色」「どうだい」など、読み手の関心を引いたり、話しかけられているように感じるような書き出しにしている。 ④ 筆者の文末表現の工夫について読み取らせる。 「文末を『返し技。』『かわず掛け』とすることでどんな効果があるのだろうか」 ・ スピード感が出る。まるで実況中継のような印象になる。 ⑤ 筆者の絵の出し方の工夫について読み取らせる。 「つながっている絵を2ページに分けて出したり、もう一回出したのはなぜだろう」 ・ 分けて出したり、つなげて出したり、比べて見せたりすることで、筆者がわかりやすく説明をしている。 ⑥ 筆者の例の取り上げ方の工夫について読み取らせる。 「絵巻物の説明をするとき、漫画やアニメのことを出したのはなぜだろう」 ・ 絵巻物が漫画やアニメにつながっていること、漫画やアニメは子どもにとって身近なものという2点に気づかせたい。	・ 「『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の書き出しの工夫について読み取る。 ・ 筆者の文末表現の工夫について読み取る。 ・ 筆者の絵の出し方の工夫について読み取る。 ・ 筆者の例の取り上げ方の工夫について読み取る。
終末 2分	⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことをまとめよう」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 指導にあたって
 - ・ 筆者は、意図的に大げさな表現を用いたり、ページを意識した挿絵の配置など大胆な構成で、わかりやすく児童の印象に残るよう工夫をしている。それらを生かし、指導者も児童の印象に残るような表情や話し方の工夫をしたい。
- 工夫のまとめかた
 - ・ 4つの工夫を取り上げているが、それぞれ児童に考えを発表させてから、それら児童の言葉をつかって黒板にまとめたい。指導案では、例を挙げておくが、この通りにまとめる必要はない。

- ① 題材名「『鳥獣戯画』を読む」を黒板に書く。
- ② 本時の目標を児童に知らせる。
 - ・ 「『鳥獣戯画』の表現や構成の工夫について学習しよう」
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。
- ③ 「『鳥獣戯画』を読む」を読み、
筆者の書き出しの工夫について読み取らせる。
「書き出しにはどのような工夫があるだろうか」

④ 筆者の文末表現の工夫について読み取らせる。
「文末を『返し技。』『かわず掛け』とすることでどんな効果があるのだろうか」

⑤ 筆者の絵の出し方の工夫について読み取らせる。
「つながっている絵を2ページに分けて出しり、
もう一回出したりしたのはなぜだろう」

板書例

『鳥獣戯画』を読む

『鳥獣戯画』の表現や構成の工夫について学習しよう

◎書き出しの工夫

「はっけよい、のこった」

「墨一色」

「どうだい」など

・ 読み手の関心を引いたり、話しかけられているように感じるような書き出しにしている。

◎文末表現の工夫

『返し技。』『かわず掛け』

・ スピード感が出る。まるで実況中継のような印象になる。

◎絵の出し方の工夫

・ わかりやすい説明になっている。

◎筆者の例の取り上げ方の工夫

・ 漫画やアニメのことを出したのは、
絵巻物が漫画やアニメにつながっている
漫画やアニメは子どもにとって身近なもの

⑥ 筆者の例の取り上げ方の工夫について読み取らせる。
「絵巻物の説明をするとき、
漫画やアニメのことを出したのはなぜだろう」

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことをまとめよう」

『鳥獣戯画』を読む④

六年 組 名前 (

今日の学習のめあて

--

◎書き出しにはどのような工夫があるだろうか。

◎文末を『返し扱。』『かわす掛け』とする、とどんな効果があるだろうか。

◎つながっている巻をページに分けて出し、もう一回出したりしたのはなぜだろうか。

◎絵巻物の説明をするとき、漫画やアニメのこゝを出したのはなぜだろうか。

『鳥獣戯画』を読む④

六年 組 名前 (

W
47
)

今日の学習のめあて

『鳥獣戯画』の表現や構成の工夫について学習しよう。

◎書き出しにはどのような工夫があるだろうか。

例・「はつげよい、のこつた」「墨二色」「どうだい」など、読み手の関心を引いたり、話しかけられているように感じるような書き出しにしている。

◎文末を『返し技』『かわす掛け』とすることでどんな効果があるだろうか。

例・スピード感が出る。まるで実況中継のような印象になる。

◎つながっている絵をページに分けて出し、もう一回出したりしたのはなぜだろうか。

例・わかりやすい説明になっている。

◎絵巻物の説明をするとき、漫画やアニメのことを出したのはなぜだろうか。

例・漫画やアニメのことを出したのは、絵巻物が漫画やアニメにつながっている。

漫画やアニメは子どもにとって身近なもの。

48

題材名 「『鳥獣戯画』を読む」⑤（第4時／全5時間）

目標 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「『鳥獣戯画』を読む」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめて発表し合おう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 『鳥獣戯画』を読んで、考えたことをまとめさせる。 「『鳥獣戯画』を読んで、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめよう」 「次のどれかを中心にまとめよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げている「絵」について ・十二世紀の「絵巻物」について ・筆者の思いや見方、考え方について ・筆者の文章の書き方について ④ まとめたことを発表し合わせる。 「まとめたことを発表し合おう」 <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの児童に発表させる。 ・よい書き方、表現などがあったら賞賛する。 ⑤ 学習を振り返り、感想を述べさせる。 「『鳥獣戯画』を読むを学習して自分の考えは広がったり深まったりしたかな」 <ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習に生かせるように、肯定的に評価するようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『鳥獣戯画』を読んで、考えたことをまとめる。 ・まとめたことを発表し合う。 ・学習を振り返り、感想を述べる。
終 5分	⑥ 次時の予告をする。 次の時間は、「調べた情報の使い方／日本文化を発信しよう。」 ⑦ 宿題（音読・漢字）を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 本時の指導について

・本時は、『鳥獣戯画』を読んで新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめさせる。教科書にある次の4つのテーマ、「取り上げている『絵』について」、「十二世紀の『絵巻物』について」、「筆者の思いや見方、考え方について」、「筆者の文章の書き方について」のどれかを選ばせて書かせる。これらは、前時まで学習してきたことと重なっている。前時までに取り組んだワークシートで学習を振り返らせ、自分の考えを自分なりの言葉で書かせたい。文章をまとめることに抵抗がある児童には、前時までのワークシートに書いたものを再構成させる、加筆させるなどして書かせる。また、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことにこだわらず、「『鳥獣戯画』を読んで」の感想文でもよい。児童の実態に応じて指導し、自分の考えを書くことに苦手意識や抵抗感を持たせないようにしたい。

板書例

① 題材名を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめて発表し合おう。」
・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ 『鳥獣戯画』を読んで、考えたことをまとめさせる。
「『鳥獣戯画』を読んで、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめよう。」

『鳥獣戯画』を読む

新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめて発表し合おう

○ 『鳥獣戯画』を読んで、新しく知ったこと、見方が広がったと思うこと

- ・ 取り上げている「絵」について
- ・ 十二世紀の「絵巻物」について
- ・ 筆者の思いや見方、考え方について
- ・ 筆者の文章の書き方について

○ まとめたことを発表し合わせる。

(児童が発表した内容を書く)

○ 学習を振り返ろう

④ まとめたことを発表し合わせる。

⑤ 学習を振り返り、感想を述べさせる。
「『鳥獣戯画』を読む学習を通して、自分の考えは広がったり深まったりしましたか。」

⑥ 次時の予告をする。

『鳥獣戯画』を読む⑤

六年組 名前 (

今日の学習のめあて

--

◎ 『鳥獣戯画』を読んで、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめよう。次のどれかを中心にまとめよう。

- ・ 取り上げている「絵」について
- ・ 十二世紀の「絵巻物」について
- ・ 筆者の思いや見方、考え方について
- ・ 筆者の文章の書き方について

◎ 「『鳥獣戯画』を読む」の学習をふり返ろう。

『鳥獣戯画』を読む⑤

六年 組 名前 (

W 48
)

今日の学習のめあて

新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめて発表し合おう。

◎ 『鳥獣戯画』を読んで、新しく知ったこと、見方が広がったと思うことについて自分の考えをまとめよう。次のどれかを中心にまとめよう。

- ・ 取り上げている「絵」について
- ・ 十二世紀の「絵巻物」について
- ・ 筆者の思いや見方、考え方について
- ・ 筆者の文章の書き方について

例・ わたしは、十二世紀の絵巻物について、今の漫画やアニメの祖と書かれていたことに同感です。また雑誌やテレビもないはるか昔に、動きのある絵巻物が作られたというのは、画期的なことだと思います。こんなにレベルの高いものだとは思いませんでした。・・・

◎ 「『鳥獣戯画』を読む」の学習をふり返ろう。

例・ 『鳥獣戯画』の学習をとおして、十二世紀という昔に、日本にはすばらしい文化があったのだということを知りました。それが、現代の世界に通じる日本のアニメにつながっているのだと思います。・・・

49

題材名 目標

「調べた情報の使い方／日本文化を発信しよう」（第1時／全1時間）
 伝えたいことに合わせた文章の構成や絵、写真の使い方の工夫について知ることができる。
 ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「調べた情報の使い方／日本文化を発信しよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 伝えたいことに合わせた文章構成や絵、写真の使い方を知ろう	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ P152を読ませ、「調べた情報の使い方」について確認させる。 ・教師が範読したのち、音読をさせるとよい。 ・以下の点を押さえる *引用・・・引用部分と他を区別する。元の文章をそのまま使う。出典を示す。 *出典・・・調べた本などの筆者・書名・発行年・出版社を示す。 *著作権・・・著作物を使うときは許可が必要 ④ P153-157「日本文化を発信しよう」を読み、読み手に伝わるような文章の構成や絵、写真の使い方の工夫を確認させる。 ・教師が範読し、児童に音読をさせるとよい。 ・児童に読ませる際、番号ごとにパンフレット作成例を一つひとつ押さえていくと、時間をかけすぎず効率よく進められる ①題材を決め、構想を練る ②調べる ③構成を考える ④絵や写真の割り付けを決め、下書きを書く ⑤清書をする ○教科書の「パンフレットの構成の例」、「文章構成の例」、「ページの割り付けの例」、「下書きの例」、「紙面の例」など、具体的な例を示しながら確認させていく。 ・P157の「たいせつ」のところで、パンフレット等を作るときに大切なポイントを押さえる。	・教科書P152を読み、調べた情報を用いる方法について知る ・P153-157を読み、読み手に伝わるような文章の構成や絵、写真の使い方の工夫を知る。
終末 10分	⑤次時の予告をする。 ・「次の時間は、『古典芸能の世界——演じて伝える』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 読み手に伝わる文章構成と絵、写真の使い方の工夫について
 - ・本来は、児童に実際にパンフレットづくりをさせることを通して、読み手に伝わる文章構成や絵、写真の使い方を気づかせていきたいが、そこまで時間を割くことが難しいので、教科書のパンフレットづくりを例にあげ、その作成方法を読むことで、確認させる。

板書例

① 題材名「調べた情報の使い方／日本文化を発信しよう」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「伝えたいことに合わせた文章構成や絵、写真の使い方を知ろう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ P152を読ませ、「調べた情報の使い方」について確認させる。

・教師が範読したのち、音読をさせるとよい。

・以下の3点を押さえる

*引用 *出典 *著作権

調べた情報の使い方／日本文化を発信しよう

伝えたいことに合わせた文章構成や絵、写真の
使い方を知ろう

○ 調べた情報の使い方

*引用 ↓ 引用部分と他を区別する。元の

文章をそのまま使う。出典を示す。

*出典 ↓ 調べた本などの筆者・書名・発行年

・出版社を示す。

*著作権 ・著作物を使うときは許可が必要

○ 日本文化を発信しよう（パンフレット作成）

① 題材を決め、構想を練る

② 調べる

③ 構成を考える

・パンフレットの構成例

・文章構成の例

④ 絵や写真の割り付けを決め、下書きを書く

・ページの割り付けの例

・下書きの例

⑤ 清書をする

・紙面の例

たいせつ

・伝えたいことを明確にし、効果的に伝わる
文章構成を考える。

・絵や写真などと文章の組み合わせを工夫し
て読み手を引きつける。

④ P153-157「日本文化を発信しよう」を読み、読み手に伝わるような文章の構成や絵、写真の使い方の工夫を確認させる。

・番号ごとに読み、一つひとつ以下のことを押さえていくと、効率よく進められる

① 題材を決め、構想を練る

② 調べる

③ 構成を考える・・・パンフレット構成の例・文章構成の例

④ 絵や写真の割り付けを決め、下書きを書く・・・ページの割り付けの例・下書きの例

⑤ 清書をする・・・紙面の例

・たいせつのところで、パンフレット作りで大切なポイントを押さえる。

⑤ 次時の予告をする。「次の時間は、『古典芸能の世界——演じて伝える』を学習します。」

今日のめあて

調べた情報の使い方

引用

出典

著作権

パンフレットの作り方の例

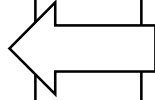
①

②

③

④

⑤



たいせつ

今日のめあて

伝えたいことに合わせた文章構成や絵、写真の使い方を知ろう

調べた情報の使い方

引用

引用部分と他を区別する。元の文章をそのまま使う。出典を示す。

出典

調べた本などの筆者・書名・発行年・出版社を示す。

著作権

著作物を使うときは許可が必要

パンフレットの作り方の例

『日本文化を発信しよう』

① 題材を決め、構想を練る

② 調べる

③ 構成を考える

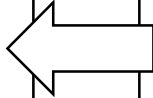
④ 絵や写真の割り付けを決め、下書きを書く。

⑤ 清書をする。

たいせつ

・伝えたいことを明確にし、効果的に伝わる文章構成を考える。

・絵や写真などと文章の組み合わせを工夫して読み手を引きつける。



50

題材名 「古典芸能の世界——演じて伝える」（第1時／全1時間）

目標 古典芸能についての理解を深めることができる。

◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方について知識を得ている。

領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「古典芸能の世界——演じて伝える」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 古典芸能について知ろう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 本文を音読させる。 教師が範読し、その後に、児童に音読をさせてもよい。 ④ 教科書に紹介されている古典芸能についての理解を深めさせる ○狂言……室町時代からの喜劇。2・3人でせりふやしぐさを中心に演じられる。何もない舞台上で演じられるため、観客は様子を想像して楽しむ。 能……室町時代からの悲劇。登場人物の他、歌や楽器も登場する。能面を用い、観客はそこから登場人物の気持ちを想像して楽しむ。能の間に狂言が演じられることが多い。 歌舞伎…江戸時代に誕生し、音楽やおどり、せりふやしぐさを合わせた演劇。独特の演出や演技がある。 人形浄瑠璃…江戸時代に生まれた。せりふや様子を語る「太夫」、伴奏の「三味線」、人形をあやつる「人形づかい」によって演じられる。	・ 本文を音読する ・ 古典芸能について知り、ワークシートにそれぞれの特徴をまとめていく。
終末 10分	・ 児童の理解をより深めるために、写真・DVD等の資料を準備できるとさらによい。 ・ 時間に余裕があるようであれば、音読後、まずは各自が一人読みをしながらワークシートにまとめ、そして、全体で確認してもよい。 ⑤ さらに知りたいことや見てみたいと思ったものなどを交流させる。 ⑥ 次時の予告をする。 ・ 「次の時間は、『カンジ博士の漢字学習の秘伝』を学習します。」	・ 紹介された古典芸能について、もっと知りたいことや見てみたいと思ったものを発表し交流する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○より理解を深めるために

- ・ 教科書の本文や写真を単に見たり、読んだりするだけでなく、イメージが膨らむよう教師が解説を加えられるとよい。
- ・ 書籍や写真、DVDやデジタル資料などを用意できるとさらによい。

板書例

①題材名「古典芸能の世界——演じて伝える」を黒板に書く。

- ②本時の目標を児童に知らせる。
- ・「古典芸能について知ろう。」
 - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。
- ③本文を音読させる。

- ④教科書に紹介されている古典芸能のそれぞれの特徴をワークシートにまとめさせる。
- ・狂言……室町時代からの喜劇。2・3人でせりふやしぐさを中心に演じられる。何もない舞台上で演じられるため、観客は様子を想像して楽しむ。
 - 能……室町時代からの悲劇。登場人物の他、歌や楽器も登場する。能面を用い、顔の向きで表情を変え、観客はそこから人物の気持ちを想像して楽しむ。能の間に狂言が演じられることが多い。
 - 歌舞伎……江戸時代に誕生し、音楽やおどり、せりふやしぐさを合わせた演劇。独特の演出や演技がある。
 - 人形浄瑠璃……江戸時代に生まれた。せりふや様子を語る「太夫」、伴奏の「三味線」、人形をあやつる「人形づかい」によって演じられる。

古典芸能の世界——演じて伝える

古典芸能について知ろう

・狂言——室町時代からの喜劇。二・三人でせりふやしぐさを中心に演じる。何もない舞台上で演じるため、様子を想像して楽しむ。

・能——室町時代からの悲劇。歌や楽器も登場する。能面を用い、顔の向きで表情を変え、そこから気持ちを想像して楽しむ。

・歌舞伎——江戸時代に生まれる。音楽やおどり、せりふやしぐさを合わせた演劇。独特の演出や演技がある。

・人形浄瑠璃——江戸時代に生まれる。せりふや様子を語る「太夫」、伴奏の「三味線」、人形をあやつる「人形づかい」によって演じられる。

もつと知りたいこと、見てみたいもの

・狂言——（理由）

・歌舞伎——（理由）

・狂言——（理由）

・歌舞伎——（理由）

- ⑤さらに知りたいことや、見てみたいと思ったものを交流させる。
- ・子どもの発言を端的にまとめ、黒板に書いてあげると、より全体に広がりやすい。

- ⑥次時の予告をする。
- 「次の時間は、『カンジ博士の漢字学習の秘伝』を学習します。」

今日のめあて

日本の古典芸能

狂言

能

歌舞伎

人形浄瑠

- もっと知りたいこと
- 見てみたいもの

今日のめあて

古典芸能について知ろう

狂言

室町時代からの喜劇。二・三人でせりふやしぐさを中心に演じる。何も無い舞台上で演じるため、様子を想像して楽しむ。

能

室町時代からの悲劇。歌や楽器も登場する。能面を用い、顔の向きで表情を変え、そこから気持ちを想像して楽しむ。

歌舞伎

江戸時代に生まれる。音楽やおどり、せりふやしぐさを合わせた演劇。独特の演出や演技がある。

人形浄瑠

江戸時代に生まれる。せりふや様子を語る「太夫」、伴奏の「三味線」、人形をあやつる「人形づかい」によって演じられる。

日本の古典芸能

- もっと知りたいこと
- 見てみたいもの

(例) 能……「能面のような顔」という言葉があるので、

どんなお面なのか見てみたい。

お面の向きを変えるだけで表情が変わるといのは、
どんな風になるのか見てみたい。

5 1

題材名 「カンジー博士の漢字学習の秘伝」（第1時／全1時間）
目標 漢字学習についての秘伝を知り、自分自身の漢字学習にいかすことができる。
 ◎第6学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。
領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「カンジー博士の漢字学習の秘伝」を黒板に書く。	
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 漢字学習の秘伝を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
	③ 本文を音読させる。 教師が範読し、その後に、児童に音読をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を音読する
終末 10分	④ 教科書に紹介されている漢字学習の秘伝についての理解を深めさせる ①複雑な形や見慣れない形の漢字は、「線の数」「点の有無」「つき出すか、つき出さないか」などに注意する。 ②複数の音訓をもつ漢字は、読み方ごとに熟語や例文を作る。 ③漢字を学習するときには、送り仮名も一緒に書く。 ・ 秘伝について一つひとつ読み進め、具体的な例を取り上げながら確認していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字学習の秘伝について知りワークシートにまとめていく。
	⑤ P161下段の問題を解かせる。 ・ 確認した秘伝を用いながら問題を解いていくようにアドバイスする。 ・ 時間があれば、これらの秘伝を使って、自分が苦手とする漢字の学習（練習）をさせるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことをもとに問題を解く。
	⑥ 次時の予告をする。 ・ 「次の時間は、『漢字の広場④』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 自分が苦手とする漢字を知り、これからの漢字学習にいかすために
 - ・ 教科書の秘伝を一つひとつ取り上げていく中で、該当する漢字を具体的に示し、自分が苦手とする漢字は何かを振り返らせるとよい。
 - ・ 自分が苦手と気づいた漢字について、教科書に示されている方法（秘伝）を使って漢字学習（練習）をさせるとよい。

板書例

① 題材名「カンジー博士の漢字学習の秘伝」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「漢字学習の秘伝を知ろう。」
 - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。
- ③ 本文を範読し、その後児童に音読させる。

④ 教科書に紹介されている漢字学習の秘伝についての理解を深めさせる

- ① 複雑な形や見慣れない形の漢字は、「線の数」「点の有無」「突き出すか、つき出さないか」などに注意する。
- ② 複数の音訓をもつ漢字は、読み方ごとに熟語や例文を作る。
- ③ 漢字を学習するときには、送り仮名も一緒に書く。
 - ・秘伝について一つひとつ読み進め、具体的な例を取り上げながら確認していく。

カンジー博士の漢字学習の秘伝

漢字学習の秘伝を知ろう

漢字学習の秘伝

① 複雑な形や見慣れない形の漢字

「線の数」「点の有無」「突き出しの有無」などに注意する。

② 複数の音訓をもつ漢字

読み方ごとに熟語や例文を作る。

③ 漢字学習では

送り仮名も一緒に書く。

問題を解いてみよう

⑤ P161下段の問題を解かせる。

- ・確認した秘伝を用いながら問題を解いていくようにアドバイスする。
- ※必ず答え合せ（確認）もする。
- ・時間があれば、これらの秘伝を使って、自分が苦手とする漢字の学習（練習）をさせるとよい。

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、『カンジー博士の漢字学習の秘伝』を学習します。」

今日のめあて

漢字学習の秘伝

秘伝その一

秘伝その二

秘伝その三

問題を解いてみよう

3			2		1	
(3)	(2)	(1)	(3)	(1)	(3)	(1)
			(4)	(2)	(4)	(2)

今日のめあて

漢字学習の秘伝を知ろう

漢字学習の秘伝

秘伝その一

*複雑な形や見慣れない形の漢字
「線の数」、「点の有無」、「突き出すか、突き出さないか」
などに注意する。

秘伝その二

*複数の音訓をもつ漢字
読み方ごとに熟語や例文を作る。

秘伝その三

*漢字を学習するときには送り仮名もいっしょに書く。

問題を解いてみよう

3			2		1	
(3)	(2)	(1)	(3)	(1)	(3)	(1)
明らか	増える	確かめる	ぎょう・こう	ひ・か	積む	講習
			かな・きん・こん (こがね)	(2) いえ・か・や	(4) 初	(2) 博物

5 2

題 材 名 「漢字の広場④」（第1時／全1時間）

目 標 教科書のイラストを見て、テレビ局での様子や会話を想像し、5年生で学習した漢字を用いて文章に書き表すことができる。

◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。

領 域 等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「漢字の広場④」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 イラストを見てテレビ局の様子や会話を想像し、家の人に分かりやすく伝える文章を書こう	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展 開 30 分	③ P162に出てくる漢字を教師が範読し、児童に一斉読みをさせる ④ P162のイラストから気づいたことや感じたことを交流させ、テレビ局の様子イメージが膨らむようにさせる。 ・本時の学習活動への導入のための意見交流なので、時間はかける必要はない。児童に気づいたことや感じたことを自由に出させることで、イメージを持ちづらい子どもへのヒントとしたい。 ⑤ イラストから考えたテレビ局の様子や想像した会話を家の人に分かりやすく伝える文章に書かせる。 ・クラスの数や子どもの漢字の能力に応じ、ペアやグループで書かせたり、スタジオごとに分担して書かせたりしてもよい。 ・考えさせた後、クラス全体で紹介できるような発表用の短冊とペンを用意しておき、出来上がった文章を書かせておくように。	・教師の範読を聞く。教師の範読後、声を合わせて読む。 ・イラストからテレビ局の様子について気づいたことや感じたことを発表する。
終 末 10 分	⑥ 書いた文章を交流させる。 ・ただ読み上げさせるだけでなく、黒板に書かせたり、発表用の短冊に書いたものを貼りだしたりさせることで、よりクラス全体に広めやすくする。 ※順番に黒板に書かせていると時間もかかるので、前もって発表用の短冊を用意しておくほうが時間の効率がよい。 ⑦次時の予告をする。 ・「次の時間は、『狂言・柿山伏について』を学習します。」	・イラストから考えたテレビ局の様子や想像した会話を家の人に分かりやすく伝える文章で書き表す ・書いた文章を友だちと紹介し合う。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○漢字の定着を図るために

- ・授業の中で、漢字を読む作業、書く作業の時間をしっかりと確保する。作業を繰り返すことで定着を図りたい。そのために、学習活動①～④は効率的に短時間で済ませ、⑤・⑥の学習活動に重点を置く学習展開にする。

板書例

①題材名「漢字の広場④」を黒板に書く。

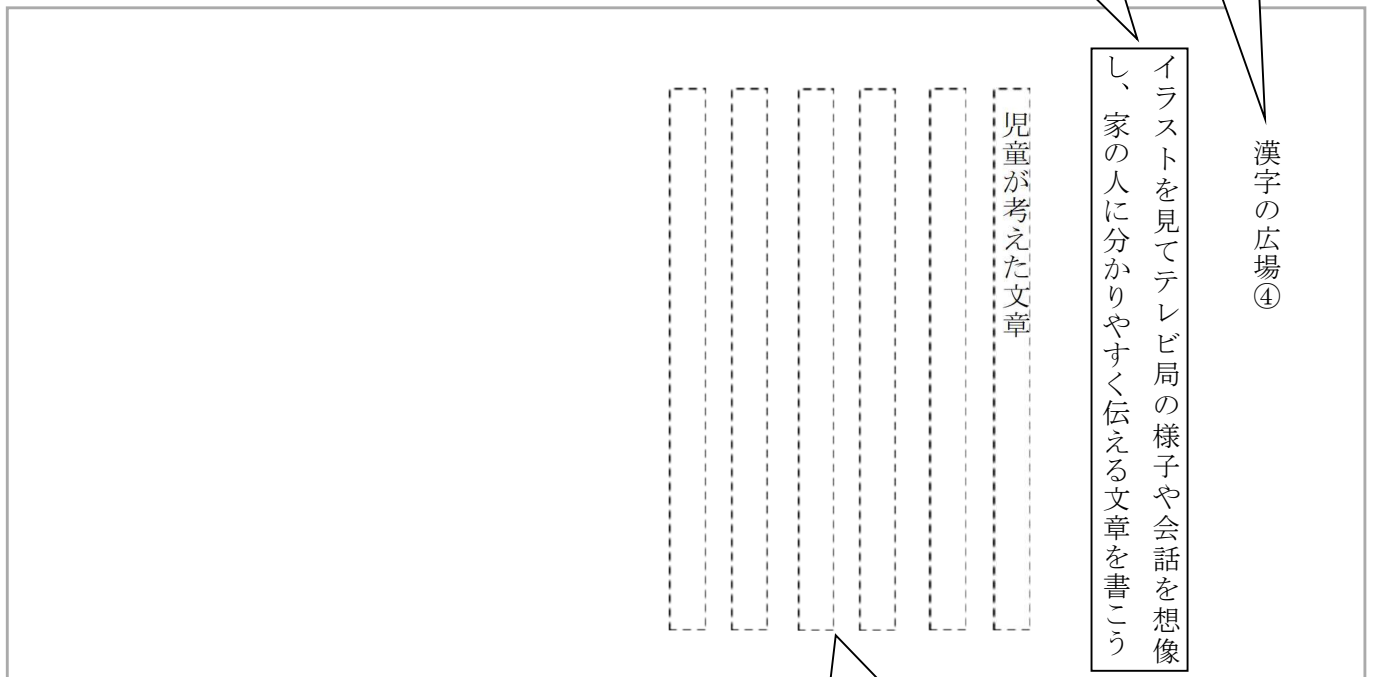
②本時の目標を児童に知らせる。

- ・「イラストを見てテレビ局の様子や会話を想像し、家の人に分かりやすく伝える文章を書こう」
- ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③P162に出てくる漢字を教師が範読する。その後、児童に一斉読みをさせる。

④P162のイラストから気づいたことや感じたことを自由に交流させる。文章づくりをする。時のヒントにさせる。

(例) 第4スタジオではクイズ番組が行われていて、女の人がクイズに正解している。文章を考えさせるための導入なので、ここではそれほど時間はかけない。



⑤考えたスタジオの様子や想像した会話を文章に書かせる。児童の人数や漢字の能力に応じ、適宜、ペアやグループで取り組ませてもよい。家の人に分かりやすく伝える文章を書くということを押さえておく。

※可能であれば発表用の短冊を準備しておき、考えたものを書かせておくと、発表・交流のとき、効率的に進めることができる。

⑥書いた文章を交流させる。

※ただ読み上げさせるのではなく、短冊に書いて貼りだしたり、黒板に書かせたりして、全体に広める。

⑦次時の予告をする。「次の時間は、『狂言・柿山伏について』を学習します。」

5 2 漢字の広場④

今日のめあて

名前 (

)

第5スタジオ

第4スタジオ

第3スタジオ

第2スタジオ

第1スタジオ

会議室

漢字の広場④

名前 ()

今日のめあて イラストを見てテレビ局の様子や会話を想像し、
家の人に分かりやすく伝える文章を書こう。

第5スタジオ

(例)政治家が税金について主張をしている。

など

第4スタジオ

(例)クイズ番組で、正解だった女の人が
逆転して、賞品をゲットした。

など

第3スタジオ

(例)貧しい武士のドラマの撮影が行われて
いる。

など

第2スタジオ

(同様に)

第1スタジオ

(同様に)

会議室

(同様に)

5 3

題材名 「狂言・柿山伏／柿山伏について」①（第1時／全4時間）

目標 「柿山伏」を聞き、狂言独特の言葉遣いや言い回しについて現代の言葉遣いと比較することができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「狂言・柿山伏／柿山伏について」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">柿山伏を聞き、狂言について知ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知り、ワークシートに書く 声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 「柿山伏」を範読する。 「『柿山伏』を聞いてみよう。どんなお話か想像しながら聞こう。 思ったことや気づいたことなどをワークシートに書いておこう」 <ul style="list-style-type: none"> 「柿山伏」のビデオテープ・DVD等があるとよい。CD・カセットテープでも。 ④ 「柿山伏」を聞いての感想などを発表させる。 「どんなお話だったかな。思ったことや気づいたことなども発表しよう」 <ul style="list-style-type: none"> 狂言独特の言葉遣いや言い回しについて、現代の言葉遣いや言い回しと比較させたい。 およそのあらすじは、空腹のあまり、他人の柿の木に登って勝手に柿を食べてしまった山伏が、その持ち主にこらしめられる話。 	<ul style="list-style-type: none"> 想像したり、感想などを書いたりする。 感想を発表し合う。
終末 5分	⑤ 次時の見通しを持つ。 次の時間は、『柿山伏』を読み深めよう。 ⑥ 新出漢字の練習をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 「己」・「届」・「困」 はね・止めをきちんと押さえさせる。空中に指書きさせる。 他の新出漢字は家庭学習とする 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しをもつ。 新出漢字「己」「届」「困」の練習をする。

指導のポイント

○ 範読について

・「柿山伏」のビデオテープ・DVD等があるとイメージをつかませるのによい。CD・カセットテープでも有効である。ない場合には、あらかじめインターネット動画サイト等で視聴しておき、範読ができるようにしておきたい。

板書例

① 題材名を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・『柿山伏』を聞き、狂言について知ろう。」
 - ・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ 「柿山伏」を範読する。
『柿山伏』を聞いてみよう。どんなお話か想像しながら聞こう。思ったことや気づいたことなどをワークシートに書いておこう。」

柿山伏

「柿山伏」を聞き、狂言について知ろう

○ 「柿山伏」を聞いての感想

思ったことや気づいたことなど

例・言葉のリズムがおもしろかった

・おもしろい話のようだ

・何を言っているのかよく分からなかった。

・鳴き声は今と同じだった。

新出漢字

困 届 己

④ 「柿山伏」を聞いての感想などを発表させる。
「どんなお話だったかな。思ったことや気づいたことなども発表しよう。」

⑤ 新出漢字の練習をさせる。
・「己」「届」「困」

⑥ 次時の予告をする。

柿山伏①

六年 組 名前)

今日の学習のめあて

○ 新出漢字の練習をしよう

下のますには、書き順を書いたり、くり返し書いたりしよう。

◎ 「柿山伏」を聞いている感想を書こう。(思ったことや気づいたことなどを書いてみよう。)

柿山伏①

六年

組 名前()

記入見本例

今日の学習のめあて

「柿山伏」を聞き、狂言について知ろう

○ 新出漢字の練習をしよう

下のますには、書き順を書いたり、くり返し書いたりしよう。

困	届	己		
コン こま(る)	とど(く) とど(ける)	コ おのれ		

◎ 「柿山伏」を聞いての感想を書こう。(思ったことや気づいたことなどを書いてみよう。)

例・「柿山伏」を聞いて、言葉のリズムが今とは全然ちがっていてももしろかった。

動物の鳴き声は、今と同じようだった。

Vertical writing practice area with dashed lines.

題材名 「伝えられてきたもの」(第2時/全4時間)

- 目標**
- 「柿山伏」のあらすじを知り、狂言が伝えようとしていることや昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「柿山伏」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「柿山伏」のあらすじを知り、狂言が伝えようとしていることを考えよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ P.70～71の「柿山伏について」を読み、狂言「柿山伏」の内容を理解させる。 『柿山伏について』を読み、『柿山伏』のおよその内容を知ろう。 また、筆者が述べる、狂言の描くものも読み取ろう ・ あらすじの紹介が第2・第3段落の第1文に書かれている。 子どもに傍線を引かせ、ワークシートに書かせて確認させる。 — あらすじ — 空腹のあまり、他人の柿の木に登って勝手に柿を食べてしまった山伏が、その持ち主にこらしめられる話。柿の持ち主からかわれているとも知らない山伏は、ごまかそうと、柿の持ち主から言われるままに、木の上で、必死になってからす・とび・さるのまねをする。そして…	<ul style="list-style-type: none"> 「柿山伏について」を読み、狂言「柿山伏」の内容を理解する。
	④ 「柿山伏」を範読し、内容を確認させる。 『柿山伏』のお話が伝えたいこと訴えたいことは何だろう ・ 「柿山伏について」や狂言の描いているもの(指導のポイント)を参考に、狂言が伝えようとしていることに気づかせたい。	<ul style="list-style-type: none"> 「柿山伏」の範読を聞き、伝えたいこと訴えたいことを考える。
	⑤ 昔の人のものの見方や感じ方について考えさせる。 「昔の人は柿を勝手に食べることに對して、どのように考えたのだろう」	<ul style="list-style-type: none"> 昔の人のものの見方や感じ方について考える。
終末 2分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『柿山伏』の音読の練習をしよう」	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 狂言が描いているもの
 - だれの身にも起こり、だれもが経験しそうな出来事
 - 自分の失敗や罪を隠そうとする人間の姿
 - 互いの賢さや愚かさを理解し合えば、みなが仲よく楽しく生きられるというメッセージ
 - 狂言の時代背景は、現代と異なる事情もある。

① 題材名「柿山伏」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・ 「『柿山伏』のあらすじを知り、狂言が伝えようとしていることを考えよう」

③ P.70~71の「柿山伏について」を読み、

狂言「柿山伏」の内容を理解させる。

「『柿山伏について』を読み、『柿山伏』のおよその内容を知ろう。

また、筆者が述べる、狂言の描くものも読み取ろう」

④ 「柿山伏」を範読し、内容を確認させる。

「『柿山伏』のお話が伝えたいこと訴えたいことは何だろう」

板書例

柿山伏

「柿山伏」のあらすじを知り、狂言が伝えようとしていることを考えよう

◎あらすじ

空腹のあまり、他人の柿の木に登って勝手に柿を食べてしまった山伏が、その持ち主にこらしめられる話。

柿の持ち主にかかわれているとも知らない山伏は、ごまかそうと、柿の持ち主から言われるままに、木の上で、必死になってからす・とび・さるのまねをする。そして…

◎伝えたいこと訴えたいこと

例・人間はかしこさもおろかさも、みな、同じようにもっている。

・ それを理解していれば、だれもみな、ゆったりと広い心をもって、いたわり合いながら、仲よく楽しく生きていける。

⑤ 昔の人のものの見方や感じ方について考えさせる。

「昔の人は柿を勝手に食べることに對して、どのように考えたのだろう」

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、『柿山伏』の音読の練習をしよう」

柿山伏②

W 54

六年 組 名前 ()

今日の学習のめあて

「柿山伏」のあらすじを知り、狂言が伝えようとしていることを考えよう

◎あらすじ

空腹のあまり、他人の柿の木に登って勝手に柿を食べてしまった山伏が、その持ち主からしめられる話。

柿の持ち主にかからわれているとも知らない山伏は、ごまかそうと、柿の持ち主から言われるままに、木の上で、必死になつてからず・とび・ちるのまねをする。そして…

◎伝えたいこと 語りたいこと

例・人間はかしこさもおろかさも みな、同じようにもっている。

・それを理解していれば、だれもみな、ゆつたりと広い心をもって、いたわり合いながら、仲よく楽しく生きていける。

55

題材名 「狂言・柿山伏／柿山伏について」③（第3時／全4時間）

目標 自分の思いが伝わるように「柿山伏」の音読の練習をすることができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「狂言・柿山伏／柿山伏について」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分の思いが伝わるように「柿山伏」を音読しよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 「柿山伏」を範読する。 「『柿山伏』を読んでみよう。まず、読みを聞いて、どのように読んだらよいか考えよう」 ・どのように読んだら思いが伝わるか考えさせる。 ④ 「柿山伏」の一部を読む練習をさせる。 「P.167 上段 11 行目 柿主『やい、やい、やい、やい。』から、P.172 上段 6 行目『急いでもどろう』まで」 ・読みの範囲を指定する。また、ペアを組ませ、山伏と柿主を分担させる。 ・音読する際には、思いを込めることのほかに、はっきり、大げさに、聞き取りやすくという観点も示す。 ⑤ 「柿山伏」の全文を読む練習をさせる。 「『柿山伏』の全文を読む練習をしよう」 ・読みの範囲を指定する。また、ペアを組ませ、山伏と柿主を分担させる。 ⑥ 好きな場面を選ばせ、音読の練習をさせる。 「好きな場面を選んで音読の練習をしよう」 ・好きな場面は、2人組で選ばせる。人数によっては4人組でもよい。	・「柿山伏」を範読を聞き、読み方を考える。 ・「柿山伏」の一部を読む練習①をする。 ・「柿山伏」の全文を読む練習をする ・好きな場面を選び音読の練習をする。
終 5分	⑦ 次時の見通しを持つ。 次の時間は、『柿山伏』の音読発表会をしよう。	・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

○ 「柿山伏」音読の指導

- ・柿主の（笑って）の部分は「は、は、は、は」の声を入れさせる。それ以外の動作はしない。
- ・現代の演劇とは違うので、「せりふは大げさに、はっきり聞こえやすく」をめあてとする。

板書例

① 題材名を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「自分の思いが伝わるように「柿山伏」を音読しよう。」
 - ・ワークシートを配布し、書きこませる。

- ③ 「柿山伏」を範読する。
『柿山伏』を読んでみよう。まず、読みを聞いて、どのようによんだらよいか考えよう。」

柿山伏

自分の思いが伝わるように「柿山伏」を音読しよう

○どのように読んだらよいか

例…おおげさに、はつきりと読む。

- ・柿主は、おこっている様子やからかっている様子が伝わるように読む。

- ・山伏は正体がばれないように必死な様子が伝わるように読む。

思いをこめて読もう

はつきり、おおげさに、聞き取りやすく読もう

○音読の練習をしよう。

- ・「やい、やい、やい、やい。」から

- ・「急いでもどろう」

- ・全文

○好きな場面を選んで練習しよう。

- ④ 「柿山伏」の一部を読む練習をさせる。
P.167 上段 11 行目 柿主『やい、やい、やい、やい。』から、
P.172 上段 6 行目 『急いでもどろう』まで。」

⑤ 「柿山伏」の全文を読む練習をさせる。

⑥好きな場面を選ばせ、音読の練習をさせる。

⑥ 次時の予告をする。

今日の学習のめあて

◎どのように読んだらよかったですか

◎音読の練習をしよう

◎好きな場面を選んで練習しよう。どの場面を音読しようか。

柿山伏③

六年 組 名前 (

W 55

)

今日の学習のめあて

自分の思いが伝わるように「柿山伏」を音読しよう。

◎どのように読んだらよかったですか

例・おおげさに はつきりと読む。

- ・ 柿主は、おこっている様子やからかっている様子が伝わるように読む
- ・ 山伏は正体がばれないように必死な様子が伝わるように読む。

◎音読の練習をしよう

思いを込めて読もう
はつきり、大げさに、聞き取りやすく読もう

◎好きな場面を選んで練習しよう。どの場面を音読しようか。

山伏が、柿の持ち主にからかわれる場面

56

題材名 「狂言・柿山伏／柿山伏について」④（第4時／全4時間）

目標 「柿山伏」の音読発表会をし、感想を交流することができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「狂言・柿山伏／柿山伏について」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「柿山伏」の音読発表会をしよう。</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 「柿山伏」の音読発表をする。 「2グループずつ組になり、お互いに発表し合おう」 ・できるだけ各グループの間隔が開けられるように配置したい。 ・感想を交流させる。 ・評価の観点は、 ア 思いが伝わってきたか イ セリフがはっきりして、大げさで、聞き取りやすかったかに絞って相互評価させる。 ④ 群読に挑戦させる。 「山伏役の人全員、柿主役の人全員、一斉に声を合わせて読んでもみよう」 ・セリフの一部（動物のまねをする部分等）を全員読みし、他のセリフを分担読みするなど、群読の工夫をさせるとよい。 ⑤ 学習を振り返り、感想を発表させる。 「（狂言を見たり、）狂言を音読してみてどんな感想を持ったか発表しよう」	・「柿山伏」の音読発表をして感想を交流し合う。 ・群読に挑戦する。 ・「柿山伏」の学習を振り返る
終 5分	④ 次時の見通しを持つ。 次の時間は、、『大切にしたい言葉』の学習をします。	・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

○ 音読のポイント

- ・姿勢は、背筋を伸ばし、聞き手の方に体を向ける。
- ・口は、言葉がはっきり聞こえるようにしっかり動かす。
- ・声の大きさを調節する。教室全体なのか、グループの中なのか、2人組なのか。
- ・声の速さは、早口にならないように意識してゆっくりと。
- ・声の強さは、場面や伝えたい内容によって工夫する。

展開例

① 題材名を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・『柿山伏の音読発表会をしよう。』
 - ・ワークシートを配布し、書きこませる。

- ③ 「柿山伏」の音読発表をする。
「2グループずつ組になり、お互いに発表しあおう。」

柿山伏

「柿山伏」の音読発表会をしよう。

○音読発表会

・方法・例

二グループずつ組になり
お互いに発表し合う

・めあて・思いが伝わるように

セリフをはっきり
大きめに、聞き取りやすく

○群読にちょうせん

・みんなで声を合わせて

○学習をふり返ろう

- ④ 群読に挑戦させる。
「山伏役の人全員、柿主役の人全員、一斉に声を合わせて読んでみよう。」

- ⑤ 学習を振り返り、感想を発表させる。
「(狂言を見たり) 狂言を音読してみて、どんな感想を持ったか、発表しよう。」

⑥ 次時の予告をする。

今日の学習のめあて

--

◎どのように読んでみるよ

◎音読の練習をしよう

--

◎好きな場面を選んで練習しよう。どの場面を音読しようか。

--

柿山伏③

六年 組 名前 (

W 55

)

今日の学習のめあて

自分の思いが伝わるように「柿山伏」を音読しよう。

◎どのように読んだらよかったですか

例・おおげさに はつきりと読む。

- ・ 柿主は、おこっている様子やからかっている様子が伝わるように読む
- ・ 山伏は正体がばれないように必死な様子が伝わるように読む。

◎音読の練習をしよう

思いを込めて読む
はつきり、大げさに、聞き取りやすく読む

◎好きな場面を選んで練習しよう。どの場面を音読しようか。

山伏が、柿の持ち主にからかわれる場面

57

題材名 「大切にしたい言葉」 (第1時/全3時間)

目標 文章の構成を考えることができる。

◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入	① 題材名「大切にしたい言葉」を黒板に書く。	
5分	② 本時の目標を黒板に書く。 文章の構成を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開	③ 教科書P176 - 177を読ませる。 教師が範読し、その後に、児童に音読をさせてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を音読する
30分	④ 座右の銘にしたい言葉を自分の経験と結び付けて選ばせる。 ・ 『座右の銘』とはどういうものなのか補足説明をしておく。 ➡自分の心を律するための「格言」、常に自身の心に留めておき、何かあったときの戒めにしたり、道標としたりするもの。 ・ 自分の好きな言葉でよいが、自分の経験と結びつくものであることを押さえる。また、決めるのに苦労する子どもも考えられるので、あらかじめ、ことわざ辞典や名言集などの資料を用意しておけるとよい。 ・ 短時間でよいので、隣の子ども同士ペアで、座右の銘とそれに結びつく経験を紹介させ合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座右の銘にしたい言葉を選ぶ
	⑤ 文章の構成を考えさせる。 ○P177の「組み立てメモの例」を参考に、文章の構成を考えさせる。 ・ 文章の構成(組み立て)をしっかりさせることで、わかりやすい文章になり、伝えたいことが明確になるということを押さえる。 ・ 文字数は、400～800程度、子どもの実情に合わせ決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の構成を考える。
終末	(※時間に余裕があるようであれば、下書きを始めさせてもよい)	
10分	⑥ 次時の予告をする。 ・ 「次の時間は、今日考えた構成をもとに文章を書きます。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○伝えたいことを明確にして書かかせるために

・ 座右の銘選びをいい加減にさせると、書く内容が薄っぺらいものになったり、内容のない文章になったりしがちなので、自分の経験に結びつく座右の銘を選ぶということをしっかりと押さえておきたい。
ばせる。

・ ①初め(選んだ座右の銘について)、②中(結びつく経験)、③終わり(今後どのようにしたいか)という文章構成を意識させ、それぞれの内容に書きたいことをメモに書いておく。

板書例

① 題材名「大切にしたい言葉」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・ 「文章の構成を考えよう。」
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。
- ③ 本文P176-177を読ませ

- ④ 座右の銘を選ばせる。
- 選ばせるときに以下のことを押さえる。
- ・ 座右の銘とは……自分の心を律するための「格言」、常に自身の心に留めておき、何かあったときの戒めにしたり、道標としたりするもの。
 - ・ 自分の経験に結びつけて考える。

大切にしたい言葉

文章の構成を考えよう

座右の銘を選ぼう——自分の経験と結び付けて

座右の銘 ↓ 自分の心を律するための「格言」、

常に自身の心に留めておき、何かあったときの戒めにしたり、道標としたりするもの。

文章の構成を考えよう

・ 初め……選んだ座右の銘についての説明

・ 中……座右の銘に結びつく経験

・ 終わり……今後、座右の銘を大切にしながら、
どのように生活していくか。

- ⑤ 文章の構成を考えさせる。
- ・ P177の「組み立てメモの例」を参考に、「初め」「中」「終わり」の構成を意識して、書く内容を考え、ワークシートにメモをさせる。構成をしっかりと考えることで、伝えたい内容が明確でわかりやすい文章になるということを意識させながら、構成メモを書かせる。
 - ・ 文字数は、400～800字（原稿用紙1枚～2枚）程度で、子どもの実態に合わせ決めてよい。

(※) 時間に余裕があるようであれば、次時に行う下書きを始めさせてもよい。)

⑥ 次時の予告をする。「次の時間は、考えた構成メモをもとに文章を書きます。」

大切にしたい言葉①

名前

今日のめあて

座右の銘を選ぼう

座右の銘とは

自分が選んだ座右の銘

初め (選んだ座右の銘についての説明)

中 (座右の銘に結びつく経験)

終わり (今後、座右の銘を大切にしながらどのように生活していくか)

文章構成を考えよう

大切にしたい言葉①

名前

今日のめあて

文章の構成を考えよう。

座右の銘を選ぼう

座右の銘とは

自分の心を律するための「格言」、常に自身の心に留めておき、何かあったときの戒めにしたり、道標としたりするもの。

自分が選んだ座右の銘

(児童が選んだ座右の銘)

初め

(選んだ座右の銘についての説明)

中

(座右の銘に結びつく経験)

文章の組み立て、骨組みを書かせる。(メモ書き程度でもよい)

終わり

(今後、座右の銘を大切にしながらどのように生活していくか)

文章構成を考えよう



58

題材名 「大切にしたい言葉」（第2時／全3時間）

目標 構成メモをもとに文章を書くことができる。

◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大切にしたい言葉」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 構成メモをもとに文章を書こう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ P178「③下書きをし、読み合って推敲しよう。」を読ませる。 ○推敲をするときのポイントを押さえておく。 ・ 読みにくいところや、分かりにくいところはないか。 ・ くわしく書くとよいところと、簡単に書くとよいところはどこか。 ・ 考えたことや感じたことにぴったりの言葉か。 ○本文中の例文を取り上げ、具体的にどのように推敲しているのかということを示す。 また、あらかじめ推敲のポイントを押さえてから下書きを書かせることで、下書き後の推敲に手間取らなくて済む。 ④ 構成メモをもとに、推敲のポイントに気をつけさせながら下書きを書かせる。 ⑤ 文章を推敲させる。 ・ 隣り同士のペアや、グループで下書きの読み合いをさせ、文章の推敲をさせる。 ⑥ 推敲をもとに、下書きを仕上げさせる。	・ 下書き後の推敲のポイントを確認しておく。 ・ メモをもとに文章の下書きをする。 ・ 友だちと下書きを読み合い、文書の推敲をする。 ・ 推敲をもとに、下書きを完成させる。
終末 10分	⑦ 次時の予告をする。 ・ 「次の時間は、今書いた文章を発表します。」	・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○より効率的に文章を仕上げさせるために

下書きを始める前に、P178「③下書きをし、読み合って推敲しよう」を読んで以下のポイントを確認させる。

- ・ 読みにくいところや、分かりにくいところはないか。
- ・ くわしく書くとよいところと、簡単に書くとよいところはどこか。
- ・ 考えたことや感じたことにぴったりの言葉かどうか。

下書きを書かせる時間や推敲をさせる時間にそれほど多くの時間を割けない中で、よりよい文章をより効率的に書かせるために、これらのポイントを意識して下書きを書かせるるとよい。

板書例

① 題材名「大切にしたい言葉」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・ 「構成メモをもとに文章を書こう」
・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 教科書P178「③下書きをし、読み合って推敲しよう。」を読ませ、推敲時のポイントを押さえておく。
・ 読みにくいところや、分かりにくいところはないか。
・ くわしく書くとよいところと、簡単に書くとよいところはどこか。
・ 考えたことや感じたことにぴったりの言葉かどうか。
本文中の推敲文例を取り上げ、具体的にポイントを指し示す。

④ 構成メモをもとに、推敲のポイントに気をつけさせながら下書きを書かせ

大切にしたい言葉

構成メモをもとに文章を書こう

○下書き

○推敲をする時のポイント

- ・読みにくいところや、分かりにくいところはないか。
- ・くわしく書くとよいところと、簡単に書くとよいところはどこか。
- ・考えたことや感じたことにぴったりの言葉かどうか。

○友だちと推敲しよう

⑤ ペアやグループで読み合いをさせ、文章を推敲させる。
・ 6年生なので、4人程度のグループ内で読み合って推敲させると、意見にも広がりが見られよいが、人数が多いとかえって手間取ることが予想されるようであれば、ペアでさせるのもよい。

⑥ 推敲をもとに、下書きを仕上げさせる。

⑦ 次時の予告をする。「次の時間は、今書いた文章を発表します。」

大切にしたい言葉②

名前（

今日のめあて

(下書き)

推敲のポイント

- * 読みにくいところや、分かりにくいところはないか。
- * くわしく書くところと、簡単に書くところはどこか。
- * 考えたことや感じたことにぴったりの言葉かどうか。

大切にしたい言葉②

名前()

今日のめあて

構成メモをもとに文章を書こう。

(下書き)

(児童の下書き)

※推敲時には赤を入れさせる。

推敲のポイント

- * 読みにくいところや、分かりにくいところはないか。
- * くわしく書くとよいところと、簡単に書くとよいところはどこか。
- * 考えたことや感じたことにぴったりの言葉かどうか。

59

題材名 目 標

「大切にしたい言葉」(第3時/全3時間)
 書いた文章を読み合って、心を動かされた内容や表現を伝え合うことができる。
 ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大切にしたい言葉」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 文章を読み合って、心を動かされた内容や表現を伝え合おう </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ P180「⑤読み合って、感想を伝えよう。」を読ませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・読み合って、心を動かされた表現について交流するということを押さえる。 ④ 書いた文章を読み合い、感想を交流させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの人数が少ないようであれば、クラス全体で行い、人数が多く時間が足りなくなることが予想されるようであれば適度な人数にグループ分けをしてもよい。 ↓ ・グループで交流させた場合は、最後に全体の場でどんな感想が出たのか紹介させる。 ⑤ P180「たいせつ」のところを読ませ、単元の振り返りをさせる <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験とその時の気持ちが伝わるようにくわしく書くところはどこか考える。 ・自分が考えたことや感じたことにふさわしい言葉を選んで書く。 ・経験をもとに何かを伝えるときには、経験と伝えたいことの結びつきを考え、言葉を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を音読する ・書いた文章を友だちと読み合い、感想を伝え合う。 ・本文「大切」のところを読み学習を振り返る。
終末 10分	⑥次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「次の時間は、『漢字の広場⑤』を学習します。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 単元の学習を振り返らせる
 書いた文章を読み合い、感想を交流する中で、教科書P180「たいせつ」に書かれていることを押さえる。
 - ・自分の経験とその時の気持ちが伝わるようにくわしく書くところはどこか考える。
 - ・自分が考えたことや感じたことにふさわしい言葉を選んで書く。
 - ・経験をもとに何かを伝えるときには、経験と伝えたいことの結びつきを考え、言葉を選ぶ。
 今後、文章を書くときにこれらのことを活かしていけるようにさせたい。

板書例

① 題材名「大切にしたい言葉」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「文章を読み合って、心を動かされた内容や表現を伝え合おう。」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 本文P180「⑤読み合って、感想を伝えよう。」を読ませる。
・読み合った後、心を動かされた表現について交流するということを押さえる。

大切にしたい言葉

文章を読み合って、心を動かされた内容や表現を伝え合おう

・
・
・ (感想)

○たいせつなこと

- ・自分の経験とその時の気持ちが変わるようによくわしく書くところはどこか考える。
- ・自分が考えたことや感じたことにふさわしい言葉を選んで書く。
- ・経験をもとに何かを伝えるときには、経験と伝えたいことの結びつきを考え、言葉を選ぶ

⑤ P180「たいせつ」のところを読ませ単元の振り返りをさせる大切なことを板書し、児童には、ワークシートに記入させる。

④ 書いた文章を読み合い、感想を交流させる。
・クラスの数によって、全員で読み合うのが時間的にも難しいようであれば、適度な人数のグループに分けて読み合わせさせてもよい。
・児童から出された感想を簡潔にまとめ、板書することで全体に広めるとよい。

⑥ 次時の予告をする。「次の時間は、『漢字の広場⑤』を学習します。」

大切にしたい言葉③

名前（

今日のめあて

【心を動かされた表現】

たいせつなこと

大切にしたい言葉③

名前)

今日のめあて

文章を読み合って、心を動かされた内容や表現を伝え合おう。

【心を動かされた表現】

(友だちの発表を聞き、感じたことをメモ書きしていく)

たいせつなこと

*自分の経験とその時の気持ちが変わるようによく書くところはどこかを考える。

*自分が考えたことや感じたことによくわかる言葉を選んで書く。

*経験をもとに何かを伝えるときには、経験と伝えたいことの結びつきを考え、言葉を選ぶ。

60

題材名 「漢字の広場⑤」（第1時／全1時間）

目標 教科書のイラストに出てくる商店街の様子を、5年生で学習した漢字を用いて書き表すことができる。

◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。

領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場⑤」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 商店街の通りやお店の様子を文章に書き表そう	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ P181に出てくる漢字を教師が範読し、児童に一斉読みをさせる	・教師の範読を聞く。教師の範読後、声を合わせて読む。
	④ P181のイラストから気づいたことや感じたことを交流させ、商店街のイメージが膨らむようにさせる。 ・本時の学習活動への導入のための意見交流なので、時間はかける必要はない。児童に気づいたことや感じたことを自由に出させることで、イメージを持ちづらい子どもへのヒントとしたい。	・イラストから商店街の様子について気づいたことや感じたことを発表する。
	⑤ 商店街やお店の様子を文章に書かせる。 ・クラスの人数や子どもの漢字の能力に応じ、ペアやグループで書かせたり、店ごとに分担して書かせたりしてもよい。 ・考えさせた後、クラス全体に紹介できるような発表用の短冊とペンを用意しておき、出来上がった文章を書かせておくとよい。	・イラストの商店街やお店の様子を文章で書き表す
終末 10分	⑥ 書いた文章を交流させる。 ・ただ読み上げさせるだけでなく、黒板に書かせたり、発表用の短冊に書いたものを貼りだしたりさせることで、よりクラス全体に広めやすくする。 ※順番に黒板に書かせていると時間もかかるので、前もって発表用の短冊を用意しておくほうが時間の効率がよい。 ⑦次時の予告をする。 ・「次の時間は、『冬のおとずれ』を学習します。」	・書いた文章を友だちと紹介し合う。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○漢字の定着を図るために

- ・授業の中で、漢字を読む作業、書く作業の時間をしっかりと確保する。作業を繰り返すことで定着を図りたい。そのために、学習活動①～④は効率的に短時間で済ませ、⑤・⑥の学習活動に重点を置く学習展開にする。

板書例

①題材名「漢字の広場⑤」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。

- ・「商店街の通りやお店の様子を文章に書き表そう」
- ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③P181に出てくる漢字を教師が範読する。その後、児童に一斉読みをさせる。

④P181のイラストから気づいたことや感じたことを自由に交流させる。文章づくりをすると時のヒントにさせる。

(例) 眼科で医師が目の検査をしている。

女の人が目薬をもらってさしている。

文章を考えさせるための導入なので、ここではそれほど時間はかけない。

商店街の通りやお店の様子を文章に書き表そう

漢字の広場⑤

児童が考えた文章

⑤商店街やお店の様子を文章に書かせる。児童の人数や漢字の能力に応じ、適宜、ペアやグループで取り組ませてもよい。

※可能であれば発表用の短冊を準備しておき、考えたものを書かせておくと、発表・交流のとき、効率的に進めることができる。

⑥書いた文章を交流させる。

※ただ読み上げさせるのではなく、短冊に書いて貼りだしたり、黒板に書かせたりして、全体に広める。

⑦次時の予告をする。「次の時間は、『冬のおとずれ』を学習します。」

漢字の広場⑤

今日のめあて

名前(

)

--

今日のめあて

商店街の通りやお店の様子を文章に書き表そう。

(例) 眼科で医師が目の検査をしている。

女の人が目薬をもらってさしている。

.....

など

61

題材名 「冬のおとずれ」（第1時／全1時間）
目標 仮名の由来、特質などについて理解できる。
 ◎仮名の由来、特質などについて理解している。
領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「冬のおとずれ」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">冬を示す言葉を知ろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 冬を示す言葉（立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒）の部分を音読させる。教師が範読し、その後、児童に音読をさせてもよい ④ 冬を示す言葉の意味を教科書の解説をもとに確かめさせる。 ○解説で説明されていることや、使われている言葉の中にわからないものがある場合、子どもたちの中に説明できる子がいれば説明させ、いなければ教師が補足する。また、準備ができていれば辞書等を活用する。 ⑤ 教科書の短歌や俳句を読み、大まかな意味を捉えさせる。 ○意味については教師が解説する。 ・身の引き締まるような、冬の寒さの到来である。吹きすさぶ寒風に、鞭のような鋭い音を立てて、群らがり生えた竹がしなって揺れている。 ・寒い冬がやってきた。でき立てのグラタンを「熱い、熱い」と言いながら食べる。（寒さと熱いの対比の妙） ・寒さの厳しい季節に入り、空気は澄んでいる夜。星はきらきらと輝いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・冬を示す言葉の部分を音読する。 ・解説の部分から言葉の意味を確かめる。 ・教科書に取り上げられている短歌や俳句を声に出して読み大まかな意味を知る。
終末 10分	⑥ 二十四節気を示す言葉についても紹介する。 ・時間があれば辞書などを活用して調べさせるとよいが、簡単に教師が説明をするだけでもよい。 ⑦次時の予告をする。 「次の時間は『詩を朗読してしょうかいしよう』を学習します」	<ul style="list-style-type: none"> ・二十四節気を示す言葉を知る ・次時の見通しをもつ

指導のポイント

- 語彙を豊かにし、語感や言葉の使い方を意識させるために
 - ・音読を大切にし、教師の範読や教師のあとを追う追いかけ読み等、何度も繰り返し音読することで、言葉の響きに触れさせる。
 - ・言葉の意味の説明を加えるときは、季節や情景をイメージさせるようにする。言葉の持つイメージを大切にしながら語感を身に付けさせたい。

板書例

① 題材名「冬のおとずれ」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「冬を示す言葉を知ろう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 本文を読ませる。教師が範読し、その後児童に音読させるとよい。
④ 冬を示す言葉の意味を解説から確認させる。解説だけでは難しい場合は、わかる子どもに補足説明させる。いなければ教師が補足説明する。

冬のおとずれ

冬を示す言葉を知ろう

- ・立冬：冬がはじまる日
- ・小雪：寒さは深まっておらず、雪も多くはないころ
- ・大雪：寒気が増し、雪も激しくなってくる
- ・冬至：一年で昼が最も短く、夜が最も長い日。
- ・小寒：この日から立春までの期間を寒という。
- ・大寒：一年の中で最も寒い時期

冬の短歌・俳句

あたらしく冬きたりけり鞭のごと
幹ひびき合ひ竹群はあり

宮 柊二

グラタンの熱しと食ふる冬至かな

阿波野青畝

寒に入る夜や星空きらびやか

長谷川素逝

⑤ 冬の短歌・俳句については、意味は大まかに捉えさせる程度とし、繰り返し音読させることで、言葉のリズムや響き、語感を感じ取らせることを大切にしたい。

⑥ 二十四節気を読み上げていき、子どもたちにも読ませていく。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、『詩を朗読してしょうかいしよう』を学習します。」

今日のめあて

冬を示す言葉を知ろう

冬を示す言葉	
【立冬】	↓ (意味) 　こよみのうえで、冬が始まる日。
【小雪】	↓ (意味) 　寒さはまだ深まっておらず、雪も多くはないころ。
【大雪】	↓ (意味) 　寒気が増し、雪も激しくなってくるころ。
【冬至】	↓ (意味) 　一年で昼が最も短く、夜が最も長い日。
【小寒】	↓ (意味) 　この日から立春までの期間を寒という。
【大寒】	↓ (意味) 　一年の中で最も寒い時期。

秋の短歌・俳句	
あたらしく 冬きたりけり 鞭の <small>ご</small> こと 幹ひびき合ひ 竹群はあり	↓ (意味) 　身の引き締まるような、冬の寒さの到来である。 吹きすさぶ寒風に、鞭のような鋭い音を立てて、群らがり生えた竹がしなうって揺れている。
グラタンの熱しと食ぶる冬至かな	↓ (意味) 　寒い冬がやってきた。でき立てのグラタンを「熱い、熱い」と言いながら食べる。(寒さと熱いの対比の妙)
寒に入る夜や星空きらびやか	↓ (意味) 　寒さの厳しい季節に入り、空気は澄んでいる夜。星はきらきらと輝いている。

二十四節気

立春	雨水	啓蟄	春分	清明	穀雨
立夏	小満	芒種	夏至	小暑	大暑
立秋	処暑	白露	秋分	寒露	霜降
立冬	小雪	大雪	冬至	小寒	大寒

6 2

- 題材名** 「詩を朗読してしょうかいしよう」(第1時/全1時間)
- 目標** 自分が感じたことが伝わるように、詩を朗読することができる。
◎自分が感じたことが伝わるように、詩を朗読している。
- 領域等** 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「詩を朗読してしょうかいしよう」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 自分が感じたことが伝わるように朗読しよう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 本文を音読する。 教師が範読し、その後、児童に音読をさせる。 ○リズムよく音読させる。そのために、教師のあとを追う読み方や、一斉読み、一人読みなど、形を変え何度も繰り返し読ませる。 ④ 3つの詩の中から気に入ったものを選び、感じたことをワークシートに書かせる。 ○おもしろいと感じた表現だけでなく、不思議な表現、びっくりした表現、気に入った表現など、様々な視点で感じたことを書かせる。 ⑤ 詩から感じたことを交流させる。 ○話題があちこちとばないよう、詩を1つずつ順にとりあげていくとよい。	・ 詩を音読する ・ 3つの詩の中から選んだ詩について感じたことを書き出す ・ 書いたことを発表する。
終末 10分	⑥ どのように読めば感じたことや考えたことが伝わるのか朗読の工夫について考え、朗読練習をさせる。 ○いきなり練習に入らずに、朗読の工夫としてどういうことが考えられるかいくつかアイデアを出させる。その後、個々に朗読練習をさせ、机巡視をしながら個別に助言をする。 ⑦ 詩の朗読発表をさせる。 ⑧ 次時の予告をする。 ・ 「次の時間は、『仮名の由来』を学習します。」	・ 感じたことが伝わるように読み方を工夫し、朗読練習をする。 ・ 気に入った詩を朗読する。 ・ 次時の見通しをもつ

指導のポイント

- 詩のリズム感、語感を味わって読めるようになるために
 - ・ いきなり子どもに読ませるのでなく、教師が範読する。
 - ・ 朗読を繰り返して練習させたいが、子どもがすぐに飽きてしまわないよう、追いかけて読みや一斉読み、一人読みなど、いろんな読み方をさせながら練習させる。
 - ・ 授業の後半の読みでは、感じたことが伝わるように工夫して朗読させたいので、個別指導をしながら助言をする。
 - 多様な感想を引き出すために
 - ・ 自分の感じたことを書かせるとき、短絡的に「楽しかった」「おもしろかった」といった感想だけでなく、不思議に感じたことや、驚いたこと、すばらしいなと思ったことなど、いろいろな視点から詩を読むように助言する。

板書例

① 題材名「詩を朗読してしようかいしよう」を黒

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「自分が感じたことが伝わるように朗読しよう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。
③ 詩の朗読練習をさせる。

④ お気に入りの詩を選び、感じたことをワークシートに書かせる。
・おもしろい、楽しいだけでなく、多様な感じ方を引き出したい。

⑤ 感じたことを発表し、交流させる。
・話題があちこちとばないように、詩を1つずつ順に取り上げていく。

詩を朗読してしようかいしよう

自分が感じたことが伝わるように朗読しよう

詩を読んで感じたこと

(例) ① 繰り返しのリズムが読んでいて楽しい

② 恐ろしい夢のなかに人間がいませんように にというところはドキッとした

③

感じたことが伝わるように朗読するには

- ・言葉の繰り返しに強弱をつける
- ・ゆっくり読んだり、速く読んだりする
- ・気に入ったところに気持ちをこめる

⑥ 朗読練習に取りかかる前に、朗読の工夫のしかたについていくつか意見を出させ、その後、各自で練習させる。

⑦ 朗読発表をさせる。

⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、『仮名の由来』を学習します。」

詩を朗読してしようかいしよう 名前（

今日のめあて

【お気に入りの詩を選び、感じたことを書こう】

感じたことが伝わるように
朗読するには

詩を朗読してしようかいしよう 名前)

今日のめあて

自分が感じたことが伝わるように朗読しよう。

【お気に入りの詩を選び、感じたことを書こう】

(例) 繰り返しのリズムが読んでいて楽しい。

恐ろしい夢の中に人間がいませんようにというところにはドキッとした。

など

感じたことが伝わるように
朗読するには

(例) ・言葉の繰り返しに強弱をつける。

・ゆっくり読んだり、速く読んだりする。

・気に入ったところに気持ちをごめて読む。

など

63

題材名 「仮名の由来」（第1時／全1時間）
目標 仮名の由来、特質などについて理解できる。
 ◎仮名の由来、特質などについて理解している。
領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「仮名の由来」を黒板に書く。	
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仮名の由来について知ろう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
	③ 本文を音読させる。 教師が範読し、その後に、児童に音読をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を音読する
終末 10分	④ 仮名の由来についての理解を深めさせる <ul style="list-style-type: none"> ・ 万葉仮名・・・意味とは関係なく、漢字の音を借りて表したもの (例) はる—波留 なつ—奈都 あき—安吉 など ・ 平仮名・・・万葉仮名をくずして書くところから生まれた (例) 安—あ 以—い 奈—な 保—ほ など ・ 片仮名・・・万葉仮名の一部をとって書くところから生まれた (例) 阿—ア 伊—イ 奈—ナ 保—ホ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の由来について知りワークシートにまとめていく。
	⑤ 仮名の由来を知ること、字の形を整えて書く手がかりとなる（P187下段『いかそう』）ことを確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P188の平仮名の起こり・片仮名の起こりの表で確認する。 ・ 時間があれば、P188の平仮名・片仮名表で確認しながら、『万葉仮名で書き表してみよう』や『万葉仮名をくずして平仮名に変身させよう』などの活動をさせるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の由来を知ること、文字の形を整えて書く手がかりとなることを知る。 ・ 次時の見通しを持つ。
	⑥ 次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「次の時間は、『メディアと人間社会』を学習します。」 	

指導のポイント

- 仮名の由来を理解させるために
 - ・ 万葉仮名のように音に漢字を当てはめることや、漢字をくずしていくことで平仮名が出来上がっていく過程をたどることなどは、子どもたちは大変興味を示すと思われる。実際に書く活動を取り入れることで、より興味関心をもって学習活動に取り組ませることができると思われる。

板書例

①題材名「仮名の由来」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。
・「仮名の由来について知ろう。」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。
③本文を範読し、その後児童に音読させる。

④仮名の由来についての理解を深めさせる
・万葉仮名・・・意味とは関係なく、漢字の音を借りて表したもの
（例）はる―波留 なつ―奈都 あき―安吉 など
・平仮名・・・万葉仮名をくずして書くところから生まれた
（例）安―あ 以―い 奈―な 保―ほ など
・片仮名・・・万葉仮名の一部をとって書くところから生まれた
（例）阿―ア 伊―イ 奈―ナ 保―ホ など

仮名の由来

万葉仮名・・・意味とは関係なく、漢字の音を借りて表したもの
（例）はる―波留 なつ―奈都 あき―安吉 ふゆ―布由 など
平仮名・・・万葉仮名をくずして書くところから生まれた
（例）安―あ 以―い 奈―な 保―ほ など
片仮名・・・万葉仮名の一部をとって書くところから生まれた
（例）阿―ア 伊―イ 奈―ナ 保―ホ など

○やってみよう
（例）・万葉仮名で書き表してみよう
・万葉仮名をくずして平仮名に変身させよう
などの活動

⑤ 仮名の由来を知ること、字の形を整えて書く手がかりとなる（P187下段『いかそう』）ことを確認させる。
・P188の平仮名の起こり・片仮名の起こりの表で確認する。
・時間があれば、P188の平仮名・片仮名表で確認しながら、『万葉仮名で書き表してみよう』や『万葉仮名をくずして平仮名に変身させよう』などの活動をさせるとよい。

⑥次時の予告をする。「次の時間は、『メディアと人間社会』を学習します。」

今日のめあて

万葉仮名

平仮名

片仮名

やってみよう

今日のめあて

仮名の由来について知ろう

万葉仮名

意味とは関係なく、漢字の音を借りて表したもの

(例) はる—波留 なつ—奈都
あき—安吉 ふゆ—布由

平仮名

万葉仮名をくずして書くところから生まれた

(例) 安—あ 以—い
奈—な 保—ほ

片仮名

万葉仮名の一部をとって書くところから生まれた

(例) 阿—ア 伊—イ
奈—ナ 保—ホ

やってみよう

(例) 万葉仮名で書き表してみよう

やま ↓ 也末 かわ ↓ 加和 など

(例) 万葉仮名をくずして平仮名に変身させよう

安 ↓ 安 ↓ 安 ↓ 安 ↓ あ
以 ↓ 以 ↓ 以 ↓ 以 ↓ い など

64

- 題材名** 「メディアと人間社会」／「大切な人と深くつながるために」（第1時／全3時間）
- 目標** 「メディアと人間社会」の筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合うことができる。
- ◎文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えをまとめている。また、読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「メディアと人間社会」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。	・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 「メディアと人間社会」を読ませる。 ・いきなり音読が難しそうであれば、教師が範読をしてから、児童に音読をさせてもよい。 ④ 文章のだいたい（要旨）をつかませる。 ○「どんなことが書いてあったのか」問いかけ、返ってきた児童の答えを教師が整理しながら板書にまとめていく。 本来ならば、自分の力で要旨まとめをさせるとよいが、時間的にも難しいので、「どんなことが書かれていたか」という問いかけへの答えを出させる中で、教師が整理していくことで文章のだいたいを読み取らせる。 ・人間は「伝えたい」「知りたい」という欲求を持っている ・文字による伝達について ・電波による伝達について ・映像による伝達について ・インターネットによる伝達について ・人間はどんな欲求を持ち、メディアに何を求めているのか意識し、メディアと付き合うことが重要。 ⑤ 社会と生き方について、文章を読んだ感想をもとに考えたことを交流させる。	・本文を音読する ・どんなことが書かれていたか読み取る。 ・社会と生き方について考えたことを発表し、交流する。
終末 10分	⑥次時の予告をする。 ・「次の時間は、『大切な人と深くつながるために』を学習します。」	・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 時間の制約がある中で、文章のだいたい（要旨）を読み取らせるために
- ・本時では、文章のおおよそを読み取らせ、感想を交流させる学習活動を計画している。そのため、限られた時間内（1時限の半ばくらい）で読み取りを終えさせたい。本来ならば、児童の力で要旨まとめをさせたいとことではあるが、難しいと予想される。そこで、読み取りの場面では、「どんなことが書いてあった？」と問いかける。子どもたちは、口々に答えを発表するであろうから、それを教師が順番を整理し、内容を簡潔にまとめ板書することで、文章のだいたいをつかませたい。

※要旨＝内容のあらまし

板書例

① 題材名「メディアと人間社会」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・ 「筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。」
 - ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。
- ③ 「メディアと人間社会」を音読させる。
- ・ いきなり音読というのが難しいようであれば、教師が範読してから音読させてもよい。

- ④ 文章のだいたいを読み取らせる。
- ・ どのようなことが書かれていたか問いかけ、子どもたちから出た答えを整理し、板書にまとめていくことで、文章のあらましを示す。

メディアと人間社会

筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう

○ 内容のあらまし

- ・ 人間は「伝えたい」「知りたい」という欲求を持っている
- ・ 文字による伝達について
- ・ 電波による伝達について
- ・ 映像による伝達について
- ・ インターネットによる伝達について
- ・ 人間はどんな欲求を持ち、メディアに何を求めているのか意識し、メディアと付き合うことが重要。

○ 文章を読んで考えたこと
(児童の意見)

- ⑤ 社会と生き方について、文章を読んだ感想をもとに考えたことを交流させる。
- ・ 子どもの意見を教師が簡潔にまとめて板書することで、意見を全体に広める。
 - ・ 対立するような意見があれば、賛成・反対それぞれの立場で周りの子どもたちにも意見を述べさせ考えを深めさせたい。

⑥ 次時の予告をする。「次の時間は、『大切な人と深くつながるために』を学習します。」

今日のめあて

内容のあらまし

文章を読んで考えたこと

今日のめあて

筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。

内容のあらまし

- ・人間は「伝えたい」「知りたい」という欲求を持っている
- ・文字による伝達について
- ・電波による伝達について
- ・映像による伝達について
- ・インターネットによる伝達について
- ・人間はどんな欲求を持ち、メディアに何を求めているのか意識し、メディアと付き合うことが重要である。

文章を読んで考えたこと

(※文章を読んで考えたことを書かせる)

65

題材名 目標

「メディアと人間社会」／「大切な人と深くつながるために」（第2時／全3時間）
 「大切な人と深くつながるために」の筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合うことができる。
 ◎文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えをまとめている。また、読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「大切な人と深くつながるために」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 「大切な人と深くつながるために」を読ませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・いきなり音読が難しそうであれば、教師が範読をしてから、児童に音読をさせてもよい。 ④ 文章のだいたい（要旨）をつかませる。 ○前時と同様に「どんなことが書いてあったのか」問いかけ、返ってきた児童の答えを教師が整理しながらまとめていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・人とぶつかったときに、うまく意見を言って、相手と話し合いコミュニケーションをとることがある。 ・コミュニケーションとはなんとかやっていける能力である ・技術が上達するほど大切な人とつながることができる。 ・練習によって得意になれる。 ・今の大人は、人との直接のコミュニケーションが苦手になっている。 ・コミュニケーションはやればやるだけ上達し、大切な人と出会い、深くつながっていく。 ⑤ 社会と生き方について、文章を読んだ感想をもとに考えたことを交流させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を音読する ・どんなことが書かれていたか読み取る。
終末 10分	⑥次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「次の時間は、『メディアと人間社会』と『大切な人と深くつながるために』の二つの文章を読み比べてみます。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会と生き方について考えたことを発表し、交流する。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 時間の制約がある中で、文章のだいたい（要旨）を読み取らせるために
- ・本時も前時と同様に文章のおおよそを読み取らせ、感想を交流させる学習活動を計画している。
 - そして、文章のだいたいを読み取らせるには、前時と同様に、教師が子児童の発言を聞きながら整理し、まとめていくとよい。

板書例

① 題材名「大切な人と深くつながるために」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

・「筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。」

・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 「大切な人と深くつながるために」を音読させる。

・いきなり音読というのが難しいようであれば、教師が範読してから音読させてもよい。

④ 文章のだいたいを読み取らせる。

・どんなことが書かれていたか問いかけ、子どもたちから出た答えを整理し、板書にまとめていくことで、文章のあらましを示す。

大切な人と深くつながるために

筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう

○ 内容のあらまし

・人とぶつかったときに、うまく意見を言つて、相手と話し合いコミュニケーションをとることがある。

・コミュニケーションとはなんとかやっていける能力である・技術が上達するほど大切な人とつながることが出来る。

・練習によって得意になれる。

・今の大人は、人との直接のコミュニケーションが苦手になっている。

・コミュニケーションはやればやるだけ上達し、大切な人と出会い、深くつながっていく。

○ 文章を読んで考えたこと

・ (児童の意見)

・

⑤ 社会と生き方について、文章を読んだ感想をもとに考えたことを交流させる。

・子どもの意見を教師が簡潔にまとめて板書することで、意見を全体に広める。

・対立するような意見があれば、賛成・反対それぞれの立場で周りの子どもたちにも意見を述べさせ考えを深めさせたい。

⑥ 次時の予告をする。「次の時間は、『メディアと人間社会』と『大切な人と深くつながるために』の二つの文章を読み比べてみます。」

大切な人と深くつながるために

名前（

今日のめあて

内容のあらまし

文章を読んで考えたこと

大切な人と深くつながるために

名前

今日のめあて

筆者の考えを読み取り、社会と生き方について話し合おう。

内容のあらまし

- ・人とぶつかったときに、うまく意見を言って、相手と話し合いコミュニケーションをとることができる。
- ・コミュニケーションとはなんとかやっていける能力である・技術が上達するほど大切な人とつながることができる。
- ・練習によって得意になれる。
- ・今の大人は、人との直接のコミュニケーションが苦手になっている。
- ・コミュニケーションはやればやるだけ上達し、大切な人と出会い、深くつながっていく。

文章を読んで考えたこと

(※文章を読んで考えたことを書かせる)

66

題材名 目 標

「メディアと人間社会」／「大切な人と深くつながるために」（第3時／全3時間）
 「メディアと人間社会」と「大切な人と深くつながるために」の二つの文章を読み比べ、「これからの社会でどう生きていくか」について考えることができる。
 ◎文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えをまとめている。また、読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。

領域等 学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「メディアと人間社会」／「大切な人と深くつながるために」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 二つの文章を読み比べ、これからの社会でどう生きていくかについて考えよう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ 「メディアと人間社会」／「大切な人と深くつながるために」を読ませる。 ④ 二つの文章を比べさせ、気づいたことを発表させる。 ○以下の視点を与えて比較させるとよい（視点については教科書P.196を読んで確認させてもよい）。 ・【文章の書き方について】それぞれの文章の「論の展開」「構成の工夫」「事例の挙げ方」「表現の特徴」はどうか。 ・【筆者の考えについて】筆者の考えの共通点は何か。 ・【自分に当てはめて】自分の知識や経験などから気づいたことや考えたことをなにか。 ⑤ 「これからの社会をどう生きていくか」ということについて、自分の意見を文章にまとめさせる。 ※時間に余裕があれば、数人に書いたことを読ませてもよい。	・ 本文を音読する ・ 二つの文章を比べて気づいたことを発表する。 ・ 「これからの社会をどう生きるとよいか」考えたことを文章にまとめる。
終末 10分	⑥ 学習のまとめとして、資料「プログラミングで未来を創る」を音読させる ・ 時間に余裕がなければ教師の範読でもよい。 ⑦次時の予告をする。 ・ 「次の時間は『漢字を正しく使えるように』を学習します」	・ 「プログラミングで未来を創る」を読む。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 二つの文章を比較させるときに
 - ・ 闇雲に、漫然と比べさせるのではなく、以下の視点を予め与えておく（教科書 P176 を読ませて確認させてもよい）。時間的制約もあるので、児童から出た意見を教師が整理し、まとめていくとよい。
 - 【文章の書き方について】それぞれの文章の「論の展開」「構成の工夫」「事例の挙げ方」「表現の特徴」はどうか。
 - 【筆者の考えについて】筆者の考えの共通点は何か。
 - 【自分に当てはめて】自分の知識や経験などから気づいたことや考えたことをなにか。

板書例

① 題材名「メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「二つの文章を読み比べ、これからの社会でどう生きていくかについて考えよう。」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。
③ 「メディアと人間社会」／「大切な人と深くつながるために」を音読させる。

④ 二つの文章を比べさせ、気づいたことを発表させる。
・比較する際、以下の視点を与えておく。（視点については、教科書P196を読んで確認させてもよい）
・これらの内容について児童が発表したことを簡潔にまとめ板書していく。

メディアと人間社会／大切な人と
深くつながるために

二つの文章を読み比べ、これからの社会でどう生きていくかについて考えよう

○二つの文章を比べよう

【文章の書き方について】
それぞれの文章の「論の展開」「構成の工夫」「事例の挙げ方」「表現の特徴」はどうか。

【筆者の考えについて】
筆者の考えの共通点は何か。

【自分にはめて】
自分の知識や経験などから気づいたことや考えたことをなにか。

○これからの社会をどう生きていくか
(児童の考え)

⑤ 二つの文章を読んで、「これからの社会をどう生きていくか」ということについて、自分の考えを文章にまとめさせる。
※時間に余裕があるようであれば、数人に書いたことを読ませてもよい。

⑥ 学習のまとめとして、**資料**「プログラミングで未来を創る」を音読させる。
・時間的余裕がなければ、教師の範読でもよい。

⑦ 次時の予告をする。「次の時間は、『漢字を正しく使えるように』を学習します。」

メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために 名前（
今日のめあて

二つの文章を比べよう

【文章の書き方について】それぞれの文章の「論の展開」「構成の工夫」「事例の挙げ方」「表現の特徴」はどうか。

【筆者の考えについて】筆者の考えの共通点は何か。

【自分に当てはめて】自分の知識や経験などから気づいたことや考えたことをなにか。

『これからの社会をどう生きていくか』

今日のめあて

二つの文章を読み比べ、これからの社会でどう生きていくかについて考えよう。

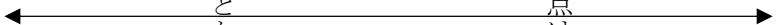
二つの文章を比べよう

【文章の書き方について】それぞれの文章の「論の展開」「構成の工夫」「事例の挙げ方」「表現の特徴」はどうか。

【筆者の考えについて】筆者の考えの共通点は何か。

(読み比べて気づいたことを書かせる)

【自分に当てはめて】自分の知識や経験などから気づいたことや考えたことをなにか。



『これからの社会をどう生きていくか』

(※二つの文章を読んで、「これからの社会をどう生きていくか」ということについて自分の考えを書かせる。)

67

題材名 目 標

「漢字を正しく使えるように」(第1時/全1時間)
 「同じ読み方をする漢字」について、適切な字を選択することができる。
 ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第6学年で配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。

領域等

知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字を正しく使えるように」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。	
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 同じ読み方をする漢字について、適切な漢字を選ぶ方法を知ろう </div> <ul style="list-style-type: none"> 教科書P201上段イラストから、本時の学習場面についてつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 目標を声を合わせて読む。
	③ 教科書P201-202を音読させる。	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読する
	④ 同じ読み方をする漢字の適切な選択のしかたについて、教科書の説明をもとに理解させる。 ①訓読みの場合 <ul style="list-style-type: none"> 漢語で言い表してみる(移す→移動など) 別の訓読みで言い表してみる(開ける→開くなど) 熟語を考えてみる(敗れる→配線) ②音読みの場合 <ul style="list-style-type: none"> 訓読みを考えてみる(少→少ない) 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ読みをする漢字の適切な選び方を知る。
	⑤ P202上段㊦の問題を解かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ方法に従って、㊦の問題を解き、正しい漢字を選ぶ練習をする。
	⑥ P202下段㊧の問題を解かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ方法に従って、㊧の問題を解き、漢字の間違いを治す練習をする。
	⑦ P203「覚えておきたい言葉」に出てくる言葉について、書く練習をさせたり、辞書で意味を調べさせたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 「覚えておきたい言葉」について、書く練習や意味調べをする。
終末 10分	⑧ 次時の予告をする。 ・「次の時間は『人を引きつける表現』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 漢字の読み書きを定着させるために
 - ・本時の学習では、学習活動⑤⑥⑦のところに多く時間を確保したい。問題を解いたり、漢字の読み書きや辞書での意味調べをしたりという言語活動に時間を多くとることで、児童の漢字の定着を図る。そのために、①～④の学習活動の部分では、教師主導になってもよいので、時間をかけず効率よくすすめたい。

板書例

①題材名「漢字を正しく使えるように」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。
・「同じ読み方をする漢字について、適切な漢字を選ぶ方法を知ろう。」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。
・教科書P201上段イラストを手がかりに、本時の学習場面についてつかませる。

③教科書P201-202を音読させる。

④同じ読み方をする漢字の適切な選択のしかたについて、教科書の説明をもとにつかませる。
①訓読みの場合 と ②音読みの場合
それぞれの場合について教科書の例をあげ、板書も利用しながら児童に示す。

漢字を正しく使えるように
同じ読み方をする漢字について、適切な漢字を選ぶ方法を知ろう

①訓読みの場合

- ・漢語で言い表してみる (移す↓移動など)
- ・別の訓読みで言い表してみる (開ける↓開くなど)
- ・熟語を考えてみる (敗れる↓敗戦)

②音読みの場合

- ・訓読みを考えてみる (少↓少ない)

漢字のまちがいをなおそう

正しい漢字を選ぼう

覚えておきたい言葉

⑤P202問題Ⅱで、正しい漢字を選ぶ練習をさせる。
問題を解かせたあと、確認 (答え合わせ) は必ず行う。

⑥P202問題Ⅲで、漢字の間違い直しの練習をさせる。
問題を解かせたあと、確認 (答え合わせ) は必ず行う。

⑦P203「覚えておきたい言葉」に出てくる言葉について、書く練習をさせたり、意味調べをさせたりする。

⑧次時の予告をする。「次の時間は、『人を引きつける表現』を学習します。」

漢字を正しく使えるように

名前（

今日のめあて

適切な漢字の選び方

【訓読みの場合】

【音読みの場合】

会・開	聞・分	覚める・冷める	務める 勤める・努める	帰る・返る	<p style="text-align: center;">①</p> <p>正しい漢字を選び ○をつけよう。</p>
感 心↓	成 課↓	独 り 事↓	小 か げ↓	小 か げ↓	<p style="text-align: center;">②</p> <p>漢字のまちがいをなおそう。</p>

※このスペースを使って覚えておきたい言葉を練習しよう。

漢字を正しく使えるように

名前()

今日のめあて

同じ読み方をする漢字について、適切な漢字を選ぶ方法を知ろう。

適切な漢字の選び方

【訓読みの場合】

- * 漢語で言い表してみる
- (例) 移す ↓ 移動
- * 別の訓読みで言い表してみる
- (例) 開ける ↓ 開く
- * 熟語を考えてみる
- (例) 敗れる ↓ 敗戦

【音読みの場合】

- * 訓読みで考えてみる
- (例) 少 ↓ 少ない

会・開 (開)	聞・分 (聞)	覚める・冷める (冷)	務める (勤)	帰る・返る (帰)	<p style="text-align: center;">1</p> <p>正しい漢字を選び ○をつけよう。</p>
感心 ↓ 関心	成課 ↓ 成果	独り事 ↓ 独り言	小かげ ↓ 木かげ	<p style="text-align: center;">2</p> <p>漢字のまちがいをなおそう。</p>	

(※児童が練習したい文字を自由に練習させるとよい)

※このスペースを使って覚えておきたい言葉を練習しよう。

68

題材名 目 標

「人を引きつける表現」(第1時/全1時間)
 自分が気に入った表現から、どんな表現の工夫があり、その表現からどう感じるか説明することができる。
 ◎語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方を意識している。
 比喻や反復などの表現に気づいている。

領域等 学習の流れ

知識及び技能

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「人を引きつける表現」を黒板に書く。	
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分が気に入った表現について説明しよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
	③ 児童に音読をさせる。音読が難しい児童が多いようであれば、教師の範読後、音読をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を音読する
	④ さまざま表現の工夫を本文から確認させる。 ○語順・反復・比喻……………「つき」 独特の表現……………「やまなし」 七五調・言葉の選び方…「鯉のぼり」	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな表現の工夫について知る
終末 10分	⑤ 自分が気に入った表現について、表現の工夫やその表現にはどんな効果があるのか文章に書かせる。 ・ 本文には教科書の中から見つけるとなっているが、見つけるのに手間取りそうであれば、他に子どもたちが関心を示しそうな詩集や歌集を用意し、そこから見つけさせてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の気に入った表現を見つけ、どんな工夫があり、どんな効果があるか考え、文章に書く。
	⑥ 書いた文章を発表させ、交流させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書いた文章を発表し、友だちと交流する。
	⑦ 次時の予告をする。 ・ 「次の時間は、『思い出を言葉に』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の見通しをもつ

指導のポイント

- 気に入った表現を探すことに手間取るようであれば、前もって、子どもが興味を示しそうな詩集や歌集を準備しておくとうい。
- 伝えたいことを明確にするために
 - ・ 自分が気に入った表現について説明する文書を書かせるときには、本文 P207 の「気に入った表現について説明しよう」の②の部分を押さえる。
 - 「どのような工夫があるのか」そして「どのような効果があるのか」だから「どう感じるのか」

板書例

①題材名「人を引きつける表現」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。
・「自分が気に入った表現について説明しよう」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③本文を音読させ、表現の工夫について確認させる。
④表現の工夫を本文から押さえる。
語順・反復・比喻……………「つき」
独特の表現……………「やまなし」
七五調・言葉の選び方…「鯉のぼり」

人を引きつける表現

自分が気に入った表現について説明しよう

表現の工夫

語順を変える・くり返す・比喻を使う (つき)

独特の表現「もかもか」 (やまなし)

七五調・言葉の選び方「を」↓「で」 (鯉のぼり)

気に入った表現の説明をする

・

・

・

⑤自分の気に入った表現を見つけ、表現の工夫や効果を考えさせ、文章に書かせる。
・P207「表現について説明しようの部分から、「どのような工夫があり」→「どんな効果があり」→「どう感じるか」と説明するとわかりやすくまとめられることを押さえる。

⑥書いた文章を発表させる。子どもの発表を端的にまとめ黒板に書いていく。

⑦次時の予告をする。
「次の時間は『思い出を言葉に』を学習します。」

今日のめあて

表現の工夫

【語順を変える】

【繰り返す】

【比喻】

【独特の表現】

【七五調】

【言葉の選び方】

【自分の気に入った表現について説明しよう】

*どのような工夫があるのか



*どんな効果があるのか



*その表現により、どう感じるか

今日のめあて

自分が気に入った表現について説明しよう。

表現の工夫

【語順を変える】 てたてた つきが (↑↓ 月が出た)

【繰り返す】 てたてた

つき

【比喩】 ほんのような (↓まるい)

【独特の表現】 月光のにじがもかもか

やまなし

【七五調】 (七音) (五音) (七音) (五音)
 薨の波と 雲の波 重なる波の 中空を

鯉のぼり

【言葉の選び方】 中空を(泳ぐ) (↑↓ 中空で泳ぐ)

【自分の気に入った表現について説明しよう】

(※教科書の中の文章や教師が準備しておいた詩集や歌集などから気に入った表現を見つけ、なぜ気に入ったのか説明を書かせる。)

← *どのような工夫があるのか

← *どんな効果があるのか

← *その表現により、どう感じるか

69

題材名 目 標

「思い出を言葉に」(第1時/全3時間)

自分が伝えたいことを明確にし、表現する形式を決めることができる。

◎目的や意図に応じて書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。

文章の構成や展開が明確になっているかなど、感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「思い出を言葉に」を黒板に書く。	
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 伝えたいことを明確にし、表現の形式を決めよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・何のための表現活動なのか、予め意図を伝えるために、「思い出の作品集」づくりであることを知らせておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
	③ 教科書P208～209を音読させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を音読する。
終末 10分	④ 印象に残っていることを出し合せ、伝えたいことを選ばせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが活発になるように、クラス全体やグループなど、クラスの規模に応じて適度な人数になるよう話し合いの場を設定する。 ・話し合いの中で、印象に残っていること(思い出等)について、そのときの様子や気持ちをくわしく出させる。 ○自分にとっての意あるもの、価値あるもの、みんなに伝えたいことなどの視点から書くことを決めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残っていることの中から、伝えたいことを明確にし書くことを選ぶ。
	⑤ 表現の形式を選ばせる。 ○単に作文を書くのではないため、伝えたい内容を作品として仕上げるにはどんな形式がふさわしいのかという視点で考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の形式を選ぶ。
	⑥ 次時の予告をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「次の時間は、今考えたことをもとに作品作りをします。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しをもつ

指導のポイント

○伝えたいことを明確にさせるために

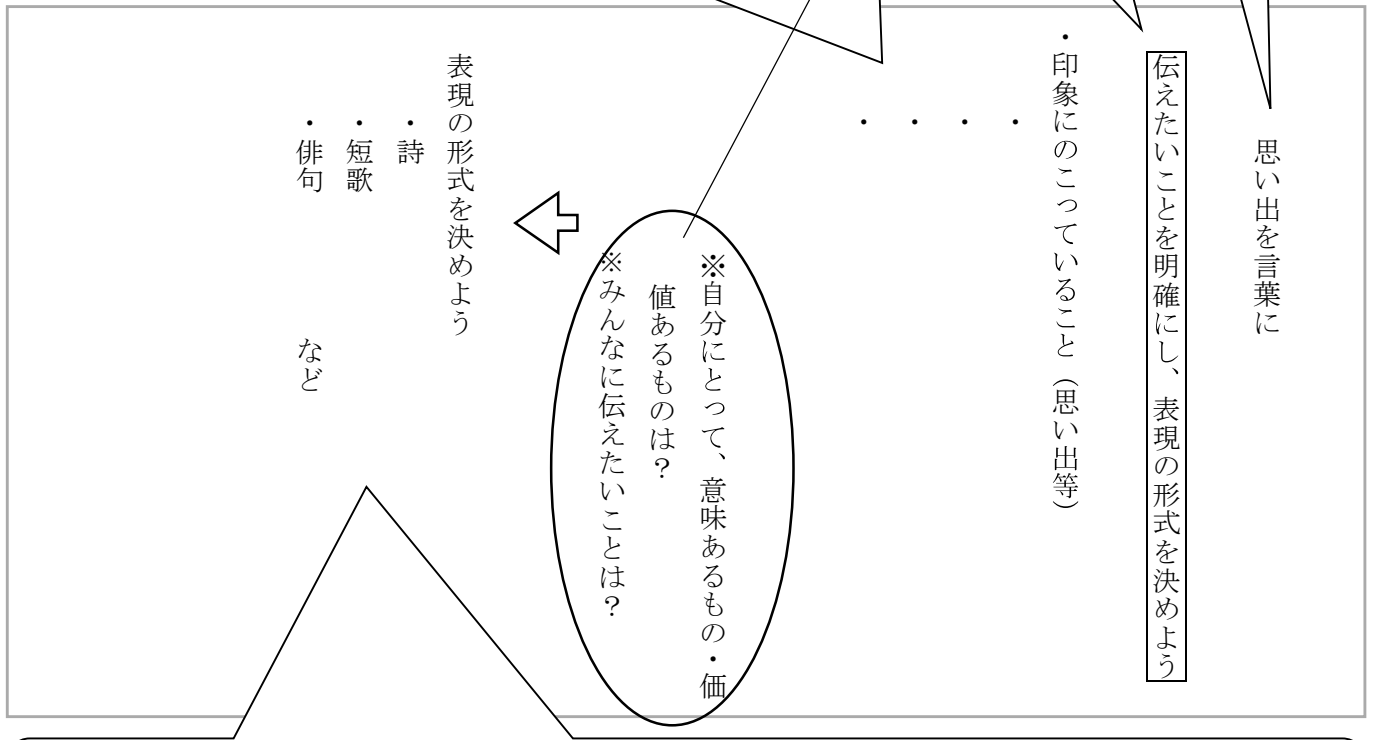
- ・児童同士で、思い出などを語り合い、その時の様子や気持ちなどをあれこれ想起させる時間をしっかり確保する。
- ・話題に上がったことがらの中から、自分にとって意味あるもの、価値あるものという視点で伝えたいことを選ばせる。

板書例

①題材名「思い出を言葉に」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。
・「伝えたいことを明確にし、表現の形式を決めよう。」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。
・「思い出の作品集」づくりであることを事前に知らせ、何のための表現活動なのかという意図を伝えておく。
③P208～209を音読させ、本時の学習活動を確認させる。

④印象に残っていることを出し合せ、伝えたいことを選ばせる。
・クラス全体やグループなど、クラスの規模に応じ適度な人数となるよう話し合いの場を設定する。
・思い出は何かだけでなく、その時の様子や気持ちを詳しく想起させる。
・自分にとって意味あるもの、価値あるもの、みんなに伝えたいものという視点で表現することを決めさせる。



⑤表現の形式を選ばせる。
※時間的余裕があるようであれば、試しに作らせてみるのもよい、それから最終決定をさせてもよい。

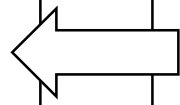
⑥次時の予告をする。
「次の時間は、今考えたことをもとに、作品作りをします。」

今日のめあて

◎入学してからこれまでの学習や行事など学校生活の中で一番印象に残っていることは何だろう。
※そのときの出来事や気持ちを詳しく書き出してみよう。

印象に残っていること (思い出)

※自分にとって意味あるものは？価値あるものは？なんだろう。
※みんなに伝えたいことはなんだろう。



【表現の形式を決めよう】

今日のめあて

表現を工夫して、伝えたいことを書こう。

印象に残っていること（思い出）

◎入学してからこれまでの学習や行事など学校生活の中で一番印象に残っていることは何だろう。

※そのときの出来事や気持ちを詳しく書き出してみましょう。

※メモ書き程度でかまわないので、

自分の思い出をあれこれと書き上げていく。

そのときの出来事や

周りの人がしたことや言ったこと、

そのときの自分の気持ちなど

できるかぎり詳しく書き上げていく。

※自分にとって意味あるものは？価値あるものは？なんだろう。
※みんなに伝えたいことはなんだろう。

【表現の形式を決めよう】

・自分の表現したいことにふさわしい形式を決めさせる。

・みんなで作品集をつくるという目的にふさわしい形式にさせる。

(詩・俳句・短歌など)

70

題材名 目標

「思い出を言葉に」(第2時/全3時間)

伝えたいことが伝わるように、表現を工夫して書くことができる。

◎目的や意図に応じて書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。

文章の構成や展開が明確になっているかなど、感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。

領域等 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「思い出を言葉に」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 表現を工夫して伝えたいことを書こう	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展開 30分	③ P210を音読させる。 ○効果的に伝わる工夫として、教科書にあげられている以下のポイントを押さえておく。 *様子や心情に、より適した言葉を選ぶ。 *比喩や繰り返しなどを使う。 *言葉や文の順序を変える。 *言葉のリズムを整える。 ・教科書P210「作品の例」を取り上げ、工夫の仕方を具体的に示すのもよい。 ・教科書P307「言葉の宝箱」を活用させるのもよい。 ④ 表現を工夫して、書かせる。 ※出来上がったら、見直したり、何度も声に出して読ませること とで、推敲させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を音読する。 ・表現を工夫して書く。
終末 10分	⑤ 清書をさせ、作品を仕上げさせる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、今作った作品の発表会をします。」	<ul style="list-style-type: none"> ・清書をし、作品を仕上げる。 ・次時の見通しをもつ

指導のポイント

○表現を工夫させるために

- ・教科書 P210「表現を工夫して書こう」を読ませ、以下の点を意識して作品作りに取り組むようにさせる。
 - *様子や心情に、より適した言葉を選ぶ。
 - *比喩や繰り返しなどを使う。
 - *言葉や文の順序を変える。
 - *言葉のリズムを整える。
- ・教科書 P307「言葉の宝箱」を活用して書かせたり、P210「作品の例」を読ませ、具体的な工夫の例を示したりするとよい。

板書例

① 題材名「思い出を言葉に」を黒板に書く。

- ② 本時の目標を児童に知らせる。
- ・「表現を工夫して伝えたいことを書こう。」
 - ・ワークシートを配布し、書き込ませる。
- ③ P210を音読させ、表現の工夫として以下のポイントを押さえておく。
- *様子や心情に、より適した言葉を選ぶ。
 - *比喻や繰り返しなどを使う。
 - *言葉や文の順序を変える。
 - *言葉のリズムを整える。

④ 表現を工夫して書かせる。
※出来上がったら、何度も読み返させる（声に出して読ませる）。推敲をさせる。

板書例

思い出を言葉に

表現を工夫して、伝えたいことを書こう

- ・ 307 ページ 「言葉の宝箱」
- ・ 210 ページ 「作品の例」

- * 様子や心情に、より適した言葉を選ぶ
- * 比喻や繰り返しなどを使う。
- * 言葉や文の順序を変える。
- * 言葉のリズムを整える。

※ 表現を工夫しよう

※ 繰り返し読んで見直そう

※ 清書をしよう

⑤ 清書をさせ、作品を仕上げさせる。
※ 作品仕上げなので、それにふさわしい書き方を工夫させるとさらによい。（全体レイアウトや文字の大きさバランスなど）

⑥ 次時の予告をする。
「次の時間は、今作った作品の発表会をします。」

今日のめあて

【表現を工夫しよう】

- ・様子や信条に、より適した言葉を選ぶ。
- ・比喻や繰り返しなどを使う。
- ・言葉や文の順序を変える。
- ・言葉のリズムを整える。

(参考)

- ・教科書二〇〇ページ「作品の例」のように自分の作品を見直す。
- ・教科書三〇七ページ「言葉の宝箱」の中から使えそうな言葉があれば使ってみる。

【清書して完成させよう】

思い出を言葉に②

名前()

今日のめあて

表現を工夫して、伝えたいことを書こう。

*作品の下書きをさせる。

下書きがすんだら、何度も読み直し、推敲させ、赤を入れさせる。

【表現を工夫しよう】

- ・様子や信条に、より適した言葉を選ぶ。

- ・比喩や繰り返しなどを使う。

- ・言葉や文の順序を変える。

- ・言葉のリズムを整える。

(参考)

- ・教科書二〇ページ「作品の例」のように自分の作品を見直す。

- ・教科書三〇七ページ「言葉の宝箱」の中から使えそうな言葉があれば使ってみる。



【清書して完成させよう】

推敲がすんだら清書用紙に清書をさせる。

7 1

題材名 目 標

「思い出を言葉に」(第3時/全3時間)

作品を読み合って感想を伝え合い、自分の作品の良さを見つけることができる。

◎目的や意図に応じて書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。

文章の構成や展開が明確になっているかなど、感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「思い出を言葉に」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 作品をみんなで読み合おう	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展 開 30 分	③ P211を音読させる。 ・ 読み合って感想を交流することを伝える。 ④ 作品を読み合い、感想を交流させる。 ・ クラスの規模によって、クラス全体で交流しても、グループに分けて交流してもよい。(2～3人などあまり少人数過ぎると、かえって多様な表現に出会えず、また、自分の作品への感想もあまりもらえなくなるので、本時後半の振り返りの時間を確保できるくらいでの交流の時間設定を行う。そして、その時間内で全員が交流できる程度の適切な人数分けをする。)	・ 本文を音読する。 ・ 作品を発表し、みんなと感想を交流する。
終 末 10 分	⑤ P211「ふりかえろう」を読み、学習の振り返りをワークシートに書かせる。 ○振り返りの視点として、以下のことを確認しておく。 ・ どんな形式を選び、どんな工夫をしたか。 ・ 書くことを選んだ理由は何か。 ・ 友だちの表現の工夫で、自分も使ってみたいものは。 ※時間があれば、数人に書いたことを発表させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『今、私は、ぼくは』を学習します。」	・ 学習の振り返りをする。 ・ 次時の見通しをもつ

指導のポイント

- 伝えたいことを明確にして書けたか振り返らせる
- ・ 学習の最後に振り返りの時間をとる。その際、教科書の「ふりかえろう」を参考に、ふりかえりのポイントを押さえておく。
 - * どんな形式を選び、どんな工夫をしたか。
 - * どのような理由で書くことを選んだか。
 - * 友だちの表現の工夫で、自分も使ってみたいものはどれか。
- ・ 友だちと感想を交流する中で、自分の表現のよかったところ、友だちの表現の参考になるところに気づかせ、これから文章を書くときや、作品で表現するときなどの引き出しを増やしていかせたい。

7 1

題材名 目 標

「思い出を言葉に」 (第3時/全3時間)

作品を読み合って感想を伝え合い、自分の作品の良さを見つけることができる。

◎目的や意図に応じて書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。

文章の構成や展開が明確になっているかなど、感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。

領域等

B 書くこと

①題材名「思い出を言葉に」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。

- ・「作品をみんなで読み合おう。」
- ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③P211を音読させ、本時の学習は、作品を読み合い、感想を交流する活動であるということを知らせる。

- ・本時後半の交流の時間が確保できるように、交流の時間を設定するの。また、その設定時間内に全員が交流できる程度の人数分けを行う。クラスの人数が少ない場合は、全員での交流でももちろんよい。

④作品を読み合い、感想を交流させる。

※発表された感想は教師が端的にまとめ板書することで、全体に広げる。

板書例

思い出を言葉に

作品をみんなで読み合おう

作品を読み合い、感想を交流しよう。
(子どもの感想)

※学習をふりかえろう

⑤P211「ふりかえろう」を読ませ、学習の振り返りをさせる。

- ・振り返りの視点を与え、自分の表現はどうだったかをワークシートに書かせる。
- ・時間があるようであれば、数人に自分の振り返りを紹介させてもよい。紹介された内容を教師が端的にまとめ板書をする、クラス全体に広められる。

⑥次時の予告をする。「次の時間は、『今、私は、ぼくは』を学習します。」

思い出を言葉に③

名前（

今日のめあて

【友だちの作品について感想を書こう。】

※どの表現から、どんな思いが伝わってきたのか具体的に書く。

学習をふりかえろう

*効果的に伝えるために、どんな形式を選び、どのように表現を工夫したか。

*思い出したことから、どのような理由で書くことを選んだか。

*友だちの表現の工夫で、自分の使ってみたいものはどれか。

思い出を言葉に③

名前()

今日のめあて

作品をみんなで読み合おう。

【友だちの作品について感想を書こう。】

※どの表現から、どんな思いが伝わってきたのか具体的に書く。

メモ書き程度でかまわないので、
友だちの作品の感想を書かせる。

学習をふりかえろう

*効果的に伝えるために、どんな形式を選び、どのように表現を工夫したか。

*思い出したことから、どのような理由で書くことを選んだか。

これらの視点で
学習をふりかえらせ、
文章に書かせる。

*友だちの表現の工夫で、自分の使ってみたいものはどれか。

72

題材名 「今、わたしは、ぼくは」①（第1時／全2時間）

目標 補習校生活を振り返って思うことを、スピーチ原稿にまとめることができる。

領域名 A 話すこと聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「今、わたしは、ぼくは」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 補習校生活を振り返って思うことを、スピーチ原稿にまとめよう ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ 教科書を読み、伝えたい相手を決め、スピーチをするという学習の見通しを持たせる。 「教科書P. 213～215 を読み、学習の見通しを持とう」 ・指名読みさせる。挙手による希望者でもよい。 ・次のことを確認する。 i 伝えたいことを決める。 ii 伝えたい相手は、クラスの友達とする。 iii 内容の構成を考える。 iv （次時）学級内スピーチを行う。 ④ 「伝えたいこと」を決め、ワークシートに記入させる。 「これまでの補習校生活をふり返って、伝えたいことを決めよう 具体的な内容をワークシートにメモ書きしてみよう」 ・「伝えたいこと」とその具体的内容を考えさせる。P. 206 を参考にさせる。 ⑤ 構成を考えさせる。 「P. 213 の<矢島さんの例>を参考にして、『初め・中・終わり』という形の構成を考えよう」 「ワークシートに構成を記入しよう」 ・初め部分では、問いかけや内容の紹介を、中部分で、具体的な思い出や自分の思ったことなどを、終わり部分では、クラスメートへの感謝等の思いや自分の決意を述べるように助言する。	・教科書を読み、伝えたい相手を決め、スピーチをするという学習の見通しを持つ。 ・「伝えたいこと」を決め、ワークシートに記入する。 ・構成を考える。
終 5分	⑥ スピーチ原稿を書かせる。 「が決まったら、スピーチ原稿を書こう。話し言葉で書こう」 ・スピーチ原稿なので、話しかける言葉にするように助言 個別指導する。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、学級内スピーチをしよう」 ・仕上がらない場合は、家庭での課題とする。	・スピーチ原稿を書く。 ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○ 原稿のチェックを

- ・今回はほかの作文とは違い、スピーチなので話し言葉で書かせたい。日本語らしいスピーチになるように原稿の段階の個別指導で、十分にチェックをする。

板書例

① 題材名を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「補習校生活を振り返って思うことを、スピーチ原稿にまとめよう」
- ・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ 教科書を読み、伝えたい相手を決め、スピーチをするとう学習の見通しを持たせる。

「教科書 p.213～P.215 を読み、学習の見通しを持とう。」

今、わたしは、ぼくは

補習校生活を振り返って思うことを、スピーチ原稿にまとめよう。

○伝えたい相手を決め、スピーチをしよう

1 伝えたいことを決める。

2 伝えたい相手は、クラスの友達とする

3 内容の構成を考える。

4 (次時) 学級内スピーチを行う。

○これまでの補習校生活を振り返って、伝えたいことを決めよう。

○構成を考えよう

初め・問いかけや内容の紹介を

中・具体的な思い出や自分の思ったことなど

終わり・クラスメートへの感謝の思い

自分の決意

○スピーチ原稿を考えよう

④ 「伝えたいこと」を決め、ワークシートに記入させる。

「これまでの補習校生活を振り返って、伝えたいことを決めよう。
具体的な内容をワークシートにメモ書きしてみよう。」

⑤ 構成を考えさせる。

p.213 (矢島さんの例) を参考にして『初め・中・終わり』という形の構成を考えよう。「ワークシートに構成を記入しよう。」

⑥ スピーチ原稿を書かせる。

「構成が決まったら、スピーチ原稿を書こう。話し言葉で書こう。」

⑦ 次時の予告をする。

今、わたしは、ぼくは①
六年 組 名前 (

W
72
)

今日の学習のめあて

--

◎伝えたい相手を決め、スピーチをしよう。

- i 伝えたいことを決める。
- ii 伝えたい相手は、クラスの友達とする。
- iii 内容の構成を考える。
- iv (次時) 学級内スピーチを行う。

◎これまでの補習校生活をふり返って、伝えたいことを決めよう。

◎構成を考えよう。

初め	
中	
終わり	

今日の学習のめあて

補習校生活を振り返って思ふことを、スピーチ原稿にまとめよう。

◎伝えたい相手を決め、スピーチをしよう。

- i 伝えたいことを決める。
- ii 伝えたい相手は、クラスの友達とする。
- iii 内容の構成を考える。
- iv (次時) 学級内スピーチを行う。

◎これまでの補習校生活を振り返って、伝えたいことを決めよう。

◎構成を考えよう。

初め	問いかけや内容の紹介を
中	具体的な思い出や自分の思ふことなど
終わり	クラスメートへの感謝等の思ふや自分の決意

73

題材名 「今、わたしは、ぼくは」②（第2時／全2時間）
目標 補習校生活を振り返って思うことを、スピーチすることができる。。
領域名 A 話すこと聞くこと
学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「今、わたしは、ぼくは」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 補習校生活を振り返って思うことを、スピーチ原稿にまとめよう </div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 35分	③ スピーチの練習をさせる。 「P. 214～p. 215を参考に、話し方を工夫しながら、スピーチの練習をしよう」 ・P. 214～p. 215とともに、スピーチの注意点を確認させる。 ・「スピーチの注意点」は、予め模造紙等を書いておき、掲示するとよい。 ・個人練習時は、机間指導する。 ・できるかぎり原稿を見ずにスピーチできるように練習しておくことを伝える。 ④ 学級内スピーチを行わせる。 「『スピーチの注意点』に気をつけながら、できるだけ原稿を見ずに、友達に向けたスピーチをしよう」 「一人ずつの発表に対して感想を述べてもらうので、考えながら聞こう」 ・順序は、学級の実情に合わせて、教師が決めてよい。 ・原稿を棒読みしないように励ます。 ・感想発表は、話し方の態度や技能についてでもよいが、内容に沿った感想発表ができるように指導する。感想発表者に対して教師が質問し、内容にかかわる感想を誘い出すことも行う。 ・スピーチや感想発表に対して、教師が寸評したい。肯定的な評価をしたい。	・スピーチの練習をする。 ・学級内スピーチを行う。
終 5分	⑤ 学習を振り返り、感想を述べさせる。 「スピーチの学習をしてみての感想を発表しよう」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、漢字の広場」を学習します。	・学習を振り返り、感想を述べる ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- スピーチの注意点（・注意点・聞き手に伝えようとする態度が大事）
- | | | | |
|------------------|---------------|-----------|------|
| 1 姿勢よく、顔を聞き手に向けて | 3 声の大きさ強弱の付け方 | 6 間の取り方 | 落ち着き |
| 2 表情を内容に合わせて | 5 話し方の速さの工夫 | 4 はっきりした声 | |

板書例

① 題材名を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「補習校の思い出をクラスで語ろう。」
・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ スピーチの練習をさせる。
「p.214～P.215を参考に、話し方を工夫しながらスピーチの練習をしよう。」

今、わたしは、ぼくは

補習校の思い出をクラスで語ろう。

○スピーチの注意点

注意点・聞き手に伝えようとする態度が大事

- 1 姿勢よく、顔を聞き手に向けて
- 2 表情を内容に合わせて
- 3 声の大きさ 強弱の付け方
- 4 はっきりした声
- 5 話し方の速さの工夫
- 6 間の取り方 落ち着き

④ 学級内スピーチを行わせる。
「『スピーチの注意点』に気を付けながら、できるだけ原稿を見ずに、友達に向けたスピーチをしよう。」
「一人ずつの発表に対して感想を述べてもらうので、考えながら聞こう。」

⑤ 学習を振り返り、感想を述べさせる。
「スピーチの学習をしてみたの感想を発表しよう。」

⑥ 次時の予告をする。

今、わたしは、ぼくは②

六年 組 名前 (

今日の学習のめあて

スピーチの注意点

注意点・聞き手に伝えようとする態度が大事

- 1 姿勢よく、顔を聞き手に向けて
- 2 表情を内容に合わせて
- 3 声の大きさ、強弱の付け方
- 4 はっきりした声
- 5 話し方の速さの工夫
- 6 間の取り方 落ち着き

◎ 「今、わたしは、ぼくは」の学習をふり返って感想を書こう。

メモ

今、わたしは、ぼくは②

六年 組 名前 (

今日の学習のめあて

補習校の思い出をクラスで語ろう。

スピーチの注意点

注意点・聞き手に伝えようとする態度が大事

- 1 姿勢よく、顔を聞き手に向けて
- 2 表情を内容に合わせて
- 3 声の大きさと強弱の付け方
- 4 はっきりした声
- 5 話し方の速さの工夫
- 6 間の取り方 落ち着き

◎ 「今、わたしは、ぼくは」の学習をふり返って感想を書こう。

例・わたしは、自分の思い出と夢をスピーチしました。聞く人の心に残るように…

メモ

74

題材名 「漢字の広場⑥」（第1時／全1時間）

目標 教科書のイラストを見て、いつ、どんなことがあったのか、どんな気持ちだったのかを想像し、5年生で学習した漢字を用いて物語を書き表すことができる。

◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。

領域等 知識及び技能

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「漢字の広場⑥」を黒板に書く。	
展開 30分	② 本時の目標を黒板に書く。 イラストを見て、いつ、どんなことがあったのか、場面の様子を想像して文章に書き表そう	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
	③ P.216に出てくる漢字を教師が範読し、児童に一斉読みをさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞く。教師の範読後、声を合わせて読む。
	④ P.216のイラストから気づいたことや感じたことを交流させ、それぞれの場面のイメージが膨らむようにさせる。 ・本時の学習活動への導入のための意見交流なので、時間はかける必要はない。児童に気づいたことや感じたことを自由に出させることで、イメージを持ちづらい子どもへのヒントとしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストからそれぞれの場面で気づいたことや感じたことを発表する。
	⑤ イラストから想像した場面の様子を文章に書かせる。 ・クラスの人数や子どもの漢字の能力に応じ、ペアやグループで書かせたり、場面ごとに分担して書かせたりしてもよい。 ・考えさせた後、クラス全体に紹介できるような発表用の短冊とペンを用意しておき、出来上がった文章を書かせておくとよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストの場面の様子を想像して文章で書き表す
終末 10分	⑥ 書いた文章を交流させる。 ・ただ読み上げさせるだけでなく、黒板に書かせたり、発表用の短冊に書いたものを貼りだしたりさせることで、よりクラス全体に広めやすくする。 ※順番に黒板に書かせていると時間もかかるので、前もって発表用の短冊を用意しておくほうが時間の効率がよい。	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を友だちと紹介し合う。
	⑦次時の予告をする。 ・「次の時間は、『海の命』を学習します。」	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の見通しを持つ。

指導のポイント

○漢字の定着を図るために

- ・授業の中で、漢字を読む作業、書く作業の時間をしっかりと確保する。作業を繰り返すことで定着を図りたい。そのために、学習活動①～④は効率的に短時間で済ませ、⑤・⑥の学習活動に重点を置く学習展開にする。

板書例

①題材名「漢字の広場⑥」を黒板に書く。

②本時の目標を児童に知らせる。

- ・「イラストを見て、いつ、どんなことがあったのか、場面の様子を想像して文章に書き表そう」
- ・ワークシートを配布し、書き込ませる。

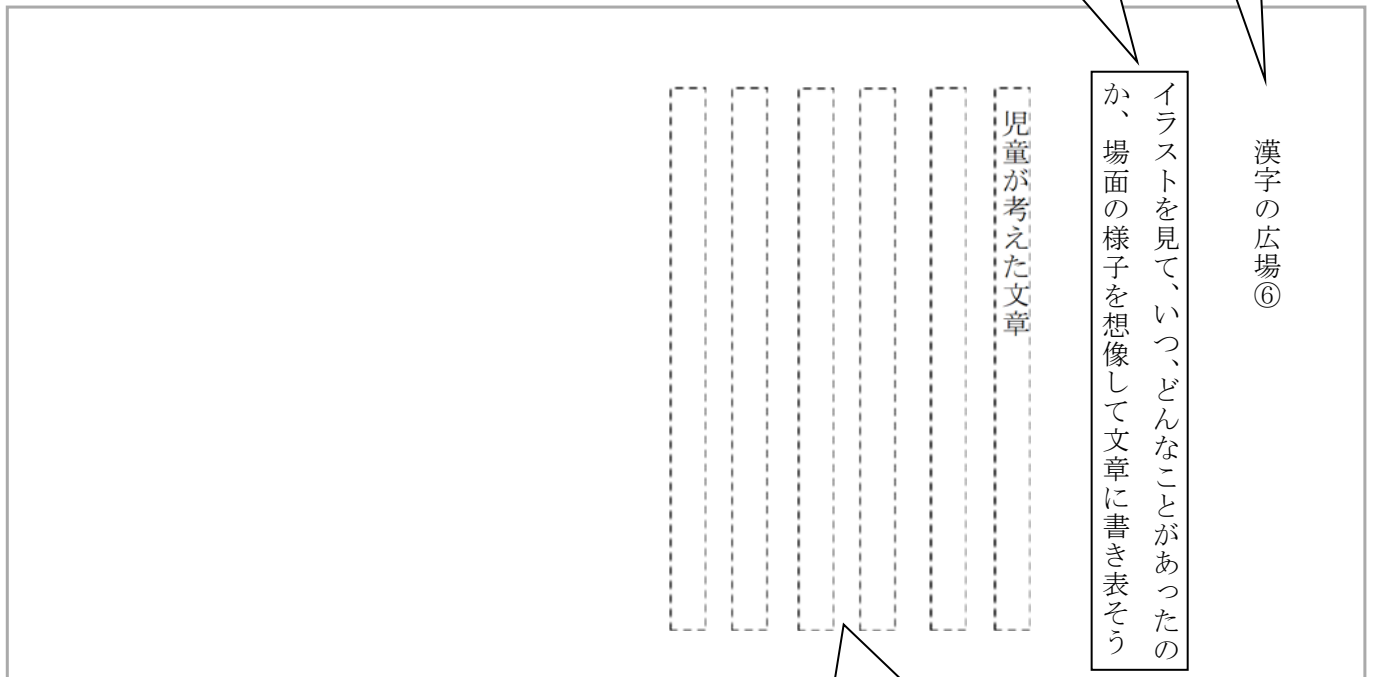
③P.216に出てくる漢字を教師が範読する。その後、児童に一齐読みをさせる。

④P.216のイラストから気づいたことや感じたことを自由に交流させる。文章づくりをすると時のヒントにさせる。

(例) 修学旅行で新幹線に乗って出かけた。

サッカー部に所属していて、シュートが得意だ。

文章を考えさせるための導入なので、ここではそれほど時間はかけない。



⑤想像した場面の様子を文章に書かせる。児童の人数や漢字の能力に応じ、適宜、ペアやグループで取り組ませてもよい。

※可能であれば発表用の短冊を準備しておき、考えたものを書かせておくと、発表・交流のとき、効率的に進めることができる。

⑥書いた文章を交流させる。

※ただ読み上げさせるのではなく、短冊に書いて貼りだしたり、黒板に書かせたりして、全体に広める。

⑦次時の予告をする。「次の時間は、『海の命』を学習します。」

今日のめあて

名前（

）

--

今日のめあて イラストを見て、いつどんなことがあったのか、場面の様子を想像して文章に書き表そう。

〔例〕 修学旅行は、新幹線に乗って出かけた。

サッカー部に所属していて、シュートが得意だった。

など

75

題材名 「海の命」①（第1時／4時間）
目標 「海の命」を読み、登場人物の相互関係をとらえることができる。
領域名 C 読むこと
学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「海の命」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「海の命」を読み、登場人物について考えよう</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展 開 35 分	③ 「海の命」を音読し、登場する人物をつかませる。 「『海の命』にはどんな人たちが出てくるのだろう」。 ・太一、父、与吉じいさ、母などは登場する。 ④ 登場人物が「太一」にどのような影響を与えたのか考えさせる 「P.218、221、224の3つの文章についてだれが、どんな場面で言ったのか、太一はどう受け止めたのか考えよう」 ・太一がいろいろな人たちとのかかわりの中で成長していくことに気づかせたい。 ・「海のめぐみだからなあ。」 もぐり漁師の「父」 大物をしとめたとき。 もっとじまんすればいいのに… ・「千びきに一びきでいいんだ…」 漁の師匠である「与吉じいさ」 つりをしながら。 もっとつればいいのに…自分もつりたい ・「おまえが、おとうの…」 海で夫を亡くした「母」 太一が屈強な若者になったとき 母の気持ちもあるが父の瀬にもぐりたい ⑤ 書いた考えを発表し合わせる。 「書いた自分の考えを発表し合おう」 ・友達の発表を好意的、肯定的に受け止める様子を賞賛し雰囲気高める。	・「海の命」を音読し、登場する人物をつかむ。 ・登場人物が「太一」にどのような影響を与えたのか考える。 ・書いた考えを発表し合う。
終 5 分	⑤ 宿題（音読・漢字）の確認をする。 ⑥ 次時の予告をする。「次の時間は、太一の考え方が大きく変わった場面について読み取ろう」	・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

○ 「海の命」について

- ・太一が周囲の人々とかかわる中で、成長していく。成長期にある6年生の児童にも共感できる部分がある作品である。文章をていねいに読ませることで、太一的心情、場面の描写をしっかりとつかませたい。

板書例

① 題材名を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・『海の命』を読み、登場人物について考えよう。」
- ・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ 「海の命」を音読し、登場する人物をつかませる。
『海の命』にはどんな人たちが出てくるのだろう。」

海の命

「海の命」を読み、登場人物について考えよう。

○登場人物

・ 太一

・ 父

・ 与吉じいさ

・ 母

○だれが、どんな場面で言ったのか、太一はどう受け止めたのか考えよう。

・ 「海のめぐみだからなあ。」

もぐり漁師の「父」

大物をしとめたとき。

もっとじまんすればいいのに…

・ 「千びきに一びきでいいんだ…」

漁の師匠である「与吉じいさ」

つりをしながら。

もっとつればいいのに…自分もつりたい

・ 「おまえが、おとうの…」

海で夫を亡くした「母」

太一が屈強な若者になったとき

母の気持ちもあるが父の瀬にもぐりたい

④ 登場人物が「太一」にどのような影響を与えたのか考えさせる。

「P.218、221、224の3つの文章についてだれが、どんな場面で言ったのか、太一はどう受け止めたのか考えよう。」

⑤ 書いた考えを発表し合わせる。

「書いた自分の考えを発表し合おう。」

⑥ 次時の予告をする。

海の命①

六年 組 名前 (

W
75
)

今日の学習のめあて

--

◎登場人物

◎だれが、どんな場面で言ったのか、太一はどう受け止めたのか考えよう。

- ・「海のめぐみだからなあ。」

だれが
どんな場面で
「太一」はどう受け止めた

- ・「干ひきにひびきいんだ —— ずいぶん海も生きてるぞ。」

だれが
どんな場面で
「太一」はどう受け止めた

- ・「おまえが、おとうの死んだ瀬にもぐると —— おまえの心の中が見えるぞ。」

だれが
どんな場面で
「太一」はどう受け止めた

海の命①

六年 組 名前 (

W 75)

今日の学習のめあて

「海の命」を読み、登場人物について考えよう。

◎登場人物

・ 太一	・ 母
・ 父	
・ 与吉じいぢ	

◎だれが、どんな場面で言ったのか、太一はどう受け止めたのか考えよう。

・ 「海のめぐみだからなあ。」

だれが	めぐり漁師の「父」
どんな場面で	大物をしとめたとき。
「太一」はどう受け止めた	もつとじまんすればいいのに…

・ 「干びきに一ひきでいいんだ —— ずつとりの海で生きていけるぞ。」

だれが	漁の師匠である「与吉じいぢ」
どんな場面で	つりをしながら。
「太一」はどう受け止めた	もつとつればいいのに…自分もつりたい

・ 「おまえが、おとらの死んだ瀬にもぐると —— おまえの心の中が見えるものだ。」

だれが	海で夫を亡くした「母」
どんな場面で	太一が屈強な若者になったとき
「太一」はどう受け止めた	母の気持ちもあるが父の瀬にもぐりた

題 材 名 「海の命」(第2時/全4時間)

目 標 ・ 「太一」の考え方(生き方)を変えたきっかけについて考えることができる。

領 域 等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「海の命」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「海の命」を読み、太一の考え方(生き方)を変えたきっかけを考えよう ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展 開 38 分	③ 太一のクエに対する思いを表した叙述を読み取らせる。 「父を破ったクエに対する太一の思いが分かる表現を、書かれている限りすべて抜き出そう」 ・ クエに対する敵愾心を読み手に感じさせる表現を見のながさないようにさせたい。 ・ 母の言葉の中にある太一の思い ・ 小さなクエには興味が持てないという叙述 ・ 「追い求めているうちに、不意に夢は実現するものだ」の叙述が意味すること ・ 自分が追い求めてきたまぼろしの魚という叙述 ④ 太一のクエに対する思いの変化を表した叙述を読み取らせる。 「クエに対する気持ちの変化が分かる表現を、見つけて書き出そう」 ・ クエを倒すことをためらい、やめるまでの感情が分かる表現。行動、表情等も含む。 ・ この大魚は自分に殺されたがっている ・ こんな感情になったのは初めてだ ・ ふっとほほえみ ・ もう一度えがおを作った ・ 瀬の主を殺さないで済んだ ・ 大魚はこの海の命だ ⑤ クエに対する太一の思いがどう変わったかをみんなで考えさせる。 「クエに対するまでの太一の思いはどうだったのだろう。また、クエに対したときの太一の考えはどう変わったのだろう」 ・ 父を破った大魚を自分の手で仕留めたいという思い ・ 父の敵を討ちたい ・ 父すら倒せなかった大魚を自分が倒したい(父を越えたい) ・ 大魚クエを殺してはいけない。やめよう。	・ 太一のクエに対する思いを表した叙述を読み取る。 ・ 太一のクエに対する思いの変化を表した叙述を読み取る。 ・ クエに対する太一の思いがどう変わったかをみんなで考える。
終 末 2 分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、太一の生き方について考えよう」	・ 次時の見通しを持つ。

① 題材名「海の命」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・ 「「海の命」を読み、太一の考え方（生き方）を変えたきっかけを考えよう」
- ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 太一のクエに対する思いを表した叙述を読み取らせる。
「父を破ったクエに対する太一の思いが分かる表現を、
書かれている限りすべて抜き出そう」

④ 太一のクエに対する思いの変化を表した叙述を読み取らせる。
「クエに対する気持ちの変化が分かる表現を、見つけて書き出そう」

板書例

海の命

「海の命」を読み、太一の考え方（生き方）を
変えたきっかけを考えよう

◎ 父を破ったクエに対する太一の思いが分かる表現

- ・ 母の言葉の中にある太一の思い
- ・ 小さなクエには興味を持ってないという叙述
- ・ 「追い求めているうちに、不意に夢は実現するも
のだ」の叙述が意味すること
- ・ 自分が追い求めてきたまぼろしの魚

◎ 太一のクエに対する思いの変化

- ・ この大魚は自分に殺されたがっている
- ・ こんな感情になったのは初めてだ
- ・ ふっとほほえみ
- ・ もう一度えがおを作った
- ・ 瀬の主を殺さないで済んだ
- ・ 大魚はこの海の命だ

◎ クエに対する太一の思いがどう変わったか

- ・ 父を破った大魚を自分の手で仕留めたい
という思い
- ・ 父の敵を討ちたい
- ・ 父すら倒せなかった大魚を自分が倒したい
（父を越えたい）
- ・ 大魚クエを殺してはいけない。やめよう。

⑤ クエに対する太一の思いがどう変わったかをみんなで考えさせる。
「クエに対するまでの太一の思いはどうだったのだろう。
また、クエに対したときの太一の考えはどう変わったのだろう」

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、太一の生き方について考えよう」

今日の学習のめあて

--

◎父を破ったクエに対する太一の思いが分かる表現

◎太一のクエに対する思いの変化

◎クエに対する太一の思いがどう変わったか

今日の学習のめあて

「海の命」を読み、太一のお考え(生き方)を変えたきっかけを考えよう。

◎父を破ったクエに対する太一の思いが分かる表現

	<ul style="list-style-type: none"> ・母の言葉の中にある太一の思い ・小さなクエには興味が持てないという叙述 ・「追い求めているうちに、不意に夢は実現するものだ」の叙述が意味すること ・自分が追い求めてきたまぼろしの魚
--	--

◎太一のクエに対する思いの変化

例・この大魚は自分に殺されたがっている
・こんな感情になったのは初めてだ
・ふつとほほえみ
・もう一度えがおを作った
・瀬の主を殺さないで済んだ
・大魚はこの海の命だ

◎クエに対する太一の思いがどう変わったか

例・父を破った大魚を自分の手で仕留めたいという思い
・父の敵を討ちたい
・父すら倒せなかった大魚を自分が倒したい(父を越えたい)
・大魚クエを殺してはいけない。やめよう。

題材名 「海の命」(第3時/全4時間)

目標 ・ 「太一」の生き方について考え、自分なりの感想をもつことができる。

領域等 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導入 5分	① 題材名「海の命」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 太一の生き方を考え、自分なりの感想を持つ ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。	・ 本時の目標を知る。 ・ 目標を声を合わせて読む。
展開 38分	③ クエを殺すのをやめたきっかけを、みんなで考えさせる。 「太一は、クエに対する考えや行動を大きく変えたが、そのきっかけとなったのはどんなことだろう」 ・ 父や与吉じいさの言葉が太一の漁師としての根幹となる感情を育てていたのだから、それらの言葉をぜひ出させたい。 ・ 動こうとしないクエ。クエのおだやかな目。あるがままを受け入れる生き物の姿に命の尊さを感じ取り、父や与吉じいさの教えに立ち返ることができたのだから、このクエの様子もぜひ出させたい。 ④ 一つの叙述にこだわって思いを考えさせる。 『太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ』とあるが、『済んだ』という表現から、どんなことが分かるだろう。 ・ 殺さなかったのがよいことだったということは分かるだろう。 ・ なぜ、殺さなかったことがよいことだったのか、③で読み取ったことと関連づけさせたい。	・ クエを殺すのをやめたきっかけを、みんなで考える。 ・ 一つの叙述にこだわって思いを考える。
終末 2分	⑤ 太一の生き方をどう思うか、自分なりの感想を書き、発表させる。 「クエを倒すことをやめた太一の生き方についてどう思うか、感想を書いてみよう」 ⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、登場人物の生き方について考えよう」	・ 太一の生き方をどう思うか、自分なりの感想を書き、発表する。 ・ 次時の見通しを持つ。

指導のポイント

- 「太一」の成長を
 - ・ 「海の命」の山場の場面である。「太一」のクエに対する考え方の変化が詳しく書かれている。クエは海の命の象徴であり、それは、自然、環境などへつながるものである。「太一」が一人の漁師として、人間として成長していく姿を読み取らせたい。

① 題材名「海の命」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・ 「太一の生き方を考え、自分なりの感想を持とう」
- ・ ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ クエを殺すのをやめたきっかけを、みんなで考えさせる。
「太一は、クエに対する考えや行動を大きく変えたが、そのきっかけとなったのはどんなことだろう」

④ 一つの叙述にこだわって思いを考えさせる。

「『太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ』とあるが、『済んだ』という表現から、どんなことが分かるだろう」

板書例

海の命

太一の生き方を考え、自分なりの感想を持とう

◎クエを殺すのをやめたきっかけ

- ・ 父や与吉じいさの言葉。
 - ・ 動こうとしないクエ。クエのおだやかな目。
- 父や与吉じいさの教えに立ち返ることができた

◎「済んだ」という表現から、

- どんなことが分かるだろう
- ・ 殺さなかったのがよいことだった。
- ・ 海の命だから
- ・ 父の姿をクエに見たから

◎太一の生き方をどう思うか、自分なりの感想を書こう。

⑤ 太一の生き方をどう思うか、自分なりの感想を書き、発表させる。

「クエを倒すことをやめた太一の生き方についてどう思うか、感想を書いてみよう」

⑥ 次時の予告をする。

「次の時間は、登場人物の生き方について考えよう」

78

題材名 「海の命」④（第4時／4時間）

目標 登場人物の生き方について考え、自分なりの考えをもつことができる。

領域名 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「海の命」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">登場人物の生き方を考え、自分なりの考えを持つ</div> ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知り、ワークシートに書く ・声を合わせて目標を読む。
展 開 35 分	③ 「父」の生き方について考えさせる。 「『父』はどんな生き方をしたのだろう。それに対して自分は どう思うか書いてみよう」 ・もぐり漁師として一生をきた「父」について読み取らせ たい。 ・村いちばんのもぐり漁師で、瀬の主であるクエとたた かった。太一のがれであり乗り越えたい目標でも ある。 ④ 「与吉じいさ」の生き方について考えさせる。 「『与吉じいさ』はどんな生き方をしたのだろう。それに対 して自分はどう思うか書いてみよう」 ・漁師の師匠である「与吉じいさ」について読み取らせたい ・ベテランの漁師で、無理やり弟子入りした太一を一人 前の漁師に育ててくれた。 ⑤ それぞれの生き方と自分の考えについて発表し合わせる。 「それぞれの生き方に対する自分の考えを発表しよう」 ・児童の考えを発表し合わせることで、考えを広げたり深め たりさせたい。	・「父」の生き方について考える ・「与吉じいさ」の生き方について考える。 ・それぞれの生き方と自分の考えについて発表し合う。
終 5 分	⑥ 宿題（音読・漢字）の確認をする。 「次の時間、中学校へつなげよう／生きる」を学習します。	・次時の見通しをもつ。

指導のポイント

○ 自分なりの考えを

・物語を読むと、日常とは違う世界に入り、登場人物と出会い、その生き方や考え方にふれることができる。自我の芽生えるころの子どもたちには、多くの人々、物語と出会って、自分の生き方や考え方を広げたり、深めたりさせたい。その中で、自分なりの生き方、考え方を徐々に確立していく。より多くの出会いが、より豊かな人生につながる。子どもたちには、機会あるごとに読書を勧めたい。

板書例

① 題材名を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・「登場人物の生き方を考え、自分なりの考えを持とう。」
- ・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ 「父」の生き方について考えさせる。

『父』はどんな生き方をしたのだろう。それに対して自分は どう思うか書いてみよう。」

海の命

登場人物の生き方を考え、自分なりの考えを持とう。

○「父」の生き方について考えよう。

・村いちばんのもぐり漁師で、瀬の主であるクエとたたかった。太一があこがれでもあり乗り越えたい目標でもある。

○「与吉じいさ」の生き方について考えよう。

・ベテランの漁師で、無理やり弟子入りした太一を一人前の漁師に育ててくれた。

○それぞれの生き方と自分の考えについて発表しよう。

④ 「与吉じいさ」の生き方について考えさせる。

『与吉じいさ』はどんな生き方をしたのだろう。それに対して自分は どう思うか書いてみよう。」

⑤ それぞれの生き方と自分の考えについて発表し合わせる。

「それぞれの生き方に対する自分の考えを発表しよう。」

⑥ 次時の予告をする。

今日の学習のめあて

登場人物の生き方を考え、自分なりの考えを持つ。

◎『父』はどんな生き方をしたのだろうか。それに対して自分はどう思うか書いてみよう。

例・村いちばんのもぐり漁師で、瀬の主であるクエとたたかった。太一のあこがれであり乗り越えたい目標でもある。…

◎『与吉いそ』はどんな生き方をしたのだろうか。それに対して自分はどう思うか書いてみよう。

例・ベテランの漁師で、無理やり弟子入りした太一を一人前の漁師に育ててくれた。…

題材名 「生きる」(第1時/全1時間)
目標 「生きる」に描かれている、生きることの意味を読み取ることができる。
領域名 C 読むこと
学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動															
導入 5分	① 題材名「生きる」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 「生きる」に描かれている、生きることの意味を読み取ろう ・ワークシートを配付し、書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。															
展開 35分	③ 各連に描かれている「生きているということ」の中身を考えさせる。 「詩全体の特徴で気づくことはあるかな」 「どの連も同じ書き出しで、同じ調子で描かれているけれど、内容もまったく同じだろうか。比べて考えてみよう」 ・「ということ」で統一された文末表現。各連の1～2行が「生きているということ/いま生きているということ」の反復であること。 ・各連で具体的に描かれていることを抜き出して考えさせる ・1つの連の中の具体的なことの共通する性質を考えてみる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="0"> <tr> <td>第一連</td> <td>のどがかわく/木もれ陽がまぶしい ふとメロディを思い出す くしゃみをする/手をつなぐ</td> <td>『何気ない日常の中で自然に生きる』</td> </tr> <tr> <td>第二連</td> <td>ミニスカート/プラネタリウム ヨハン・シュトラウス/ピカソ/アルプス</td> <td>『美しいものに感動し、悪をこぼんで生きる』</td> </tr> <tr> <td>第三連</td> <td>泣ける/笑える/怒れる</td> <td>『感情を自由に表現しながら生きる』</td> </tr> <tr> <td>第四連</td> <td>「いま」という同じ瞬間に地球上で 起こっている出来事</td> <td>『一見無関係なものとも同じ時を生きる』</td> </tr> <tr> <td>第五連</td> <td>鳥ははばたく/海はとどろく かたつむりははう/人は愛する</td> <td>『本来の生き方で命を感じながら生きる』</td> </tr> </table> </div>	第一連	のどがかわく/木もれ陽がまぶしい ふとメロディを思い出す くしゃみをする/手をつなぐ	『何気ない日常の中で自然に生きる』	第二連	ミニスカート/プラネタリウム ヨハン・シュトラウス/ピカソ/アルプス	『美しいものに感動し、悪をこぼんで生きる』	第三連	泣ける/笑える/怒れる	『感情を自由に表現しながら生きる』	第四連	「いま」という同じ瞬間に地球上で 起こっている出来事	『一見無関係なものとも同じ時を生きる』	第五連	鳥ははばたく/海はとどろく かたつむりははう/人は愛する	『本来の生き方で命を感じながら生きる』	・各連に描かれている「生きているということ」考える。
第一連	のどがかわく/木もれ陽がまぶしい ふとメロディを思い出す くしゃみをする/手をつなぐ	『何気ない日常の中で自然に生きる』															
第二連	ミニスカート/プラネタリウム ヨハン・シュトラウス/ピカソ/アルプス	『美しいものに感動し、悪をこぼんで生きる』															
第三連	泣ける/笑える/怒れる	『感情を自由に表現しながら生きる』															
第四連	「いま」という同じ瞬間に地球上で 起こっている出来事	『一見無関係なものとも同じ時を生きる』															
第五連	鳥ははばたく/海はとどろく かたつむりははう/人は愛する	『本来の生き方で命を感じながら生きる』															
終 5分	④ 「生きる」から感じたことを感じたままに書かせる。 「『生きる』の何連が気に入ったかな。また、それはなぜだろう」 「『生きる』からどんなことを感じたかな。思ったこと、感じたこと、考えさせられたことを書いてみよう」 ・5つの連それぞれの特徴が分かったところで、どの連にひかれるかを考えることは、詩を自分に引きつけて考えるきっかけとなる。 ・なかなか感想を書けない子には、どの言葉、どの部分が印象に残っているかを尋ね、なぜかを考えさせるなどの助言をする。 ⑤ 感じたことを発表させる。 「自分の思いを発表し合い、友達の感想を聞き合おう」	・「生きる」から感じたことを感じたままに書く。 ・感じたことを発表する。															
	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、『今あなたに考えていて欲しいこと』を学習します宿題(音読・漢字)を確認する。	・次時の見通しを持つ。															

指導のポイント

- 「五月」と「十二月」の対比の観点
 - ・日光(昼)の世界と月光(夜)の世界
 - ・春の若やぐ世界と冬の落ち着きの世界
 - ・幼いかにの兄弟と少し成長した兄弟
 - ・柔らかな光の世界と鉾物や鋭い光の世界
 - ・動的でめまぐるしい世界と静寂の世界
 - ・恐怖の世界と平和な世界
 - ・恐怖をもたらす、命を奪うものと恵みをもたらすもの
- (「かわせみ」と「やまなし」という水中に飛び込んできたもの同士の対比)

板書例

① 題材名を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。

- ・『生きる』に描かれている、生きることの意味を読み取ろう。」
- ・ワークシートを配布し、書きこませる。

③ 各連に描かれている「生きているということ」の中身を考えさせる。

「詩全体の特徴で気づくことはあるかな」
「どの連も同じ書き出しで、同じ調子で描かれているけれど、内容もまったく同じだろうか。比べて考えてみよう。」

生きる

「生きる」に描かれている、生きることの意味を読み取ろう。

第一連 のどがかわく／木もれ陽がまぶしい

ふとメロディを思い出す
くしゃみをする／手をつなぐ

『何気ない日常の中で自然に生きる』

第二連 ミニスカート／プラネタリアム

ヨハン・シュトラウス／ピカソ・アルプス

『美しいものに感動し、悪をこぼんで生きる』

第三連 泣ける／笑える／怒れる

『感情を自由に表現しながら生きる』

第四連 「いま」という同じ瞬間に

地球上で起こっている出来事

『一見無関係なものとも同じ時を生きる』

第五連 鳥はぼたく／海はとどろく

かたつむりははう／人は愛する

『本来の生き方で命を感じながら生きる』

④ 「生きる」から感じたことを感じたままに書かせる。

「『生きる』の何連が気に入ったかな。また、それはなぜだろう。」

「『生きる』からどんなことを感じたかな。思ったこと、感じたこと、考えさせられたことを書いてみよう。」

⑤ 感じたことを発表させる。

「自分の思いを発表し合い、友達の感想を聞きあおう。」

⑥ 次時の予告をする。

今日の学習のめあて

Blank box for the purpose of today's learning.

◎詩全体の特徴

Large blank box for describing the overall features of the poem.

◎各連で具体的に描かれていることを抜き出そう。

	描かれているもの	連の中の具体的なことの共通する性質
1		
2		
3		
4		
5		

今日の学習のめあて

「生きる」に描かれている、生きることの意味を読み取ろう。

◎詩全体の特徴

例・どの連も同じ書き出しで、同じ調子で描かれている。
・ 「ということ」で統一された文末表現
・ 各連の「～」行が「生きていくということ／いま生きていくということ」の反復

◎各連で具体的に描かれていることを抜き出そう。

	描かれているもの	連の中の具体的なことの共通する性質
1	のどがかわく 木もれ陽がまぶしい ふとメロデーを思い出す くしやみをする 手をつなぐ	『何気ない日常の中で自然に生きる』
2	ミニスカート プラネタリウム ヨハン・シエトラウス ピカソ アルプス	『美しいものに感動し、悪をこぼんで生きる』
3	泣ける 笑える 怒れる	『感情を自由に表現しながら生きる』
4	「いま」という同じ瞬間に地球上で起こっている出来事	『一見無関係なものとも同じ時を生きる』
5	鳥ははばたく 海はどどろく かたつむりははらう 人は愛する	『本来の生き方で命を感じながら生きる』

80

題材名 目 標

「今、あなたに考えてほしいこと」(第1時/全1時間)
 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
 ◎これからの生活や学習に向けて取り組んでいきたいことを考えようとする。

領域等

C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	児童の活動
導 入 5 分	① 題材名「今、あなたに考えてほしいこと」を黒板に書く。 ② 本時の目標を黒板に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> これからの生活や学習で取り組んでいきたいことについて考えよう </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を知る。 ・目標を声を合わせて読む。
展 開 30 分	③ 本文を音読する。 教師が範読し、その後、児童に音読をさせる。希望者がいなければ指名読みか、それが難しいようであれば一斉読みをする。 ④ 筆者が言っている「あなたに考えてほしいこと」とはどんなことなのか本文の中の言葉から考えさせる。 ○想像力を働かせて、これからのことを考えていくと、みなが生き生き暮らせる社会を考え出すこともできるでしょう。 ○未来のことまで考えて生き方を探していくのが、今、求められている生き方ではないでしょうか。 ○難しいけれど、とても大事なことですし、すばらしいことを思いついたら、未来は今よりずっと楽しくなるに違いありません。 ・見つけ出すのに手間取るようであれば、最後の2つの段落に絞って考えさせるとよい。ただし、すぐにP246から見つけましょうではなく、「作者が考えてほしいと言っていることはどのあたりに書いてあるだろう?」「それは、考えてほしいことなのかな?」といった言葉がけをしながら子どもたちと一緒に絞っていきたい。 ⑤ 「これからの生活や学習で取り組んでいきたいことはなにか」自分の思いや考えを書かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読することをとおして語感を身に付ける。 ・筆者が言いたいと思っていることを考え発表する。
終 末 10 分	⑥ 自分の思いや考えを発表させる。 ⑦ 担任からの言葉を伝える。 ○1年間、或いは6年間で総括し、未来に羽ばたく子どもたちに向け、担任から言葉を送る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「これからの生活や学習で取り組んでいきたいこと」について文章に書く。 ・書いたことを発表する。 ・担任からの話を聞く。

指導のポイント

- 自分の思いや考えを表現させるために
 - ・この授業では、1年の締めくくり(小学校6年間の締めくくり)として、これからの未来に向け、自分はどう生きたいか、何を学びたいかということを読み取ったことをきっかけに考えさせたい。そのためには、授業前半の筆者の伝えたいことを読み取る場面だけにあまり時間をかけ過ぎず、後半の考えを文章に書き、発表する部分にもしっかりと時間を確保したい。

板書例

① 題材名「今、あなたに考えてほしいこと言葉の変化」を黒板に書く。

② 本時の目標を児童に知らせる。
・「これからの生活や学習で取り組んでいきたいことを考えよう。」
・ワークシートを配布し、書き込ませる。

③ 本文を読む。指名読み等、子どもの音読が難しいようであれば、教師の範読だけでもよい

④ 「あなたに考えてほしいこと」とはどんなことなのか考えさせる。
時間をかけずにすむよう、教師が子どもの言葉を端的にまとめながら黒板に書いていく。

今、あなたに考えてほしいこと

これからの生活や学習で取り組んでいきたいこと
について考えよう。

筆者が「あなたに考えてほしいこと」とは、どんなことだろう。

- ・想像力を働かせて、これからのことを考えていくと、みなが生きて暮らせる社会を考えだすことができるでしょう。
- ・未来のことまで考えて生き方を探していくのが、今、求められている生き方なのではないでしょうか。
- ・難しいけれど、とても大事なことですし、すばらしいことを思いついたら、未来は今よりずっと楽しくなるにちがいありません。

これからの生活や学習で取り組んでいきたいことはなんだろう

- ・よりよい社会を作るために勉強をしっかりとる
- ・環境を守り、生き物も動物も幸せに暮らせるようにしたい。

⑤ 「これからの生活や学習で取り組んでいきたいこと」について考え、文章に書かせる。

⑥ 発表した子どもの考えを端的にまとめて黒板に書くことで、他の子どもたちにも共有しやすいようにする。

⑦ 担任から子どもたちへの言葉。
・1年間の締めくくり（小学校6年間の締めくくり）となるような言葉を担任から子どもたちへ送る。

あなたに考えてほしいこと

名前（

今日のめあて

筆者が「あなたに考えてほしいこと」とはどんなことだろう

これからの生活や学習で取り組んでいきたいことを書こう

あなたに考えてほしいこと

名前)

今日のめあて

これからの生活や学習で取り組んでいきたいことについて考えよう。

筆者が「あなたに考えてほしいこと」とはどんなことだろう

- ・想像力を働かせて、これからのことを考えていくと、みなが生き生きと暮らせる社会を考えだすことができるでしょう。
- ・未来のことまで考えて生き方を探していくのが、今、求められている生き方なのではないでしょうか。
- ・難しいけれど、とても大事なことですし、すばらしいことを思いついたら、未来は今よりずっと楽しくなるにちがいありません。

これからの生活や学習で取り組んでいきたいことを書こう

筆者の投げかけに対し自分が考えたこと、思ったことなどを中心に文章に書かせる。